

3 (1) 報告事項

①令和6年度スポーツ推進施策の主な取組状況

- 基本施策1 県民がスポーツに親しむことができる環境の充実
 - 1 県民スポーツ機会創出事業…………… P1
 - 2 富山県武道館整備事業…………… P2
 - 3 文化・スポーツ施設予約システム導入推進事業…………… P3

- 基本施策2 たくましい子どもの育成と学校体育・スポーツの充実
 - 1 幼児期からの運動習慣形成推進事業…………… P4
 - 2 地域運動部活動推進事業…………… P5

- 基本施策3 全国や世界の檜舞台で活躍できる選手の育成
 - 1 TOYAMAアスリートマルチサポート推進事業…………… P8

- 基本施策4 スポーツを支える人材の育成と活用
 - 1 スポーツ指導者パスネットとやま…………… P9

- 基本施策5 スポーツを通じた地域の活性化
 - 1 富山マラソン…………… P10
 - 2 地域コミッションの設立に向けた調査研究事業…………… P11

基本施策 1

1 県民スポーツ機会創出事業

1 趣旨・目的

県民のスポーツ活動への参加を促進するため、県民がスポーツに親しむ機会を創出する。

2 概要

(1) Sport in Life (毎日の生活の中にスポーツを) の推進

○ 県民への啓発活動

ア 啓発のぼり旗掲出による周知

(2) プロモーター (スポーツ活動の推進者) 招聘

○ 登坂絵莉さん (元レスリング日本代表)

ア Sport in Life、ウェルビーイングの啓発協力

イ 日頃取り組んでいる運動の紹介

ウ 各プログラムへの参加



(3) Enjoy! スポーツ とやま2024の開催

○ 多世代に対応した複数のスポーツ教室等、参加者の志向や目的に合わせて自由に参加できる体験型のスポーツイベントを開催 (委託先: 県スポーツ協会)

ア 期 日 令和6年9月23日 (月・休)

イ 会 場 富山県総合運動公園 (屋内グラウンド、陸上競技場等)

ウ 内 容 ・ スポーツ教室 16教室
・ スポーツ体験 25体験
・ 包括連携協定締結企業・県関係課ブース
・ 飲食コーナー (キッチンカー) 等

エ 参加者数 延べ約6,300人



(4) 地域スポーツ教室の開催 (とやま週イチスポーツ推進事業)

○ 県内総合型地域スポーツクラブ連絡協議会加盟クラブで、誰でも取り組めるユニバーサルスポーツ種目やレクリエーション種目、フィットネス等の教室を継続して開催

(委託先: 県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会)

ア 開催教室数 14クラブ21教室

イ 参加者数 延べ3,742名



【器械体操 (ジュニア) 教室】



【みんなであそぼう
おじいちゃんといっしょ】

2 富山県武道館整備事業

- (1) 健康・スポーツ環境充実検討会（平成 30 年 8 月～令和元年 8 月）
⇒ 武道館機能を有する多目的施設を整備することが望ましいとの取りまとめ結果が報告された
- (2) 武道館機能を有する多目的施設整備基本計画検討委員会（令和元年 11 月～令和 2 年 4 月）
⇒ 「富山県武道館整備基本計画」を取りまとめ、公表

(3) 富山県武道館整備基本計画の見直し検討委員会

- ・設置目的：基本計画策定後（令和 2 年 4 月）の情勢の変化等を踏まえた整備方針の再検討
- ・委員長：堀田 朋基 氏（富山県スポーツ推進審議会会長）
- ・委員：学識経験者、経済界、スポーツ関係者、行政の方 9 名

令和 5 年 4 月 21 日	第 1 回 富山県武道館整備基本計画の見直しについて
令和 5 年 6 月 1 日	第 2 回 富山県武道館整備基本計画の見直しの方向性（案）について
令和 5 年 7 月 25 日	第 3 回 富山県武道館整備基本計画の改定（案）について
令和 5 年 8 月 1 日 ～ 8 月 18 日	「富山県武道館整備基本計画改定版（案）」に対する意見募集
令和 5 年 9 月 4 日 [定例記者会見]	「富山県武道館整備基本計画（改定版）の策定について」発表

(4) 富山県武道館整備基本計画【改定版】

施設機能	「武道競技の振興・競技力向上」に絞り込み (見直し前①武道競技の振興・競技力向上②スポーツ振興・健康増進③地域活性化・防災力向上)
整備予定地	県総合運動公園のびのび広場（富山市南中田）
施設規模	2 階建て 延床面積 12,000 m ² 程度
概算事業費	87.3～91.4 億円
維持管理・運営費	1.3 億円／年
整備スケジュール	令和 6 年度：基本設計、実施設計（～令和 7 年度） 令和 7 年度：施工者選定、建設工事（～令和 9 年度） 令和 9 年度：竣工、開館準備、開館

(5) 基本設計（令和 6 年 3 月～令和 6 年 11 月）、実施設計（令和 6 年 12 月～）

- ・基本計画（改定版）に基づき、基本設計をとりまとめ、公表（令和 6 年 11 月 19 日）
- ・基本設計に基づき、実施設計を実施中

3 文化・スポーツ施設の予約システム導入推進事業

1 目的

県内の文化・スポーツ施設等の施設予約における県民の利便性向上を図るため、市町村と共同で予約システムを導入するもの。

2 事業内容

(1) 対象施設

175 施設 (県・富山市・高岡市・朝日町)

導入施設一覧(総括表)

	スポーツ	文化	その他	計
県	9	8	7	24
富山市	37	0	30	67
高岡市	14	1	67	82
朝日町	2	0	0	2
	62	9	104	175

(2) 主な機能

空き状況の照会、利用申し込み、キャッシュレス決済等

(3) 稼働時期

令和7年3月31日～

基本施策 2

1 幼児期からの運動習慣形成推進事業（拠点自治体：小矢部市）

※スポーツ庁再委託事業「幼児期からの運動習慣形成プロジェクト」

(1) 運動遊びの重要性に関する普及等

- 保護者及び指導者等を対象に研修会や講演会（シンポジウム）を開催。普段から幼児や児童に関わる機会が多い大人の行動変容につなげ、子供たちの運動遊びの機会や運動時間の増加を図った。

指導者実技研修会	(魚津市)	10月 2日 (水)
シンポジウム	(富山市)	12月14日 (土)
指導者養成実技研修会	(富山市)	1月22日 (水)



(2) 運動遊びを経験できる環境の充実

- 親子で気軽に参加できるスポーツイベントを開催。家族と一緒に運動の楽しさを味わわせることで、運動するきっかけをつくり、子供たちの体を動かす動機付けを高めた。

Enjoy! スポーツとやま (オープニングプログラム)	(富山市)	9月23日 (月・休)
親子運動ひろば	(小矢部市)	10月12日 (土) 11月 9日 (土) 11月10日 (日)
キッズムーバーズアカデミー	(富山市)	11月 4日 (月・休) 12月14日 (土)



- 継続的に参加できる運動教室を開催。継続的に運動に親しめる環境の充実を図った。

ちびっこ運動あそび教室	(小矢部市)	10月 3日 (木) ~ 計10回
親子運動教室	(小矢部市)	11月24日 (日) ~ 計5回
障害児運動教室	(小矢部市)	8月11日 (日) ~ 計6回
エンジョイホッケーパーク	(小矢部市)	12月 7日 (土) ~ 計6回



- 保育所等への巡回指導を実施。県全体に幼児期からの運動遊びを普及・啓発を図った。

「パピップぽぽん体操」キャラバン隊	(南砺市)	12月 5日 (木)
	(入善町)	12月17日 (火)
親子運動遊び教室	(小矢部市)	1月15日 (水) ~ 計2回

2 地域運動部活動推進事業

(1) 令和6年度 県の取組み

①予算：59,015千円（国48,340千円 県10,675千円）

②国の実証事業（市町村へ再委託）

「運動部活動の地域移行に向けた実証事業」

高岡市、射水市、魚津市、氷見市、滑川市、黒部市、砺波市、
小矢部市、南砺市、上市町、立山町、朝日町

③県の補助金事業

50千円×移行クラブ数（域内で部活動の移行に伴い活動するクラブ数）

補助上限額：実証事業の対象外事業費と受益者負担を除く自主財源の1/2

④地域部活動検討委員会の開催（委員：学術経験者及び有識者、関係団体代表等）

第1回（5月21日）

- ・地域部活動支援事業について（報告）
- ・令和5年度地域部活動実証事業について（報告）
- ・令和6年度地域部活動実証事業について
- ・応援企業の登録の進捗状況、感謝状について
- ・今後の部活動の地域移行に向けた課題対策及び方向性について

第2回（11月5日）

- ・部活動の地域移行に係る市町村アンケートの結果
- ・令和6年度地域部活動実証事業について（中間報告）
- ・今後の部活動の地域移行に向けた課題対策及び方向性について

第3回（2月28日）

・講演「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議での検討状況及び部活動の地域展開の今後について」

- ・「応援企業感謝状」について
- ・令和6年度地域部活動実証事業について（報告）
- ・今後の部活動の地域移行に向けた課題対策及び方向性について

(2) 令和6年度 市町の取組み「運動部活動の地域移行に向けた実証事業」

○高岡市【市内全域を対象とした地域部活動方式】

- ・実施競技：軟式野球、バドミントン、バレーボール、ソフトテニス、陸上競技、バスケットボール、サッカー、卓球、水泳競技、ハンドボール、剣道、柔道、相撲、ソフトボール、体操・新体操、弓道
- ・実施回数：年12回程度 ※競技ごとに計画・立案
- ・運営主体：高岡市スポーツ協会及び高岡市地域クラブ

○射水市【市内全中学校（6校）を対象とした地域部活動方式】

- ・対象校：新湊中学校、新湊南部中学校、射北中学校、小杉中学校、小杉南中学校、大門中学校
- ・活動場所：体育館等（中学校体育施設及び公共体育施設）
- ・対象部活動：バスケットボール、剣道、柔道、ハンドボール、卓球、ソフトテニス、ソフトボール、バレーボール
- ・運営主体：射水市教育委員会

○魚津市【市内全中学校（2校18部活動）を対象とした地域クラブ活動方式】

- ・対象校：魚津西部中学校、魚津東部中学校
- ・実施競技：陸上競技、水泳、ラグビー、サッカー、柔道、剣道、バレーボール、バドミントン
- ・活動場所：各中学校体育施設及び市内社会体育施設
- ・運営主体：魚津市教育委員会

○氷見市【市内全域を対象とした地域部活動方式】

- ・対象校：氷見南部中学校 氷見北部中学校、十三中学校、西條中学校、西の杜学園
- ・実施競技：男子バレーボール、男子バスケットボール、ソフトテニス
- ・活動場所：中学校体育施設及び公共体育施設（体育館、テニスコート等）
- ・運営主体：氷見市教育委員会

○滑川市【市内全中学校（2校18部活動）を対象とした地域部活動方式】

- ・対象校：滑川中学校、早月中学校
- ・活動場所：市内中学校体育施設及び公共体育施設
- ・対象部活動：（両校）バドミントン、バスケットボール、ソフトテニス、バレーボール、陸上競技（滑川中学校）軟式野球、ソフトボール
- ・運営主体：滑川市教育委員会

○黒部市【市内全中学校（2校24部活動）を対象とした地域部活動方式】

- ・対象校：明峰中学校 清明中学校
- ・対象部活動：（明峰）女子バレーボール、男子バスケットボール、女子バスケットボールアーチェリー
（両校）陸上競技、柔道、剣道、バドミントン、卓球、ソフトテニス
軟式野球
- ・運営主体：黒部市教育委員会

○砺波市【市内全中学校（4校）を対象とした地域部活動方式】

- ・対象校：出町中学校、庄西中学校、般若中学校、庄川中学校
- ・実施競技：陸上競技、軟式野球、ソフトテニス、卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、サッカー、柔道、剣道
- ・活動場所：学校体育施設及び社会体育施設
- ・対象部活動：実施競技と同様
- ・運営主体：砺波市教育委員会

○小矢部市【市内全域を対象とした地域部活動方式（複数、合同、単独）】

- ・対象校：石動中学校、大谷中学校、津沢中学校、蟹谷中学校
- ・活動場所：隣接体育施設（ホッケー場、グラウンド、武道館、体育館等）
- ・対象部活動：ホッケー（石動中学校、大谷中学校、津沢中学校、蟹谷中学校）
野球（石動中学校、大谷中学校、津沢中学校、蟹谷中学校）
柔道（石動中学校）
サッカー（石動中学校、大谷中学校、蟹谷中学校）
バレーボール（石動中学校、大谷中学校、津沢中学校、蟹谷中学校）
ソフトテニス（石動中学校、大谷中学校）
- ・運営主体：（委託先）NPO法人おやべスポーツクラブ

○南砺市【地域に根差した拠点競技を選定し、持続可能にする地域部活動方式】

- ・種目及び参加校：ソフトテニス（城端中学校、福野中学校）、剣道（井波中学校）
ソフトボール（吉江中学校）、陸上・スキー（城端中学校）
バドミントン（福野中学校、平中学校、南砺つばき学舎、利賀学舎）
なぎなた（福野中学校）、卓球（福光中学校、吉江中学校）、
バレーボール（井波中） 野球（市内中・義務教育学校）、
サッカー（市内中・義務教育学校）
- ・運営主体：南砺市教育委員会、スポーツ協会、競技団体

○上市町【地域クラブ（完全移行）と学校部活動の併用方式】

- ・拠点校：上市中学校
- ・活動場所：体育館等（小・中学校体育館及び公共体育施設）
- ・対象競技：【地域クラブ】バスケットボール、カヌー、硬式テニス、バドミントン、
柔道剣道、空手道
【部活動】陸上競技、ソフトテニス、軟式野球、バレーボール、卓球
- ・運営主体：上市町教育委員会、上市町地域クラブ推進協議会、各地域クラブ

○立山町【学校部活動を軸に地域指導者を活用する地域部活動方式】

- ・拠点校：雄山中学校
- ・活動場所：雄山中学校体育館、武道館及び町内体育施設（体育館、武道館等）
- ・対象競技：バドミントン、剣道、卓球
- ・運営主体：立山町教育委員会、各競技協会

○朝日町【文化部を含めた地域クラブ活動方式】

- ・拠点校：朝日中学校
- ・活動場所：隣接体育施設（体育館、武道館、グラウンド、テニス場等）
- ・対象競技：バスケットボール、陸上競技、卓球、剣道、柔道、ソフトテニス、
野球、バレーボール
- ・運営主体：朝日町型部活動コミュニティクラブ

1 TOYAMA アスリートマルチサポート事業

1. 目的

全国や世界の檜舞台で活躍できるアスリートの育成のために、各種強化事業と併せ、監督、コーチ、スポーツドクター等の連携のもとスポーツ医・科学的サポートを積極的に展開するとともに、県内施設を活用したトレーニングの一貫指導体制の構築を目指す。

2. 概要

○TOYAMA アスリートマルチサポート委員会開催 年2回

・スポーツ医・科学に基づいたサポートを実施するため、サポート推進のための方策、サポートに関する技術的・専門的事項等について審議する。

○スタッフミーティング

・競技団体やサポート選手、サポートスタッフや指導員の抱えている課題に対し多方面からの専門的スタッフを介し、さらに充実したサポートができるよう協議する。

○サポート事業

【サポート対象競技及び選手】

- ・富山県スポーツ協会強化指定選手（国民スポーツ大会実施41競技団体）
- ・富山県スポーツ協会エリートユース育成事業生（競技団体認定者）
- ・オリンピック競技種目中央競技団体代表選手（A代表、ジュニア指定含む）
- ・富山県スポーツ振興重点施策 重点強化種目（高校サッカー、高校野球、駅伝）指定選手

【サポート内容】

(1) スポーツ医学サポート

・メディカルチェック、スポーツドクターによる障害相談、血液検査

(2) 科学サポート

・体力測定（ア. 形態測定、イ. 一般測定、ウ. 筋力・パワー測定、エ. 呼吸循環器系測定
オ. 姿勢チェック、カ. 動作分析）

(3) トレーニング指導

・連携機関での指導、活動拠点への出張指導、外部指導者派遣等

(4) 栄養サポート

・本事業主催集合研修会（年2回）、栄養調査（1人年2回まで）、競技団体別講習（各団体年2回まで）

(5) スポーツメンタルサポート

・本事業主催集合研修会（年2回）、競技団体別講習（各団体年2回まで）

(6) 映像・情報技術サポート

・競技中の映像撮影・分析（1人年2回まで）、インソールによる足圧測定（1人年2回まで）、競技団体別講習（各団体年2回まで）

(7) 女性アスリートサポート

・本事業主催集合研修会（年2回）、カウンセリング、競技団体別講習（各団体年2回まで）

(8) アンチドーピングサポート

・本事業主催集合研修会（年2回）、スポーツファーマシストの紹介、競技団体別講習（各団体年2回まで）、県薬剤師会とのホットライン開設（国スポ期間中）

(9) サポートスタッフ・中央講師の派遣

①北信越国スポ・国スポ・JOC大会、都道府県駅伝帯同サポート

・大会中のコンディショニング指導、スポーツ障害予防、食事指導、競技撮影、スポーツメンタル等の指導員派遣

②強化合宿・上記①大会以外の帯同サポート

(10) 重点8競技トレーナー派遣

○スポーツ医・科学調査・研究

・県内大学、ハイパフォーマンススポーツセンターとの連携
・大会、トップ選手の競技力調査

○スポーツ情報の発信

・報告書『HOW TO WIN』の発刊（年1回）
・情報誌『スポーツ医・科学的トレーニング情報』の発行

○スタッフの資質向上

基本施策 4

1 スポーツ指導者の育成・活用

(1) パスネットとやま（指導者人材バンク） <指導者の登録・紹介の仕組み>

① パスネットとやまの基本コンセプト

スポーツ・文化芸術分野の指導者を求める個人・団体が、登録された指導者の検索・照会を行うシステムであり、公益財団法人富山県スポーツ協会（以下、県スポ協）が管理するとやまスポーツ情報ネットワークの一部として運営するもの。

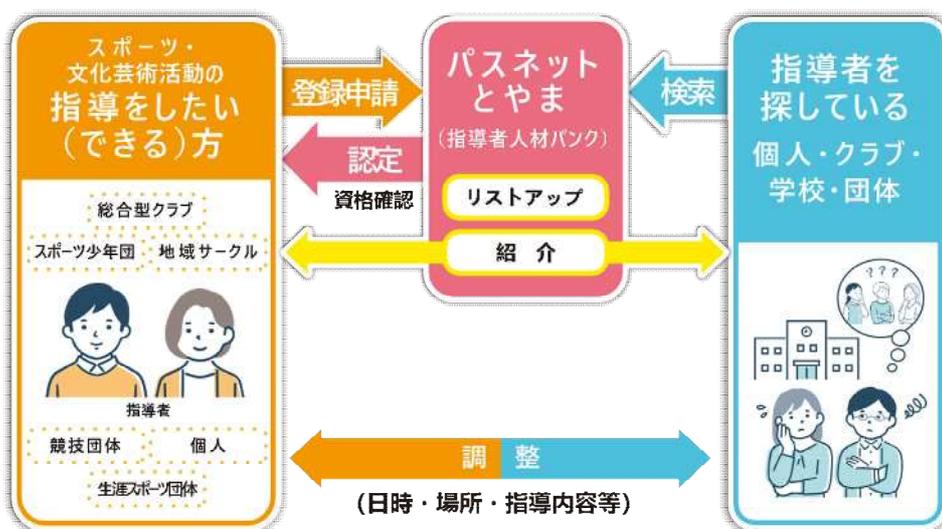
② 指導者登録方法

- ・登録を希望する指導者は、申請フォームにより申請する。
- ・県及び県スポ協は、申請された「指導者データ」の資格確認を行う。
- ・適正であると認められた指導者については、パスネットとやまに登録する。

③ 指導者の照会・紹介方法

- ・依頼者は、指導者検索を行う。
- ・指導者検索において基本条件が適合した登録指導者がいた場合は、指導者データが表示される。
- ・表示された登録指導者による指導を希望する依頼者は、指導に関する要望（指導内容、日時、時間、予算、詳細条件等）の「依頼者データ」を入力する。
- ・県又は県スポ協、市町村は、基本条件が適合した登録指導者に「依頼者データ」を情報提供し、依頼者への自身の情報提供（連絡先等）の承諾を得る。
- ・県又は県スポ協、市町村は、依頼者に対し、上記において承諾を得た登録指導者の連絡先等を情報提供し、依頼者は、その登録指導者に連絡し、具体的な指導内容等について、協議・調整する。
- ・指導内容等の協議が成立した場合、指導を開始する。

【登録・検索・紹介の仕組み】



基本施策 5

1 富山マラソン

(1) 2024大会の結果について

- ① 開催日 令和6年11月3日(日・祝) [ランナー受付11月2日(土)]
 ② 参加状況等(人)



区分	定員	申込者	出走者	完走者	完走率	県内：県外 (申込者ベース)	
マラソン	13,000	14,957	13,589	12,982	95.5%	8,631：6,326 (57.7%：42.3%)	
うち県内		8,631	7,926	7,496	94.6%		
併催	車いす	30	23	19	18	94.7%	1,074：98 (91.6%：8.4%)
ジョギング	1,000	1,149	1,019	1,007	98.8%		
合計	14,030	16,129	14,627	14,007	95.8%	9,705：6,424 (60.2%：39.8%)	

③ ボランティア：2,906人(2023大会：3,018人)

内訳	富山市自治会	高岡市自治会	射水市自治会	企業	学校	救護	その他団体	個人
人数	281	351	225	507	663	338	203	338

④ スタッフ：1,599人(2023大会：1,401人)

内訳	県職員	市職員等	警察	陸上競技協会
人数	803	448	199	149

⑤ 救護情報

区分	件数	症状または処置
病院への搬送	8	脱水(2)、けいれん(2) ほか
救護所来所件数	460	アイシング(174)、水分補給(71)、テーピング(47) ほか



(2) 2025大会の開催について

ランナーの様子(新湊大橋)

- ① 開催日 令和7年11月2日(日) [ランナー受付11月1日(土)]
 ② 種目/定員/制限時間/参加料

種目	マラソン	車いす(約9km)	ジョギングの部(約4km)
定員	13,000人	30人	1,300人
制限時間	約7時間	40分	50分
参加料	14,000円	3,000円	一般3,000円 高校生1,500円 中学生1,000円 小学4~6年生・保護者ペア4,000円

③ エントリー方法 ※全ての枠で先着順(抽選枠(郵便振込)は廃止)

区分	名称	対象	エントリー方法	募集人数	エントリー期間
マラソン	富山県民先行枠	県内在住者	エントリーサイト(RUNET)	2,200人	4月5日 ~7月31日
	ふるさと納税枠	県外在住者	ふるさと納税ポータルサイト(ふるさとチョイス)	300人	
	出走権付き宿泊枠	全員	エントリーサイト(JTB)	100人	
	一般枠	全員	エントリーサイト(RUNET)	10,400人	
併催	車いす(約9km)	競技用車椅子で40分以内に完走できる方	エントリーサイト(RUNET)	30人	4月12日 ~7月31日
	ジョギング(約4km)	小学4年生以上		1,300人	

④ 実施にあたっての基本方針

- ・ 厳しい気象環境に適合したランナーサービスの充実
- ・ 「富山マラソンSDGs宣言」に基づく取組みの継続
- ・ 北陸新幹線敦賀開業を活かした北陸三県の大会同士の連携協力
日本三霊山連携のマラソンイベントを活用した富山・石川・静岡県の連携協力
※三霊山…富士山(静岡県)、白山(石川県)、立山(富山県)
- ・ マラソンコース変更に係る日本陸連による検定・公認
- ・ 第10回大会を記念した企画の実施

2 地域スポーツコミッションの設立に向けた調査研究事業

1 目的

スポーツを通じた地域の活性化を図るため、富山県版のスポーツコミッションの設立に向けて調査研究を行うもの。

2 事業内容

(1) 市町村アンケート・ヒアリングの実施（令和6年5月～6月実施）

- ① 各市町村で取り組んでいる主なスポーツ振興施策に関するアンケート調査
- ② 大規模大会等を実施している市町の課題把握のためのヒアリング
 - ・大会・合宿開催に関する課題
 - ・プロ・トップスポーツチームとの連携に関する課題

(2) スポーツチームヒアリングの実施（令和6年6月～7月実施、5チームへヒアリング）

- ① 他のチームとの連携に関する課題
- ② 新規ファン獲得に関する課題

(3) 先進地視察・ヒアリングの実施（令和6年7月）

- ① 福井県スポーツまちづくり推進機構
- ② 金沢文化スポーツコミッション

(4) スポーツと地域をつなぐワークショップの開催（令和6年10月～令和7年1月）

県内スポーツ関係者（スポーツチームスタッフ、スポーツやまちづくりに関心がある若者（大学生）、県職員）によるワークショップを開催し、スポーツチームと連携したスポーツによる地域活性化ビジョン案を検討（全3回開催、参加者24名）

(5) 県版スポーツコミッション設立準備会の開催

① 第1回県版スポーツコミッション設立準備会（令和6年12月25日）

ア 出席者：市町村スポーツ担当課長、県生活環境文化部長 ほか

イ 内容：

- ・講演 演題：「スポーツによる地方創生・まちづくり～地域スポーツコミッションのはたす役割～」

講師：（一社）日本スポーツツーリズム推進機構事務局長 中山哲郎氏

- ・報告（スポーツ振興課）

(6) 地域スポーツコミッションシンポジウム2025（スポーツ庁主催）参加（令和7年1月）

3 (1) 報告事項

令和6年度スポーツ推進施策の取組状況(資料編)

○基本施策1 県民がスポーツに親しむことができる環境の充実	
1	富山県スポーツフェスタ…………… P1
2	県民の健康づくりを推進するウォーキングイベントの開催…………… P2
3	総合型地域スポーツクラブの育成・支援…………… P3
4	障害者スポーツの推進…………… P4
5	障害者スポーツ環境整備事業…………… P5
6	県営スポーツ施設の整備状況…………… P6
○基本施策2 たくましい子どもの育成と学校体育・スポーツの充実	
1	立山登山等の実施状況…………… P8
2	環日本海インターハイ親善交流大会…………… P9
3	運動好きな子どもの育成と体力向上の取組…………… P10
4	とやま元気っ子スポーツライフサポート事…………… P11
5	スポーツエキスパート活用推進事業…………… P12
6	武道指導者資質向上支援事業…………… P13
7	令和6年度全国中学校体育大会運営費補助事業…………… P14
○基本施策3 全国や世界の檜舞台で活躍できる選手の育成	
1	未来のアスリート発掘事業…………… P15
2	エリートユース育成事業…………… P16
3	国際競技力向上推進事業…………… P17
4	富山県民スポーツ応援団トップアスリート支援事業…………… P18
5	富山県競技力向上等推進事業(重点競技 サッカー・野球・駅伝)…………… P19
6	IoTを活用したスポーツ競技力向上支援事業…………… P20
7	オリンピック・パラリンピック目指す本県有望選手たち…………… P21
8	各種大会成績一覧…………… P22
○基本施策4 スポーツを支える人材の育成と活用	
1	スーパートレーナー設置事業…………… P26
2	令和6年度スポーツ関係被表彰者…………… P27
3	とやま県民スポーツ大賞受賞者一覧…………… P29
4	プロスポーツ活用による地域振興…………… P31
5	指導者研修会等の開催…………… P32

基本施策 1

1 富山県スポーツフェスタ

(1) 開催の趣旨

子どもから高齢者まで、トップアスリートからスポーツ・レクリエーション愛好者までの幅広いスポーツ志向に対応した総合的なスポーツ大会を開催することにより、県民のスポーツへの関心を高め、スポーツ人口の拡大と運動習慣の定着化及び競技力の向上を図るとともに、県民一人ひとりの目的、好みに応じてスポーツを楽しめる「生涯スポーツ社会」の実現と「元気とやま」の創造に寄与する。

(2) 構成

この大会は、県民体育大会、県民スポーツ・レクリエーション祭、県スポーツ少年団競技別総合交流大会、総合型地域スポーツクラブのクラブ祭等を統合し、年間を通して開催される総合的なスポーツ大会である。

部 門	大 会 等	
チャンピオン部門	県民体育大会(第一部)	36競技
交流部門	県民体育大会(第二・三部)	43競技
	県民スポーツ・レクリエーション祭	32種目
	県スポーツ少年団競技別総合交流大会	12競技
体験部門	県民スポーツレクリエーション祭	5種目
	総合型スポーツクラブのクラブ祭等	

(3) オープニング

○日 時 令和6年5月12日(日)

○会 場 富岩運河環水公園

(第38回富山県民歩こう運動推進大会内で実施)

(4) 表彰

- 各競技種目については、チャンピオン部門は第2位まで、交流部門は第3位までを表彰

(5) 大会参加者数

※R7.3.4現在

部 門	合計(人)	R5実績	増減
チャンピオン部門	5,249	5,537	-288
交流部門	22,353	23,771	-1,418
体験部門	32,406	29,435	2,971
オープニング	800	700	100
※県民歩こう運動推進大会で実施		※県民歩こう運動推進大会で実施	
合 計	60,808	59,443	1,365

2 県民の健康づくりを推進するウォーキングイベントの開催

(1) 趣旨・目的

幅広い世代の県民が参加できるウォーキングイベントを実施し、スポーツ実施率の向上と健康寿命の延伸を図るとともに、生活習慣病の予防等について普及啓発を図る。

(2) 主 催

富山県民歩こう運動推進委員会（県、市町村、各種団体等で構成）

(3) 富山県民歩こう運動推進大会

【第38回大会】

期 日 令和6年5月12日（日）

会 場 富岩運河環水公園周辺（富山市） 2kmコース、5kmコース

ゲ ス ト 登坂 絵莉 氏（リオデジャネイロオリンピック

レスリング女子48kg級 金メダリスト）

参加者数 約800名（参加者、スタッフ含む）



(4) とやまウォーキングチャレンジ

・R6より、とやまウォーキングカップをとやまウォーキングチャレンジに名称変更

・2024年登録大会数 15大会（内 1大会は荒天により中止）

富山市（7大会） 高岡市（1大会） 射水市（1大会） 氷見市（1大会）

砺波市（1大会） 小矢部市（1大会：中止） 南砺市（1大会）

上市町（1大会） 朝日町（1大会）

・スタンプラリーを廃止し、各大会のミッション達成者から抽選で5名にクオカードを進呈

ミッション参加者総数 1492名

ミッション達成者総数 1407名

応募総数 1280名

3 総合型地域スポーツクラブの育成・支援

(1) 総合型地域スポーツクラブ支援

① ノウハウ支援

- ・地域スポーツクラブスキルアップ研修会（①：18名 ②：70名 計88名）
第1回：「地域・スポーツの広報戦略～自分たちに適した広報とは～」
第2回：「スポーツ団体のリスクマネジメント」
- ・地域スポーツ指導者研修会（講座1：23名 講座2：21名 計44名）
講座1：未就学児・小学生へのスポーツプログラム
講座2：一般・シニアへのスポーツプログラム

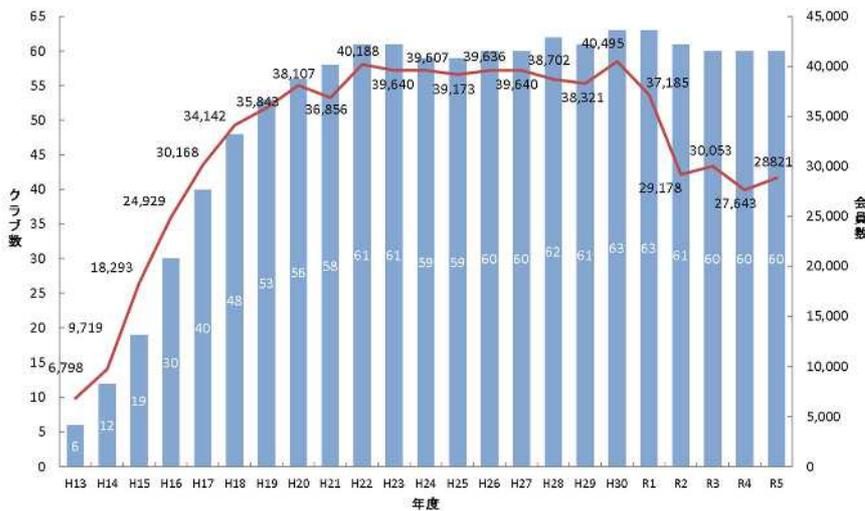
② 人的支援

- ・各市町村に対する派遣スポーツ主事の派遣（R6年度：15人）

(2) 総合型地域スポーツクラブの現状（R5.7.1現在）

- ① クラブ数：15市町村に60クラブ設立済み
- ② クラブ数及び会員数の推移

富山県内の総合型地域スポーツクラブの年次推移(クラブ数・会員数)



<参考>

総合型地域スポーツクラブの市町村設置率が100%の都道府県
富山、秋田、山形、兵庫、奈良、大分、鹿児島の7県

全国育成クラブ数
3,551クラブ
クラブ育成率全国平均
80.2%
〔スポーツ庁調査〕

③ 会員の年齢別構成（R5.7.1現在）

（単位：人）

未就学児	小学生	中学生	高校生	19～59歳	60歳以上	合計
1,308	8,459	2,765	407	6,112	9,770	28,821

④ クラブ組織の現状

法人格取得クラブ数	指定管理を受託
38クラブ（全国5位）	14クラブ（全国1位）

⑤ 総合型地域スポーツクラブ連携組織の強化

- ・富山県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会（H19年度設立）県内27クラブ加盟（R6）
※平成20年度に総合型地域スポーツクラブ全国協議会に加盟
（事務局：（公財）日本スポーツ協会）
※令和4年度に公益財団法人富山県スポーツ協会内組織となる
（事務局：（公財）富山県スポーツ協会）
※県内4地区での元気とやまスポレク交流大会（H23年度～R4）の実施
※元気とやまスポーツライフサポート事業（H27年度～R4）の実施
※とやま週イチスポーツ推進事業（R5～）の実施

⑥ 総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度（令和4年度～）

- ・日本スポーツ協会、都道府県体育・スポーツ協会が連携して策定した「総合型地域スポーツクラブ登録認証制度」が運用され、より公益性の高い「社会的な仕組み」として永続的に充実した活動を行えるような基盤づくりを開始（R6.4.1現在、県内27クラブ登録済）

4 障害者スポーツの推進

(1) 障害者スポーツの推進

- ① 障害者スポーツ教室の開催
 - ア 実施教室 (19 教室)
 - ①卓球 ②サウンドテーブルテニス (視覚) ③アーチェリー (肢体・聴覚)
 - ④水泳 ⑤スノースポーツ ⑥ボウリング ⑦車椅子バスケットボール (肢体)
 - ⑧ツインバスケットボール (肢体) ⑨フットサル ⑩車椅子テニス (肢体)
 - ⑪フライングディスク ⑫ソフトボール (知的) ⑬フットソフトボール (知的)
 - ⑭パラ空手道 ⑮聴覚陸上競技 ⑯クライミング ⑰卓球バレー ⑱ハンドバイク
 - ⑲ブラインドマラソン (視覚、その他)
 - イ 実施回数
各教室とも年間 8 回から 12 回実施
 - ウ 講師
各教室とも県内競技団体や障害者スポーツ指導員に講師を依頼
 - エ スポーツ教室開催案内配布
各方面へスポーツ教室開催 PR のための開催案内 (2,700 部) を作成し配布
 - オ 配布先は、市町村、福祉団体、障害者スポーツ団体、障害者福祉施設、特別支援学校等
- ② 障害者スポーツ教室連絡会議の開催
 - ア 連絡会議を年 2 回開催
 - イ 連絡会議の内 1 回は、講師を招聘して研修会を実施
- ③ 知的・身体障害者団体競技チームの育成
 - ア 知的障害者のフットソフトボール、ソフトボール及び身体障害者のグランドソフトボール、車椅子バスケットボールの各チームを対象に、指導者招聘による練習会を実施
 - イ 強化練習会の実施
 - ウ 地区予選大会への派遣

(2) 障害者スポーツ指導者の育成

- ① 公認初級パラスポーツ指導員養成講習会の開催
 - ア 講習会は年 1 回 4 日間の日程で開催し、講義・実技研修を実施
 - イ 研修会参加者は 13 名、中央講師・県内講師は 14 名
- ② 公認パラスポーツ指導員の中央研修会及び全国大会等への派遣
 - ア 公認中級パラスポーツ指導員養成講習会 (1)
 - ・開催地 宮崎県 (1 名派遣)
 - ・研修日 7 月 13 日 (土) ~17 日 (水)、1 月 11 日 (土) ~15 日 (水)
 - イ 全国障害者スポーツ大会障害区分判定研修会
 - ・開催地 滋賀県 (1 名派遣)
 - ・研修日 7 月 27 日 (土) ~28 (日)
 - ウ 第 19 回公認パラスポーツ指導者全国研修会
 - ・開催地 東京都 (2 名派遣)
 - ・研修日 12 月 14 日 (土) ~15 日 (日)
- ③ 公認パラスポーツ指導員連絡会議の開催
 - ア 連絡会議・研修会 (年 2 回実施)
 - ・実技研修 ・大学教授や医師等による講義
 - ・中央研修受講者による伝達講習 ・各回参加者 約 30 名

(3) 公認パラスポーツ審判員の養成

- ① 公認パラスポーツ審判員養成講習会の開催
 - ア フライングディスク等 フライングディスク等の実践
 - イ 実施回数 2 回実施
 - ウ 講師 県内及び中央講師等に依頼
- ② 公認パラスポーツ審判員の養成派遣
公認パラスポーツ審判員の有資格者等を、中央研修会や全国大会に 2 名派遣

(4) 全国障害者スポーツ大会への役員・選手派遣

① 第23回全国障害者スポーツ大会

- ア 期 日 令和6年10月24日(木)～29日(火)
[大会期日：10月26日(土)～28日(月)]
イ 会 場 佐賀県(佐賀市 他)
ウ 派遣人数 ・選手24名 ・役員25名 計49名



(5) 富山県障害者スポーツ大会の開催

① 水泳競技会

- ア 日 時 令和6年4月21日(日) 10:00～13:00
イ 会 場 富山県高岡総合プール
ウ 参加者 ・選手51名 ・役員71名
・ボランティア等2名 計124名

② 陸上競技会

- ア 日 時 令和6年5月19日(日) 9:00～14:30
イ 会 場 富山県総合運動公園陸上競技場
ウ 参加者 ・選手240名 ・役員146名
・ボランティア等126名 計512名

③ フライングディスク競技会

- ア 日 時 令和6年9月22日(日) 9:00～15:00
イ 会 場 富山県総合運動公園屋内グラウンド及びファミリー広場
ウ 参加者 ・選手259名 ・役員75名
・ボランティア等20名 計354名

④ 卓球競技会

- ア 日 時 令和6年11月10日(日) 9:15～13:00
イ 会 場 富山県総合体育センター
ウ 参加者 ・選手122名 ・役員88名
・ボランティア等10名 計220名



(6) 障害者スポーツ応援事業

① 障害者アスリートへの助成

国際大会等の強化指定を受けた選手に、強化合宿等に参加する際の旅費宿泊費等を一部助成

② 交流会の開催

富山県障害者スポーツ教室・クラブが交流大会等を開催し、障害のある人とない人が共にスポーツを楽しむ。また、実施に必要な物品を整備

(7) 障害者スポーツ全国大会及び国際大会への選手派遣

日本パラスポーツ協会、または同競技団体が派遣する国際大会、並びに同協会または同団体が主催する全国大会に出場する選手の交通費・宿泊費の一部を助成

5 障害者スポーツ環境整備事業

(1) 目的

障害者のスポーツ環境の充実を図るため、高志支援学校体育館の改修工事を実施。

(2) 事業内容

バスケットゴールの設置、床面改修 等

6 県営スポーツ施設の整備状況

【現状】

施設や用具の老朽化対策を緊急性の高いものや優先度等を考慮しながら計画的に整備を実施している。

＜県営スポーツ施設の果たす役割、用具整備の必要性＞

- ・競技スポーツの活動拠点として選手や指導者の養成など、競技力の向上に資する。
- ・国際大会や全国大会の公式競技会場、広域的な生涯スポーツの拠点として重要。

《令和6年度の整備実績》

施設名称		内容
総合体育センター	S59	変圧器等更新、屋外通路舗装改修、バスケットボール大型得点表示盤更新
西部体育センター	H11	冷温水発生機更新、ガスタービン発電機改修
高岡総合プール	H6	会議室内装改修、コースロープ更新
漕艇場	H5	浮棧橋補修
弓道場	S54	空調機改修
総合運動公園	H5	陸上競技場 インカム設備更新 シャワー室改修
岩瀬スポーツ公園	S61	サッカー・ラグビー場 テニスコート 芝生改修 人工芝更新
五福公園	S25	県営富山野球場 グラウンド整備トラクタ更新

《令和7年度以降の主な整備予定》

総合体育センター

県のスポーツ振興・競技力向上の拠点施設

プール棟通路屋根改修、高圧ケーブル改修ほか



西部体育センター

県西部地域のスポーツ振興・競技力向上の拠点施設

自動扉更新、
トレーニング機器更新 ほか



高岡総合プール

水泳競技の拠点施設

高圧受電設備更新、高圧ケーブル更新 ほか



総合運動公園

富山県唯一の第一種公認陸上競技場

・陸上競技場 公園監視システム更新ほか



岩瀬スポーツ公園

充実した競技施設を備えた運動公園

・テニスコート 人工芝更新



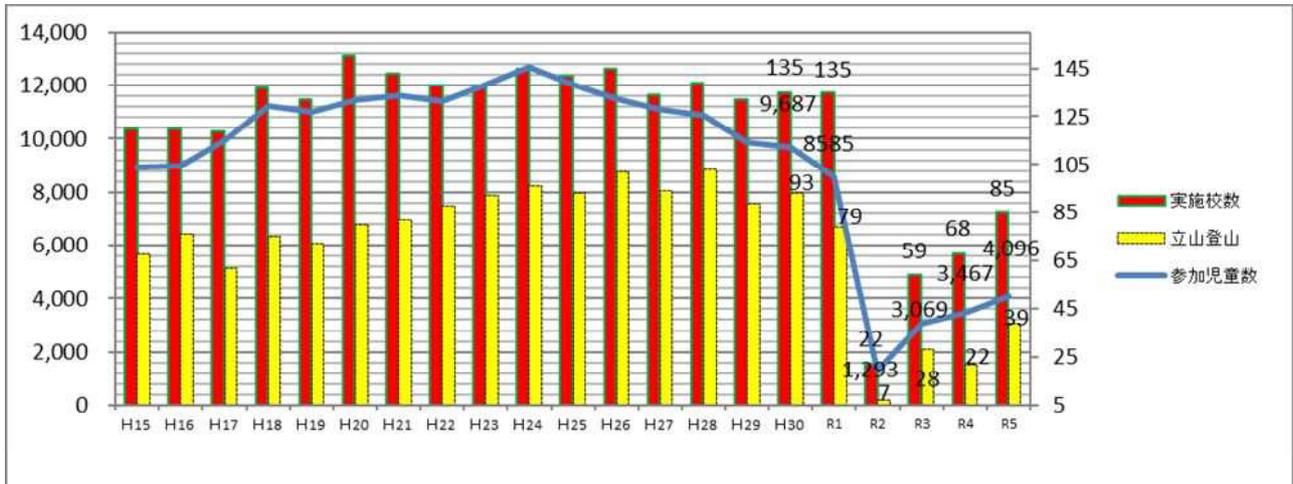
・ソフトボール広場

内野グラウンドリフレッシュ ほか



1 立山登山等の実施状況

(1) 小学校登山実施状況



(2) 集団登山引率者講習会の実施 (H16～)

- ① 趣 旨 各学校における集団登山が安全に実施されるよう、集団登山を実施する学校の教員の引率能力の向上を図る。
- ② 協 力 県警山岳警備隊、県山岳連盟 他
- ③ 受 講 者 立山等の登山を計画している学校の教員 (公、私、国)
- ④ 期 日 令和6年6月27日、28日
7月4日、5日

(※1日目の午後にオンラインによる研修、2日目に日帰りの登山研修)

- ⑤ 場 所 立山 (雄山及び室堂周辺)
- ⑥ 講習内容 立山の自然や歴史、事故事例や危急時の対応、登山の心構えや安全対策、体調不良時の対処法、緊急時の搬送方法、ヘルメットの借用や装着の方法 等

平成27年度より登山時の安全対策として普及しつつある登山用ヘルメットを「立山自然保護センター」に600個配備 (自然保護課) し、小学校等の立山登山時に有償 (1回100円) で貸出を開始した。

R3 : 17団体に546個貸出 R4 : 22団体に1046個貸出 R5 : 34団体に1713個貸出

※ 立山町では室堂周辺の山小屋15施設に対してヘルメット240個、ガスマスク220個配備



集団登山引率者講習会の様子 (R6)

2 環日本海インターハイ親善交流大会

(1) 趣旨

富山県と中国遼寧省、韓国江原道、ロシア沿海地方の高校生とのスポーツ交流を定期的に行い、競技力の向上を図るとともに、交流活動を通して、相互理解と友情を深め、環日本海地域との友好親善に寄与することを目的に、1993年(平成5年)から各国の持ち回りで開催している。

(2) 大会の概要

① 開催地	日本国富山県		
② 派遣期間	令和6年8月6日(火)～11日(日)		
③ 参加国	中国遼寧省、韓国江原特別自治道、ロシア沿海地方、富山県		
④ 種目	バレーボール(男子)、バドミントン(女子)		
⑤ 参加資格	2006年1月1日～2008年12月31日生まれ 高等学校に在学する生徒		
⑥ 参加選手・役員	各国25名で計100名		
役員	団長1名、副団長1名、総務1名	計	3名
バレーボール	監督1名、コーチ1名、選手12名(男子)	計	14名
バドミントン	監督1名、コーチ1名、選手6名(女子)	計	8名
		合計	25名



(3) 令和7年度予定

① 開催地	韓国江原特別自治道
② 開催期日	令和7年8月(6日間)
③ 種目	バレーボール(男子)、バドミントン(女子)
④ 参加資格	2007年1月1日～2009年12月31日生まれ 高等学校に在学する生徒
⑤ 参加者数	参加選手・役員 各国25名で計100名

3 運動好きな子供の育成と体力向上の取組み

(1) Web アプリ「とやま元気っ子チャレンジ」の活用

- ① 目的 運動継続と健康的な生活習慣を支援するための Web アプリを、学習用端末を中心に活用し、個に応じた運動実践や生活習慣の管理や記録、スポーツテストや生活習慣調査のデジタル化、映像資料の発信等と連携することで、定期的な運動習慣定着と、健康的な生活習慣実践の契機とし、健康増進やスポーツへの興味関心の向上を図る。
- ② 主な機能
 - ・チャレンジマップ（チャレンジ3015）機能
 - ・ミッション機能及びコイン獲得及びコインを利用した応募機能
 - ・スポーツテストの入力及び集計・グラフ作成機能
 - ・ゲンキッズとやまの入力及び集計・グラフ作成機能 等
- ③ R6実績
 - ・利用者数 小学生：37,829人 中学生：20,296人
 - ・キャンペーン応募数（2回実施）5,259口
 - ・Youtubeチャンネル登録者数1,480人 視聴回数25万回（R6）



動画を活用したミッション画面



チャレンジマップ画面

(2) チャレンジランキングの実施

- ① 目的 子供たちが、積極的に運動やスポーツに取り組むには、学校や学級などの集団での活動が効果的であるため、体力テストなどの運動記録を競い合う体力ランキングを実施し、子供たちの運動意欲の向上を図ることを目的とする。
- ② 対象学年 小学校1年生～6年生
- ③ 実施種目 小・中共通：立ち幅跳び 50m走 縄跳び8の字跳び
小学校：ドッジボールラリー
- ④ 参加数 179校
- ⑤ 表彰 種目ごとに3位以内を表彰



4 とやま元気っ子スポーツライフサポート事業 (幼保小中体力・運動能力向上、連携事業)

(1) 目的

幼児及び児童生徒の豊かなスポーツライフの実現に向け、幼稚園教諭、保育士及び教員が運動遊びや学校体育活動の充実の必要性、系統性や連続性のある指導について理解を深め、その資質や指導力を高めることで、幼児期から中学生期までの運動好きな子供の育成と運動習慣の定着を図る。

(2) 事業内容

本事業は、幼児期から中学生期までの系統性、連続性のある体制づくりの構築を目指していることから、下記③アの研修については必ず行う。

(3) 研修内容

- ① 指導力向上のため異校種の指導者が参加する運動指導方法の研修
- ② 運動好きな子供の育成や運動習慣の定着を図るための運動指導方法の校内研修
- ③ 専門的な技術指導力をもつ地域人材及び大学教授等を派遣した運動指導方法の研修
- ④ その他、幼児期から中学生期まで運動好きな子供の育成と運動習慣の定着を図ることを目的とした研修

射水市	2 中学校、5 小学校、1 2 園	1 3 8 時間
高岡市	3 0 幼保こども園	1 2 2 時間
滑川市	7 小学校、1 5 幼保こども園	7 6 時間
上市町	7 幼保こども園	7 0 時間
氷見市	1 2 幼保こども園	4 0 時間
南砺市	1 6 幼保こども園	6 7 時間
小矢部市	7 幼保こども園	3 6 時間
砺波市	8 小学校	2 5 時間
朝日町	2 小学校 幼保こども 3 園	2 7 時間
R 6 計	2 中学校、2 2 小学校、1 0 2 幼保こども園	6 0 1 時間 (R 6 予定)



(4) 専門的な技術指導力をもつ指導講師派遣

大学講師等を招いての異校種指導者運動指導法研修

射水市	塩見 一成 (富山短期大学 講師)
高岡市	澤 聡美 (富山大学教育学部 准教授)
滑川市	小川 耕平 (富山福祉短期大学 教授)
上市町	稲川 峰士 (いながわ体操スクール)
氷見市	白旗 和也 (日本体育大学 教授)
南砺市	津田 良太 (NPO 法人運動保育士会)
小矢部市	野原 将史 (悟空 Jr. アスリートスクール)
砺波市	佐伯 聡士 (富山大学教育学部 准教授)
朝日町	近江 純 (KOBA 式体幹バランスアスリートトレーナー)



5 スポーツエキスパート活用推進事業

(1) 目的

運動部活動における、高度化・多様化する生徒のニーズに対応するため、専門的な実技指導力を有する指導者（テクニカルエキスパート）を県立学校へ派遣するとともに、スポーツ医・科学に基づいた指導による効果的な体力向上やスポーツ障害予防のために、トレーナーや栄養士（トレーニングエキスパート）を県立学校に派遣し、運動部活動の活性化と指導体制の充実を図る。

併せて、地域のスポーツクラブ等、関係団体からなる委員会を設置し、地域等との連携・協働体制を構築し、地域の優れた指導者の活用の推進を図る。

(2) 事業内容

①テクニカルエキスパート（実技指導者）派遣

- ・専門的な実技指導力を有する指導者を県立学校へ派遣
- ・34校へ128名派遣（R5年度 35校へ135名）
- ※県立学校に部活動指導員を40名配置※文化部含む

②トレーニングエキスパート（トレーナー、栄養士等）派遣

- ・体力向上やスポーツ障害予防のためのトレーニング指導を行うトレーナーや栄養士を県立学校へ派遣
- ・派遣回数 107回
- 派遣校数 13校
- 派遣者数 13名

<参考>過去5年間の実績	
R元年度	81回（10校・18名）
R2年度	79回（11校・15名）
R3年度	68回（10校・13名）
R4年度	81回（10校・14名）
R5年度	97回（11校・16名）

③スポーツエキスパート派遣事業（市町村）補助金

- ・市町村が行うスポーツエキスパート派遣事業に係る経費を補助（県1/3、市町村2/3）
- ・R6年度 68校へ282名派遣（R5年度 70校へ297名）
- ※R6年度県内の公立中学校に部活動指導員を148名配置※文化部含む

6 武道指導者資質向上支援事業

(スポーツ庁委託事業「令和の日本型学校体育構築支援事業」)

(1) 目的

柔道、剣道を中心としてきた武道の授業に、他の日本武道協議会加盟団体種目を加えて実践する「武道推進モデル校」に県内の中学校を指定し、実践研究を進める。

(2) 事業内容

① 「武道推進モデル校」への外部指導者派遣

柔・剣道及び弓道、合気道、空手道、銃剣道の指導者を「武道推進モデル校」へ派遣

※「武道推進モデル校」 射水市立小杉南中学校 剣道・空手道

高岡市立伏木中学校 柔道・弓道



空手道体験教室



弓道体験教室

② 武道段位資格取得講習会

武道段位を有しない体育教員を対象に、段位取得講習会を開催する。

日時：令和6年7月31日(水)、8月1日(木)、2日(金)

会場：滑川市総合体育センター



武道資格認定講習会(柔道)



武道資格認定講習会(剣道)

③ 指導者資質向上研修会の開催

武道を担当する保健体育科教員等を対象に、武道授業研修会を開催する。

日時：令和6年10月27日(日)

会場：県営富山武道館

7 全国中学校体育大会富山大会の開催支援

(1) 目的

全国から、多くの選手・監督が参加する大会を円滑に運営し、また、来県者に富山県の良さをアピールするための準備体制を整える。

(2) 事業内容

- ① 開催期間 令和6年8月17日(土)～22日(木)
- ② 主 管 県実行委員会、各競技実行委員会
- ③ 大会概要

開催種目	ソフトボール	相撲	ハンドボール
開催地	富山市	射水市	氷見市
会場	富山県岩瀬スポーツ公園 富山市東富山運動広場	新湊アイシン軽金属 スポーツセンター	氷見市ふれあい スポーツセンター 氷見市立南部中学校体育館
会期	8月17日(土)～20日(火)	8月17日(土)～18日(日)	8月19日(月)～22日(木)
参加数	男子 16チーム 女子 28チーム	団体 48チーム 個人 124人	男子 23チーム 女子 23チーム
選手監督数 (役員・補助員)	735名 (447名)	364名 (221名)	703名 (274名)
大会結果	<p>【男子】 1位 愛媛ジュニアソフトボールクラブ (四国ブロック代表：愛媛県)</p> <p>【女子】 1位 東海大学菅生高等学校中等部 (関東ブロック代表：東京都)</p> <p><開催地代表> 魚津市立東部中学校 1回戦敗退</p> 	<p>【団体】 1位 金沢学院大学附属中学校(石川県)</p> <p><富山県代表> いわせの道場 決勝トーナメント進出ベスト32 <開催地代表> 富山市立呉羽中学校 決勝トーナメント進出ベスト32 滑川相撲クラブ 予選リーグ敗退 射水市立大門中学校 予選リーグ敗退</p> <p>【個人】 1位 佐藤 珀呂汎 (宇土市立鶴城中学校：熊本県)</p> <p><富山県代表> 滝 仁智華(富山市立呉羽中学校) 決勝トーナメント進出ベスト32 古村 斗和(いわせの道場) 決勝トーナメント進出1回戦敗退 中村 風翔(いわせの道場) 予選リーグ敗退 <開催地代表> 村上 竣哉(射水市立大門中学校) 予選リーグ敗退 老月 透麻(富山市立呉羽中学校) 予選リーグ敗退 佐藤 琉稀(富山市立呉羽中学校) 予選リーグ敗退</p>	<p>【男子】 1位 東久留米市立西中学校 (関東ブロック代表：東京都)</p> <p><北信越ブロック代表> 氷見市立西條中学校 2位 <開催地代表> ターミガンズ富山ハンドボールクラブ 1回戦敗退</p> <p>【女子】 1位 東久留米市立西中学校 (関東ブロック代表：東京都)</p> <p><北信越ブロック代表> 氷見市立西條中学校 3回戦敗退 <開催地代表> 氷見市立十三・南部中学校 1回戦敗退</p>

1 未来のアスリート発掘事業

(1) 趣 旨

スポーツ能力に優れた児童を見出し、競技団体、学校、等と連携を図りながら、将来のスポーツ界を担う人材の育成をサポートしていくもの。

(2) 事業概要

小学校5年生時の選考会で指定された児童を対象に、小学校6年生の1年間で12回の育成プログラムと特別プログラムを実施。併せて、児童の保護者等を対象としたプログラムも実施。

競技団体推薦の小学5年生8名がジュニア指定者としてプログラムに参加。



〈ファルトレクトレーニングの様子〉

知的能力育成プログラム

- ・メンタルトレーニング
- ・スポーツ栄養
- ・スポーツ障害
- ・コミュニケーション

身体能力育成プログラム

- ・コーディネーショントレーニング
- ・コンディショニング
- ・ファルトレクトレーニング

(3) サポートプログラムの実施

育成プログラム終了後も、定期的な体力測定や各種スポーツ研修会を通して、中学校卒業時まで競技力向上に向けての継続的なサポートを行う。

(4) 特別プログラムの実施

日本のトップアスリートの強化拠点施設である、味の素ナショナルトレーニングセンター(NTC)を視察し、「未来のアスリート」としての意識の高揚を図り、今後のトレーニング意欲の向上につなげる。



〈コンディショニングの様子〉



〈NTC での特別講義〉



〈コミュニケーションの様子〉



〈コーディネーショントレーニングの様子〉

期生	指定者数	ジュニア指定
1	54	—
2	53	—
3	51	—
4	51	—
5	66	—
6	63	—
7	66	—
8	62	—
9	66	—
10	66	—
11	64	—
12	66	—
13	75	—
14	73	—
15	75	—
16	74	—
17	74	—
18	60	10
19	55	8
1, 2 14		18

年度	修了生の実績							
	日本代表強化選手			国民スポーツ大会出場			全国大会出場	
	成年	高校生	中学生	成年	高校生	中学生	高校生	中学生
H18	—	—	—	—	—	—	—	—
H19	—	—	0	—	—	—	—	0
H20	—	—	0	—	—	—	—	4
H21	—	—	0	—	—	1	—	12
H22	—	2	2	—	3	1	4	14
H23	—	4	0	—	6	1	11	17
H24	—	4	1	—	7	3	14	21
H25	2	3	2	0	5	2	16	10
H26	2	2	0	3	12	1	19	20
H27	2	2	1 (小1)	3	9	1	18	23
H28	5	4	1	4	20	3	31	29
H29	5	6	4	1	13	1	21	27
H30	7	5	2	4	20	3	26	36
R 1	8	5	2	3	16	4	25	20
R 2	11	4	4	0	0	0	21	11
R 3	11	3	6	0	2	0	38	32
R 4	12	8	2	7	15	6	36	23
R 5	8	8	1	16	17	0	42	13
R 6	7	7	2	12	17	2	27	19
計	80	67	30	53	162	29	349	331
合計			177			244		680

2 エリートユース育成事業

(1) 目的

全国・世界の檜舞台で活躍できる次世代の選手を育成するため、競技団体が主体として実施する中・高校生選手の強化活動に対して補助することにより、本県の競技力の向上を図る。

(2) 概要

①事業内容

ア 強化合宿や県外遠征の開催

○県内の強化拠点における合宿や競技水準の高い都道府県への県外遠征の開催

イ 強化練習会の開催

○競技団体が強化拠点としているスポーツ施設等において、強化練習会を継続的に開催

ウ 講習会等の開催

○著名な指導者による講習会や公開練習などを開催

②選手の指定

競技団体、クラブチーム等の関係者の協議により、競技ごとに指定する
(競技団体により中・高校生の比率、人数は異なる)



柔道競技



ホッケー競技



バレーボール競技



バレーボール競技

3 国際競技力向上推進事業

(1) 事業目的

年代別日本代表選手（以下「日本代表選手」という）及び日本代表監督・コーチの、海外で開催される国際大会や国内代表合宿等への参加に対し支援を行い、世界に羽ばたく本県選手の強化及び指導者の資質向上を目指す。

※ 年代別とは、当該年度の4月1日現在で12歳以上21歳以下をいう

(2) 事業内容

本県の日本代表選手、および日本代表監督・コーチの日本オリンピック委員会または中央競技団体が派遣する国際大会、合宿等参加に伴う自己負担金に対して、年度内10万円を上限に補助する。補助対象者は、下記要件①～③のいずれかを満たす日本代表選手、①を満たす日本代表監督及びコーチとする。

①本県の学校・企業等に在籍・在職している者。

②本県の高等学校および高等専門学校を卒業した者。

③県及び富山県スポーツ協会が協議し、本県の競技力向上のために必要と認められた者。

【令和6年度補助対象者】

No.	競技名	氏名	所属	補助対象大会名	開催地
1	スキー	千田 碧輝	富山県立大	2024FISフリースタイルジュニア世界選手権	イタリア
2	カヌー	酒井 星璃	上市中	2024アジアパシフィックスプリントカップ	オーストラリア
3	水球	米田 竜将	富山北部高	WORLD AQUATICS 男子U18水球世界選手権	ブエノスアイレス
4	ローイング	倉内 洋輝	富山国際大	4月・5月U23強化合宿	埼玉県 オランダ
5		若崎 晴斗	富山国際大	2024FISU World University Championship Rowing	
6	バドミントン	安田 翔	和合中	第1・2・3回2024年ジュニアナショナルチーム (U16)強化合宿 BATヨネックスパトゥムターニージュニアインターナショナルシリーズ2024	東京都 タイ
7	バドミントン	舩田 遼羽	伏木中	第1・2・3回2024年ジュニアナショナルチーム (U17)強化合宿 韓国ジュニアインターナショナルチャレンジ2024 BATヨネックスパトゥムターニージュニアインターナショナルシリーズ2024	東京都 韓国 タイ
8	カヌー	酒井 海倫	富山北部高	2024カヌースプリントジュニア&U23世界選手権大会	ブルガリア
9	スキー	真正 蓮	中央大	第1回コンバインド (B/U20男子) 合宿	長野県
10	ホッケー	葭谷 瑠衣	石動高	U17ユース女子日本代表3RD MIRNAWAN CUP 2024	マレーシア
11		山田 心優	石動高		
12		丸山 はな	石動高		
13	ホッケー	八十島栄奈	石動中	U15ジュニアユースホッケー日本代表オーストラリア遠征	オーストラリア
14	フェンシング	篠田 真吾	明治大	FIEジュニアワールドカップ香港大会、セルビア・ブルジャツ大会	香港 セルビア
15	ホッケー	西田 耕陽	立命館大	U21男子ホッケー日本代表ジュニアアジアカップ出場	オマーン
16	ホッケー	高橋 由衣	立命館大	U21ジュニア日本代表 Women's Junior Asia Cup Muscat 2024	オマーン
17		松井 杏	山梨学院大		
18		早助 咲那	山梨学院大		
19		吉田 伶	東海学院大		
20		丸山 にこ	立命館大		
21	スキー	堺 麻里杏	富山第一高	第9回アジア冬季競技大会	中国
22	ホッケー	藤永 一空	石動高	令和6年度U18男子日本代表オーストラリア遠征	オーストラリア
23	スキー	山崎 大翔	早稲田大	U23クロスカントリースキージュニア世界選手権大会	イタリア
24	スキー	上野 香晴	富山第一高	FISアルペンスキージュニア世界選手権大会	イタリア

4 富山県民スポーツ応援団トップアスリート支援事業

日々精進を重ね、厳しい練習に取り組んでいる選手や指導者等を県民挙げて応援することを目的として、平成22年に「富山県民スポーツ応援団」が設立された。

県では、この応援団の趣旨に賛同された多くの県民や企業等から寄せられた募金等を原資として、平成23年3月に「元気とやまスポーツ応援基金」を設置し、オリンピックなど世界の檜舞台で活躍が期待される本県トップアスリートの活動を支援している。

【令和6年度助成対象者】

(1) 選手

※所属については事業申請時点のもの

No.	競技名	氏名	所属
1	ウエイトリフティング	村上英士朗	いちご(株)
2	バドミントン	保木 卓朗	トナミ運輸(株)
3	バドミントン	小林 優吾	トナミ運輸(株)
4	バドミントン	大堀 彩	トナミ運輸(株)
5	スケートボード (ストリート)	中山 楓奈	早稲田大学
6	ラグビー7人制	田中 笑伊	ヤマネ鉄工建設(株)
7	スキー (クロスカンтриー)	廣瀬 峻	(株)長田組
8	スケート (スピードスケート)	百瀬 愛美	ダイチ(株)
9	スケート (ショートトラック)	菊池 萌水	KHネオケム(株)
10	スキー (クロスカンтриー)	山下 陽暉	自衛隊体育学校

(2) 指導者

1	スキー (クロスカンтриー)	蛭沢 克仁	立野ヶ原スキークラブ
---	-----------------	-------	------------

5 富山県競技力向上等推進事業

<p>サッカー</p>	<p>1. 合宿・遠征事業 ○全国大会に向け合宿・遠征を行い競技力向上を図る。 全国高校選手権大会出場校 龍谷富山高校 大会直前合宿遠征(千葉県)</p> <p>2. 優秀チーム招へい事業(3月実施予定) ○全国各地の強豪高校を招へいし、試合形式での強化事業を行う。また、指導者交流による指導技術、意識向上を図る。 ○招待校：県外12校 ○参加校：県内4校</p>	<p>○全国高校総体 令和6年度 富山第一高校 1回戦 3-3 札幌大谷(北海道) PK(0-3) <u>1回戦敗退</u></p> <p>○全国高校サッカー選手権大会 令和3年度(第100回)富山第一高校 2回戦 0-1 宮崎日大(宮崎) <u>2回戦敗退</u> 令和4年度(第101回)富山第一高校 2回戦 0-2 高川学園(山口) <u>2回戦敗退</u> 令和5年度(第102回)富山第一高校 2回戦 2-1 京都橘(京都) 3回戦 1-5 佐賀東(佐賀) <u>3回戦敗退</u></p> <p>令和6年度(第103回)龍谷富山高校 1回戦 0-0 那覇西(沖縄) PK(5-4) 2回戦 0-1 松山北(愛媛) 2回戦敗退</p>
<p>野球</p>	<p>1. 選手強化対策事業 ○アドバイザー招へい事業 ○少年硬式野球大会開催補助 ○指導者県外派遣事業</p> <p>2. 優秀チーム招へい事業 (強化指定校との強化試合) ○招待校：大阪桐蔭高校(大阪府) 参加校：高岡商業、富山商業、高岡第一、富山第一</p> <p>3. 合宿・遠征事業 ○強化指定校県外派遣事業 高岡商業高校(京都府 立命館宇治高校他) 富山商業高校(石川県 遊学館高校他) 高岡第一高校(滋賀県 近江高校他) 富山第一高校(岐阜県 大垣商業他) ○秋季大会上位校県外派遣事業 富山第一高校(三重県 三重海星高校) 富山北部高校(岐阜県 大垣日大高校他) 高岡第一高校(履正社高校他) 3月実施予定</p>	<p>○選抜高等学校野球大会 平成29年度(第90回)富山商業高校 1回戦 2-4 智弁和歌山(和歌山) <u>1回戦敗退</u> 令和4年度(第95回)氷見高校 2回戦 1-4 山梨学院(山梨) <u>2回戦敗退</u></p> <p>○全国高校野球選手権大会 令和3年度(第103回)高岡商業高校 1回戦 4-17 松商学園(長野) <u>1回戦敗退</u> 令和4年度(第104回)高岡商業高校 1回戦 3-13 敦賀気比(福井) <u>1回戦敗退</u> 令和5年度(第105回)富山商業高校 1回戦 2-3 鳥栖工業(佐賀) <u>1回戦敗退</u></p> <p>令和6年度(第106回)富山商業高校 2回戦 0-4 東海大相模(神奈川) 2回戦敗退</p>
<p>駅伝</p>	<p>1. 選手強化対策 ○選手強化対策の計画、立案</p> <p>2. 合宿・遠征 ○合同練習会の実施 ○強化指定選手及びチームの強化合宿 ・岐阜県 御嶽 ・長野県 菅平高原、峰の原等</p> <p>3. アドバイザー・トレーナー事業 ○トレーナー招へい ・コンディショニングづくり等の指導 ・体幹強化の指導 梅野 晃トレーナー</p> <p>4. 強化指定 ○県代表としての自覚を高めるため、意欲と実績のある中学生から社会人までの選手・チームを強化指定する。</p>	<p>○各種駅伝全国大会の成績 令和3年度 ・中学 男子 雄山(14位) 女子 速星(40位) ・高校 男子 高岡向陵(45位) 女子 富山商業(32位) ・都道府県対抗 男子(中止) 女子(38位)</p> <p>令和4年度 ・中学 男子 城端(48位) 女子 大沢野(4位) ・高校 男子 高岡向陵(33位) 女子 富山商業(32位) ・都道府県対抗 男子(39位) 女子(38位)</p> <p>令和5年度 ・中学 男子 入善(25位) 女子 大沢野(2位) ・高校 男子 富山商業(34位) 女子 富山中部(55位) ・都道府県対抗 男子(36位) 女子(45位)</p> <p>令和6年度 ・中学 男子 速星(33位) 女子 大沢野(2位) ・高校 男子 高岡向陵(53位) 女子 富山中部(58位) ・都道府県対抗 男子(41位) 女子(39位)</p>



優秀チームとの強化試合
(招待校:大阪桐蔭高校)



強化指定校県外派遣事業
富山第一高校(対三重海星高校)



指導者県外派遣事業
富山商業顧問(亜細亜大学)



6 IoTを活用したスポーツ競技力向上支援事業

概要

現在取り組んでいる競技力向上事業に、IoT技術の活用や普及について支援し、新たな視点で技術や戦術を高めることで競技力の向上に資するもの

内容

全国大会等での活躍が期待でき、IoT機器の活用の要望が高いスポーツ団体に対し、①選手強化事業【合宿や強化練習会等において、IoT機器を活用して技術や戦術を身に付け、競技力の向上を図る】②アナリスト育成事業【IoT機器を活用できる指導者(アナリスト)を育成するための講師を招聘した研修会等の開催】に必要な経費を補助

1 ボートを速く動かすためのデータを取得できるシステムを導入

・県ローイング協会



艇にかかる力の強さと長さ、オール振り角度、チームボートでの漕動作のズレのチェックなど、肉眼では捉えにくい詳細なデータを取得し、漕力やスキルの可視化を図っている。導入によって、効率良く艇を走らせる技術が向上し、競技結果に結びついている。

2 ピッチを上から俯瞰できる可動式広角スポーツAIカメラを導入

・県サッカー協会



専用AIカメラの活用で、撮影画像の自動編集が可能。編集の手間が省けたことで戦術分析やミーティングに時間を割けている。また、AIによる追従映像とパノラマ映像を同時に撮影できるほか、通常のビデオカメラでは難しいピッチの俯瞰映像や逆サイド側視点からのチーム分析も行っている。

7 オリンピック・パラリンピックをを目指す本県の有望選手たち

令和7年2月現在

★ 未来のアスリート発掘事業 終了生

馬場 雄大【バスケットボール 富山市出身】
富山第一高出身 長崎ヴェルカ所属
・東京2020オリンピック 出場
・2024 パリオリンピック 出場



安平 光佑【ハンドボール 氷見市出身】
氷見高出身 フルガンSC(クウェート)所属
・2024 パリオリンピック 出場

保木 卓朗【バドミントン 高岡市在住】
トナミ運輸(株)所属
・2024 パリオリンピック 出場

廣瀬 峻【クロスカントリースキー 富山市出身】
雄山高出身 嵯長田組所属
・2022 北京オリンピック 出場
・2024-25ワールドカップ 参戦

佐々木春乃【ハンドボール 富山市出身】
高岡向陵高出身
ポルシア・ドルトムント(ドイツ)所属
・東京2020オリンピック 出場
・2024 女子アジア選手権 優勝

浦田 樹里【カヌー 上市町出身】
水橋高出身 早稲田大学所属
・2023 スプリントワールドカップ第1戦 出場
・2023 スプリント世界選手権大会 出場



岩井 孝義【車椅子バスケット 魚津市在住】
・東京2020パラリンピック 銀メダル
・2022 シアトセ7ニアチャンピオンシップ 出場

八村 塁【バスケットボール 富山市出身】
奥田中出身 レイカーズ(NBA)所属
・東京2020オリンピック 出場
・2024 パリオリンピック 出場



田中 笑伊【ラグビー7人制 魚津市出身】
東部中出身 ながとブルーエンジェルス所属
・2024パリオリンピック 出場

小林 優吾【バドミントン 高岡市在住】
トナミ運輸(株)所属
・2024 パリオリンピック 出場

山下 陽暉【クロスカントリースキー 南砺市出身】
南砺平高出身 自衛隊体育学校所属
・2022 北京オリンピック 出場
・2024-25ワールドカップ 参戦

大松澤 彩夏【ハンドボール 射水市在住】
アランマーレ富山所属
・2024 アジア選手権 優勝

川除大輝【クロスカントリースキー 富山市出身】
・2018 平昌パラリンピック 出場
・2022 北京パラリンピック 金メダル

岩本美歌【クロスカントリースキー 富山市出身】
・2022 北京パラリンピック 出場

稲場 悠介【水球 富山市出身】
第一学院高出身 ブルボンウォータポロクラブ柏崎
・東京2020オリンピック 出場
・2024 パリオリンピック 出場

村上英士朗【ウエイトリフティング 富山市出身】
清川高出身 いちご(株)所属
・2024 パリオリンピック 出場

中山 楓奈【スケートボード 富山市出身】
龍谷富山高出身 ムラサキスポーツ所属
・東京2020オリンピック ストリート 銅メダル
・2024 パリオリンピック ストリート 7位

高島 瑠唯【ホッケー 小矢部市出身】
石動高出身 ソニーHC BRAVIA Ladies
・2024 ネーションズカップ 出場
・2024 パリオリンピック バックアップメンバー

大橋 聖香【ラグビー7人制 高岡市出身】
高岡西部中出身
久留米大学(ナナイロブリズム福岡)所属
・2024 HSBC SVNS2025 ドバイ大会
・2024 HSBC SVNS2025 ケープタウン大会



藤井友里子【ポッチャ 富山市在住】
・2012 ロンドンパラリンピック 出場
・2016 リオパラリンピック 銀メダル
・東京2020パラリンピック 銅メダル
・2024 パリパラリンピック 出場

河合紫乃【バドミントン 富山市出身】
・2024 日本障がい者選手権大会 優勝

8 各種大会成績一覧

(1) 北信越国民スポーツ大会

第45回北信越国民スポーツ大会成績概要

開催地：石川県 ※福井県（カヌー-SL/WW、ホッケー）、富山県（スポーツクライミングリード）

本県参加競技：30競技98種別

派遣人数：743名（本部役員19名、監督81名、選手643名）

代表権獲得数：45

(2) 国民スポーツ大会

第78回国民スポーツ大会成績概要

《冬季大会ブロック予選会》アイスホッケー

（成年男子）開催地：長野県

開催期間：令和5年12月15日（金）～17日（日）

派遣人数：監督1名、選手19名

・本国スポ出場権獲得

（少年男子）開催地：愛知県

開催期間：令和5年12月16日（土）～17日（日）

派遣人数：監督1名、選手9名

・予選敗退

《冬季大会》スケート競技会・アイスホッケー競技会

開催地：北海道

開催期間：令和6年1月27日（土）～2月3日（土）

派遣人数：監督3名、選手20名

スキー競技会

開催地：山形県

開催期間：令和6年2月21日（水）～24日（土）

派遣人数：監督3名、選手48名

第78回国民スポーツ大会 冬季大会	スケート競技		アイスホッケー競技		スキー競技		合計	
	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位
天皇杯（男女総合成績）	27.0点	21位	10.0点	11位	51.0点	7位	88.0点	18位
皇后杯（女子総合成績）	27.0点	15位			16.0点	10位	43.0点	15位

※得点は参加点・繰り上げ得点を含む

《本大会》

開催地：佐賀県一円、鹿児島県（カヌー-SL/WW）、大分県（自転車ロード）、兵庫県（馬術）

開催期間：会期前① 令和6年9月5日（木）～9月17日（火）

：会期前② 令和6年9月21日（土）～10月1日（火）

：中心会期 令和6年10月5日（土）～10月15日（火）

派遣人数：監督56名、選手339名

競技名	種別	種目	選手及びチーム名（所属は大会当時）	順位
陸上競技	成年男子	3000mSC	鈴木 聖矢(富山大学教職大学院)	3位
	少年女子A	300mH	松木 愛結(龍谷富山高等学校)	7位
水泳	成年男子	【飛込】高飛込	坂田 麗鳳(日本体育大学)	5位
	成年女子	【競泳】200m個人メドレー	山川 陽菜(神奈川大学)	8位
	少年男子	【飛込】飛板飛込	坂田 力毅(富山国際大学付属高等学校)	7位
	少年男子	【飛込】高飛込	坂田 力毅(富山国際大学付属高等学校)	5位
	少年男子A	【競泳】200mバタフライ	森 祐太(高岡商業高等学校)	8位
	少年女子A	【競泳】4×100mメドレーリレー	富山選抜	7位
	少年女子B	【競泳】100m背泳ぎ	大西 琴葉(南砺福野高等学校)	4位
	少年女子B	【競泳】4×100mメドレーリレー	富山選抜	8位
ローイング	成年男子	舵手付きフォア	富山選抜(富山国際大学)	8位
	成年女子	シングルスカル	四方 美咲(榑陽進堂ホールディングス)	3位
ホッケー	少年女子		富山選抜(石動高等学校)	5位
バレーボール	成年女子		富山選抜	5位
バスケットボール	成年男子		富山選抜	5位
レスリング	女子	フリースタイル53kg級	中村 成実(法政大学)	5位
	少年男子	フリースタイル80kg級	大庭 悠生(高岡向陵高等学校)	5位
ウェイトリフティング	成年男子	+109kg級スナッチ	村上英士朗(いちご倶)	1位
	成年男子	+109kg級クリーン&ジャーク	村上英士朗(いちご倶)	2位
	少年男子	81kg級スナッチ	石倉 健佑(滑川高等学校)	6位
	少年男子	89kg級クリーン&ジャーク	中山 龍樹(滑川高等学校)	4位
自転車	女子	500mタイムトライアル	石中 葵(富山大学職員)	6位
ソフトテニス	少年男子		富山県選抜	8位
馬術	成年男子	六段障害飛越	崇田 和之(農業)	8位

バドミントン	成年男子		富山選抜(トナミ運輸株)	5位
	少年男子		富山選抜(高岡第一高等学校)	5位
弓道	成年男子	近的	富山県選抜	8位
	成年男子	50mライフル三姿勢	長谷川智彦(マンテンホテル)	6位
ライフル射撃	成年女子	10mエア・ライフル(60発)	旭 夏希(関西大学)	1位
	少年女子	ビーム・ライフル(60発)	山田 愛弓(南砺福野高等学校)	5位
	成年男子	(スラローム)C-1 (25ゲート)	高木 信寿((公財)富山県スポーツ協会)	6位
カー	成年男子	(スラローム)K-1 (15ゲート)	高木 信寿((公財)富山県スポーツ協会)	5位
	成年女子	(スラローム)C-1 (25ゲート)	荒城 祐佳(ゼビオ株)	5位
	成年女子	(スラローム)K-1 (15ゲート)	荒城 祐佳(ゼビオ株)	6位
	成年女子	(スプリント)K-1 (500m)	浦田 樹里(早稲田大学)	2位
	成年女子	(スプリント)K-1 (200m)	浦田 樹里(早稲田大学)	1位
	少年男子	(スプリント)K-2 (500m)	富山選抜(酒井海・藤縄)	1位
	少年男子	(スプリント)K-2 (200m)	富山選抜(酒井海・藤縄)	3位
	少年女子	(スプリント)K-2 (500m)	富山選抜(酒井星・一橋)	8位
	少年女子	(スプリント)K-2 (200m)	富山選抜(酒井星・一橋)	8位
アーチェリー	少年男子		富山選抜	2位
空手道	成年女子	組手	三島 桜妃(国士館大学)	5位

第78回国民スポーツ大会	本大会				総合(冬季大会含む)			
	競技得点	参加点	得点	順位	競技得点	参加点	得点	順位
天皇杯(男女総合成績)	227.0点	370.0点	597.0点	46位	285.0点	400.0点	685.0点	44位
皇后杯(女子総合成績)	98.5点	330.0点	428.5点	40位	121.5点	350.0点	471.5点	39位

第79回国民スポーツ大会成績概要

《冬季大会ブロック予選》アイスホッケー

(成年男子) 開催地：愛知県
 開催期間：令和6年12月13日(金)～15日(日)
 派遣人数：監督1名、選手17名
 ・本国スポ出場権獲得

(少年男子) 開催地：長野県
 開催期間：令和6年12月21日(土)～22日(日)
 派遣人数：監督1名、選手9名
 ・予選敗退

《冬季大会》スケート競技会・アイスホッケー競技会

開催地：群馬県・岡山県
 開催期間：令和7年1月26日(日)～2月5日(水)
 派遣人数：監督4名、選手22名

スキー競技会

開催地：秋田県
 開催期間：令和7年2月13日(木)～16日(日)
 派遣人数：監督3名、選手47名

競技名	種別	種目	選手及びチーム名(所属は大会当時)	順位
スケート	成年女子	スピード競技1500m	賀来 真穂(ダイチ株)	3位
			百瀬 愛美(ダイチ株)	4位
		スピード競技3000m	百瀬 愛美(ダイチ株)	1位
			賀来 真穂(ダイチ株)	6位
		スピード競技2000mR	前田 稔(ダイチ株)	6位
			丸子 夢実(ダイチ株)	
スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	橋本 哲也(南アクセス)	5位
	成年男子C		水口 雄太(南砺市役所)	5位
	成年男子C		クロスカントリー5kmクラシカル	藤田 紘基(南砺平高等学校教諭)
	少年男子	クロスカントリーリレー	三島 大澄(南砺平高等学校)	4位
			大瀬 優貴(南砺平高等学校)	
			中道 陽人(南砺平高等学校)	
			青能 央宜(南砺市立城端中学校)	
			島田 正叡((公財)富山県スポーツ協会)	
	成年男子	クロスカントリーリレー	宮木 凌((公財)富山県スポーツ協会)	7位
			竹原 義之(農事組合法人野口営農組合)	
			宮木 海(富山市消防局)	
			山崎 彩羽(南砺平高等学校)	
			松平 朱莉(南砺平高等学校)	
	女子	クロスカントリーリレー	宮崎 美樹(早稲田大学)	7位
			野原こより(専修大学)	
山元 豪(ダイチ株)				
成年男子B	スペシャルジャンプ	山元 豪(ダイチ株)	3位	

第79回国民スポーツ大会 冬季大会終了時	スケート競技		アイスホッケー競技		スキー競技		合計	
	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位
天皇杯(男女総合成績)	35.0点	17位	10.0点	13位	37.0点	11位	82.0点	20位
皇后杯(女子総合成績)	35.0点	13位			12.0点	14位	47.0点	15位

※得点は参加点・繰り上げ得点を含む

(3) 全国障害者スポーツ大会

第23回全国障害者スポーツ大会成績概要

開催地：佐賀県佐賀市 他

本県参加競技：6競技18種目

派遣人数：49名（役員等25名、選手24名）

競技名	種目	選手及び所属（所属は大会当時）	順位
陸上競技	50m	朝倉 煌亜（富山視覚総合支援学校）	2位
	立幅跳	朝倉 煌亜（富山視覚総合支援学校）	7位
	立幅跳	石原 諒（富山高等支援学校）	4位
	100m	石原 諒（富山高等支援学校）	1位
	800m	梅澤 ゆとり（富山市）	1位
	100m	梅澤 ゆとり（富山市）	1位
	立幅跳	木村 隆永（高岡高等支援学校）	3位
	100m	木村 隆永（高岡高等支援学校）	3位
	100m	桑名 瑛司（富山市）	5位
	立幅跳	桑名 瑛司（富山市）	4位
	立幅跳	塚田 瑛翔（富山聴覚総合支援学校）	2位
	100m	塚田 瑛翔（富山聴覚総合支援学校）	5位
	立幅跳	中嶋 繁雄（小矢部市）	3位
	砲丸投	中嶋 繁雄（小矢部市）	3位
	100m	永松 靖（富山市）	1位
	ソフトボール投	永松 靖（富山市）	1位
	ソフトボール投	加藤 雅子（富山市）	1位
立幅跳	加藤 雅子（富山市）	2位	
水泳競技	25m平泳ぎ	山田 睦海（南砺市）	1位
	25m背泳ぎ	山田 睦海（南砺市）	3位
	25m平泳ぎ	島田 嵩久（舟橋村）	4位
	25m背泳ぎ	島田 嵩久（舟橋村）	5位
	50m自由形	土開 康平（上市町）	5位
	50mバタフライ	土開 康平（上市町）	5位
卓球	一般卓球	堀田 英雄（上市町）	3位
	一般卓球	新田 夢（富山市）	3位
	一般卓球	山手 大法（富山市）	2位
	一般卓球	谷林 優子（富山市）	1位
	S T T	林 大志（富山市）	3位
フライングディスク	ディスリート7	清本 孔仁（朝日町）	6位
	ディスタンス男子 立位	清本 孔仁（朝日町）	2位
	ディスリート7	中川 元喜（入善町）	3位
	ディスタンス男子 立位	中川 元喜（入善町）	3位
	ディスリート5	寺西 章泰（小矢部市）	1位
	ディスタンス男子 座位	寺西 章泰（小矢部市）	4位
	ディスリート5	屋敷 誠司（氷見市）	8位
ディスタンス男子 立位	屋敷 誠司（氷見市）	5位	
ボッチャ	団体戦	藤井 潤（富山市）	2位
		川村 知也（富山市）	
ボウリング	個人戦	小松 龍成（朝日町）	5位

(4) 全国大会等優勝者一覧

氏名	所属	競技及び大会名
酒井 海倫	富山北部高等学校3年	第20回日本カヌースプリントジュニア・ジュニアユース小松大会 少年男子カヤックシングル500m
		第27回スプリングスプリントカヌー競技大会カヤックペア500m
		第78回国民スポーツ大会カヌー競技少年男子カヌースプリント・カヤックペア500m
藤縄 輔玖	富山北部高等学校3年	第27回スプリングスプリントカヌー競技大会カヤックペア500m
		第78回国民スポーツ大会カヌー競技少年男子カヌースプリント・カヤックペア500m
中嶋 友菜	自衛隊体育学校	第38回全日本女子ウエトリフティング選手権大会 +87kg級
		第16回全日本女子選抜ウエトリフティング選手権大会一般+87kg級
吉田 桔梗	福光スポーツクラブ	第10回全国女子相撲選抜ひめじ大会小学生5年生の部45kg未満級
上澤 俊喜	広島ドラゴンフライズ	Bリーグ1部 (B1) 2023-2024シーズン
森田 和志	東海大学4年	全日本学生柔道優勝大会男子団体
中村 成実	法政大学4年	第70回全日本社会人レスリング選手権大会 53kg級
平井 勇輝	高岡TC	全日本パワーリフティング選手権大会「第29回マスターズクラシック部門」男子105kgマスターズI (40代)
眞田明花李	滑川高等学校3年	令和6年度全国高等学校総合体育大会ウエトリフティング競技大会女子 +76kg級
		第16回全日本女子選抜ウエトリフティング選手権大会高校+87kg級
		令和6年度第45回全日本ジュニアウエトリフティング選手権大会+87kg級
石中 葵	富山県自転車競技連盟	第55回JBCF全日本トラックチャンピオンシップ女子500mタイムトライアル
鎌田望琉人	高岡商業高等学校3年	第47回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会競泳男子100m平泳ぎ
坂田 力毅	富山国際大付属高等学校2年	第47回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会飛込男子3mシンクロナイズド
辻本 侑央	砺波市立庄川中学校3年	第4回全日本ビーチバレーボール中学選手権大会男子
坂井 旭	砺波市立庄川中学校3年	
村上 泰雅	日本体育大学3年	第51回全日本大学ローイング選手権大会男子ダブルスカル
松田 美悠	(公財) 富山県スポーツ協会	第78回SAGA2024国民スポーツ大会パワーリフティング公開競技 成年女子重量級
		第29回ジャパンクラシックパワーリフティング選手権 女子の部84kg級
高橋 洸士	トナミ運輸㈱	バドミントン競技 全日本社会人選手権男子シングルス
浦田 樹里	早稲田大学	日本選手権大会 令和6年度日本カヌースプリント選手権大会 女子カヤックシングル200m
		第78回国民スポーツ大会カヌー競技成年女子カヌースプリント・カヤックシングル200m
ゴールドFOX		ホッケー全日本マスターズ大会
旭 夏希	関西大学3年	第78回国民スポーツ大会ライフル射撃競技10mエアライフル女子60発
村上英士朗	いちご㈱	第78回国民スポーツ大会ウエトリフティング競技成年男子+109kg級スナッチ
中村 成実	法政大学4年	2024年全国社会人オープン選手権53kg級
内山 彰博	㈱内山精工	第23回熟練者唐手道場選手権大会 男子個人50～54歳 組手
		第23回熟練者唐手道場選手権大会 男子個人50～54歳 形
大西 大晶	㈱ソーシャルヘッジホッグ	三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権 スタンダード部門
大西 咲菜	㈱ソーシャルヘッジホッグ	三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権 スタンダード部門
坂又 久善	WEST	第7回全日本ラージボール卓球選手権大会男子シングルス40 (40歳以上)
高嶋 瑠唯	ソニーHCBRAVIA Ladies	第85回全日本女子ホッケー選手権大会
高嶋 鈴唯	ソニーHCBRAVIA Ladies	第85回全日本女子ホッケー選手権大会
加藤 凌聖	LIEBE栃木	第98回全日本男子ホッケー選手権大会
村田 和麻	LIEBE栃木	第98回全日本男子ホッケー選手権大会
堀田みず希	高岡商業高等学校1年	第3回全日本女子ジュニア選手権大会 女子Jr. ライト級
柴田 聖椰	JBCふちゅう	第33回全国小学生バドミントン選手権大会 都道府県対抗団体戦 女子
福田 梨乃	JBCふちゅう	
土師みちる	JBCふちゅう	
野崎 優月	新湊カモンSC	
舩田 舞羽	高岡ジュニアバドミントンクラブ	
山田 茉央	朝日丘BC	
川除 大輝	日立ソリューションズ	第27回全日本障害者クロスカントリースキー競技会4.5kmフリー
		第27回全日本障害者クロスカントリースキー競技会2.5kmクラシカル
柴田 聖椰	JBCふちゅう	第33回全国小学生バドミントン選手権大会 個人戦6年生女子ダブルス
土師みちる	JBCふちゅう	
百瀬 愛美	ダイチ㈱	第79回国民スポーツ大会冬季大会スケート競技会 スピードスケート競技成年女子3000m
山下 陽暉	自衛隊体育学校	第103回全日本スキー選手権距離 スプリント・フリー (1.3km)
廣瀬 峻	㈱長田組	第103回全日本スキー選手権距離 10kmクラシカル (マスタート方式)
河合 紫乃	セイリン㈱	第10回DAIHATSU日本障がい者バドミントン選手権大会 女子シングルス 下肢障害SL3
上野 香晴	富山第一高等学校2年	令和6年度全国高等学校総合体育大会 第74回全国高等学校スキー大会 女子回転
トナミ運輸㈱		バドミントンS/Jリーグ2024 男子の部
石井 斐毬	富山市立新庄中学校3年	スノーボード全日本選手権女子スロープスタイル
清利 葵乃	砺波工業高等学校2年	第37回全国高等学校選抜スキー大会女子スラローム

1 スーパートレーナー設置事業

豊富な経験と高い見識（オリンピック等で日本代表選手のサポート実績を有する）をもったスーパートレーナーを配置している。

強化練習会・合宿会場・競技会場等において、トレーニングやコンディショニングのサポートに携わることで、選手が最大限のパフォーマンスを引き出せるように現場指導の充実を図っている。特に、女子選手への継続的指導や大会へ帯同し、トレーニング効果（試合内容や最終成績）を分析・検証することで、さらなる競技力向上のためのトレーニングメニューを提供することができるようになった。

【スーパートレーナーの役割】

(1) オリンピック候補などの日本代表の有望選手や強化指定選手に対するサポート強化

- 全日本強化指定選手・国スポ強化指定選手等を対象としたトレーニング指導
- 競技の特性や個々の選手に対応したトレーニングメニューの提供
- サポート拠点施設や大会等の現場におけるきめ細やかなトレーニング指導

(2) 練習拠点における県選抜チームの指導者（監督・コーチ）の育成・強化

- 大会会場や練習会場へスーパートレーナー・認定トレーニング指導員、認定アスレチックトレーナーを派遣
- 試合内容や最終成績、連携機関での定期的な体力測定からトレーニング効果を分析・検証することによる指導内容・方法の提案

(3) サポート拠点施設の指導員の資格取得の促進・指導力の向上

- 県総合体育センター・県西部体育センターの現有職員の資格取得を促進
- 認定トレーニング指導員の配置充実
- スーパートレーナーが現場で臨機応変に指導できる認定トレーニング指導員を養成



【期待される効果】

- ①世界大会やオリンピックに出場する選手の増加
- ②国スポや全国高校総体・全国中学校大会での上位入賞数の増加
- ③各競技種目の指導者（監督・コーチ）への医科学的サポートの理解促進、指導内容の充実

東京五輪 銅メダル
中山楓奈（スケートボード女子ストリート）

【これまでの成果】

- スキー・アルペン 全国中学校体育大会、ジュニアオリンピック入賞
- 水泳・飛込 全国中学、全国高等学校体育大会入賞、JOC入賞
- スケート 国スポ（国体）入賞（スピード、ショート）
 - 継続的サポートによるフィジカル強化及び大会へのコンディショニングサポート
- ハンドボール 全国高校選抜ベスト4
 - 継続的サポートによるフィジカル強化及び大会へのコンディショニングサポート
- 女子駅伝チームへの継続的なコンディショニング指導
- 指導者の意識改革（最先端の指導法の伝授）
 - 指導力向上への意欲を喚起
- 少年種別へスーパートレーナーの継続的指導
- スケートボード オリンピック銅メダル

2 令和6年度 スポーツ関係被表彰者

(1) 叙 勲

① 令和6年春の叙勲

〈スポーツ振興功労〉

旭日双光章 宇多 慎司 (元県レスリング協会会長)

② 令和6年秋の叙勲

〈スポーツ振興功労〉

旭日単光章 川島 茂 ((一財) 富山陸上競技協会副会長)

(2) 県表彰

① 県民栄誉賞

該当者なし

② 特別表彰

該当者なし

③ 県功労表彰 (県知事表彰)

〈スポーツ功労〉

大屋 要一 (元県レスリング協会副会長)

矢郷 博昭 (県フェンシング協会副会長)

荒木 純 (トナミ運輸株式会社バドミントン部総監督兼副部長)

④ 部門功労表彰 (県知事表彰)

〈スポーツ功労者〉

荒谷 啓子 (県ママさんバレーボール連盟会長)

亀澤 敏明 (県フェンシング協会副会長)

碓井 淳一 (元県武術太極拳連盟副会長)

〈優秀スポーツ選手・団体〉

国民スポーツ大会冬季大会スキー競技クロスカントリーリレー成年男子富山県チーム

竹原 義之 山崎 大翔 山下 陽暉 廣瀬 峻

(第78回国民スポーツ大会冬季大会優勝)

旭 夏希 (第78回国民スポーツ大会優勝 ライフル射撃競技10mエア・ライフル女子60発)

〈優良スポーツ団体〉

小矢部RED OX (小矢部市)

特定非営利活動法人KUサポートクラブWill (黒部市)

滑川ジュニアレスリングチーム (滑川市)

ナントスイミングクラブ (南砺市)

射水市陸上競技協会 (射水市)

⑤ 教育功労者等表彰 (県教育委員会表彰)

〈優良教職員〉

該当者なし

〈優良体育・スポーツ活動推進者〉

森 祐太（第46回 JOC ジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会
男子15～16歳 200m バタフライ 優勝）

鎌田 望琉人（令和6年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会
男子100m 平泳ぎ 優勝
第47回 JOC ジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会
男子100m 平泳ぎ 優勝）

眞田 明花李（令和5年度第39回全国高等学校ウエイトリフティング競技選抜大会 優勝
令和6年度全国高等学校総合体育大会ウエイトリフティング競技大会 優勝）

全国小学生バドミントン選手権大会都道府県対抗団体戦女子富山県チーム
（第32回全国小学生バドミントン選手権大会都道府県対抗団体戦女子 優勝）

氷見市立西條中学校男子ハンドボール部
（第19回春の全国中学生ハンドボール選手権大会 優勝）

富山市立榆原中学校男子ボート部 中村 修真・村田 遥希 組
（第44回全日本中学選手権競漕大会男子ダブルスカル 優勝）

上市町カヌークラブ 新田 珠愛 平井 杏 組
（JOC ジュニアオリンピックカップ令和6年度全国中学生カヌースプリント選手権
大会女子カナディアンペア 優勝）

富山県立富山北部高等学校カヌー部 酒井 海倫・藤縄 輔玖 組
（第78回国民スポーツ大会カヌー競技少年男子カヌースプリント・
カヤックペア 500m 優勝）

（3）文部科学大臣表彰

〈生涯スポーツ功労者〉

福光 義明（県バレーボール協会副会長）
中條 初美（県フォークダンス連盟副会長）
安田 幸之（県スポーツ少年団指導者協議会会長）
横山 直一（県スポーツ少年団本部長）

〈生涯スポーツ優良団体〉

中太閤山少年野球クラブ（射水市）
高岡ジュニアバドミントンクラブ（高岡市）
なめりCANクラブ（滑川市）
黒部市陸上競技協会（黒部市）

〈スポーツ推進委員功労者〉

宮塚 功（南砺市）
福江 清美（小矢部市）

3 とやま県民スポーツ大賞受賞者一覧

賞の趣旨

本県スポーツの普及・振興に尽力した個人・団体及びスポーツを通じた地域の活性化や子供の体力向上に貢献した個人・団体の功績を称え、生活環境文化部長から賞を贈呈するもの

部 門

- ミドル・シニアアスリート部門
長年にわたり活動を継続し、顕著な功績をあげた個人・団体
- サポート部門
地域・職場の指導者や部活動の優秀な指導者
地域で活動する選手やチーム等を支援した団体
- 地域活性化部門
スポーツ活動を通じて地域の活性化に貢献した個人・団体
子供の体力向上において顕著な成果を収めた団体

【とやま県民スポーツ大賞 最優秀賞】

◆ミドル・シニアアスリート部門

No.	受賞者名	所属
1	坂又 久善	WEST
2	中西 美雄	富山市ユニバーサル・ サウンドテーブルテニスクラブ

◆サポート部門

No.	受賞者名	所属
1	五十嵐 静夫	砺波市パークゴルフ協会

◆地域活性化部門

No.	受賞者名	所属・代表者
1	大西 陽来里	認定NPO法人 富山県ダンススポーツ連盟
2	朝日体育協会	会長 吉川佳英
3	富山大学教育学部附属特別支援学校	校長 小林 真

【とやま県民スポーツ大賞 優秀賞】

◆ミドル・シニアアスリート部門

No.	受賞者名	所属・代表者
1	中山美紀子	魚津市パークゴルフ協会
2	新鞍 正孝	滑川市パークゴルフ協会
3	藤田 英子	富山マスターズ陸上競技連盟

No.	受賞者名	所属・代表者
4	全国健康福祉祭卓球交流大会 「富山県選抜チーム（キトキト富山）」	監督 服部 一幸
5	日本スポーツマスターズ バドミントン競技会「富山県選抜チーム」	監督 末坂 進

◆サポート部門

No.	受賞者名	所属
1	鍛冶 秀憲	横田スプリングス スポーツ少年団
2	小池 仁志	立山ジュニアバドミントン スポーツ少年団
3	志摩 秀一	滑川中学校剣道部
4	順徳 潤	般若中学校 女子バスケットボール部
5	高瀬 友也	経田野球スポーツ少年団
6	高田 康平	高岡市柔道連盟
7	高見 敏典	錬成塾
8	出村 一徳	出町中学校 女子バドミントン部
9	長田 裕	木津ソフトテニス スポーツ少年団

No.	受賞者名	所属
10	中村 大介	上市高等学校空手道部
11	長森 清	富山県パラスポーツ 指導者協議会
12	布橋 隆男	高陵中学校 女子バスケットボール部
13	畑 比呂志	庄西中学校女子卓球部
14	林 正明	戸出中学校 男子バスケットボール部
15	宮田 正春	津沢中学校柔道部
16	藪下 秀之	十三中学校バドミントン部
17	山本 幹雄	西條中学校 男子ハンドボール部

◆地域活性化部門

No.	受賞者名	所属・代表者
1	佐藤 直也	ミライユウ
2	鍋谷 政和	マラソン（入善町）
3	牧野 和子	レクリエーションダンス
4	横山里絵子	マラソン（入善町）
5	黒部市剣道協会	会長 大久保和雄
6	黒部市柔道協会	会長 魚谷 明弘

No.	受賞者名	所属・代表者
7	グラウンド・ゴルフ林支部	会長 五十里 恣
8	庄川柔道スポーツ少年団	代表 石黒 淳一
9	利賀スポーツクラブ	理事長 河崎真吾
10	富山市立新庄北小学校	校長 長谷川泰久
11	富山市立北部中学校	校長 牧 勇人
12	八人町地区スポーツ協会	会長 黒崎 浩一

4 プロスポーツ活用による地域振興

(1) プロスポーツチームが行う地域貢献活動への支援

○プロスポーツチーム地域貢献活動活性化事業

プロチームの運営会社が取り組む地域貢献活動等事業に要する経費に対する補助

○プロスポーツチームによるキャリア教育推進事業

プロスポーツチームの資源・ノウハウを活用し小中学生向けの技術指導事業を実施（委託事業）

○とやまのプロスポーツ魅力PR・関係人口拡大推進事業

プロチームと連携して、県外の試合会場等において、とやまブランド等本県の魅力PRや関係人口拡大に要する経費に対する補助



(2) プロスポーツチーム・観戦への支援

○ガンバレ富山応援バス事業

県内競技会場へ観戦者送迎に要する経費に対する補助
(バスの借上料 1 / 2)

○福祉施設児童等ホームゲーム招待事業

児童養護施設の児童や障害者等の無料招待に要する経費に対する補助

(入場料 1 / 2、送迎バス運行経費 10 / 10)

○県有施設の使用料減免

施設使用料の 1 / 2 減免

【参考】 プロスポーツチームの概要

チーム名	 カタールレ富山	 富山 GRN サンダーバーズ	 富山グラウジーズ
参入年度	平成 21 年度	平成 19 年度	平成 18-19 年度
勝敗(順位)	R6 シーズン	R6 シーズン	R5-R6 シーズン
	16 勝 16 敗 6 分 (J3 3 位/20 チーム中)	17 勝 20 敗 2 分 (リーグ 2 位/2 チーム中)	4 勝 56 敗 (中地区 8 位/8 チーム中)
平均観客数	4,092 人 (R6)	217 人 (R6)	4,180 人 (R5-R6)

5 指導者研修会等の開催

(1) 指導者研修会等の開催

① 富山県安全登山講習会

ア 期日・会場 座学・実技：令和6年11月23日（土・祝）

＜富山県総合情報センター＞

イ 講習内容

・座学 ①「山岳遭難の防止対策」飛弾晶夫氏（富山県警察山岳警備隊長）

②「登山アプリを使って安全登山」矢島夕紀子氏（株式会社ヤマップ）

・実技 ①「テーピング実習」舟坂浩史氏（富山西総合病院理学療法士）ほか2名

②「体調不良時の対処と予防」中田裕子氏（山岳看護師）

ウ 参加者 座学：51名 実技：48名

② 水泳指導者講習会

ア 期日 令和6年6月5日（水）

イ 内容 実技講習「救急法（心肺蘇生法、AEDの使用法）」「水泳の指導法」

ウ 講師 射水市体育協会、NPO法人SEIBUスポーツクラブ 他

エ 参加者 教員（公、私、国）39名

③ 集団登山引率者講習会

ア 期日 令和6年6月27日（木） オンラインによる講義（午後）

28日（金） 日帰りの立山登山

7月 4日（木） オンラインによる講義（午後）

5日（金） 日帰りの立山登山

イ 内容 講義「立山の自然や歴史」「立山での事故事例や危急時の対応」

実習「立山登山」

ウ 講師 富山県山岳連盟、県警察山岳警備隊 他

エ 参加者 立山等の登山を計画している学校の教員（公、私、国）19名

④ 中・高等学校体育実技指導者講習会

ア 期日 令和6年6月20日（木）

イ 内容 実技「器械運動」「球技」「剣道」

ウ 講師 中央研修受講者

エ 参加者 中学校・高等学校・特別支援学校の保健体育担当教員（公、私、国）78名

⑤ スポーツ施設等安全管理講習会

ア 期日 講義 令和6年7月17（水）から8月31日（土）まで

※受講者が各自でウェブサイト上の講義動画を視聴する形式で実施

実技 令和6年5月31日（金） 富山県総合体育センター50m温水プール

イ 内容 講義「水泳プールの安全管理について」

実技「水泳安全法」

ウ 講師 講義 北條 龍治 氏（特定非営利活動法人日本プール安全管理振興協会 理事長）

実技 日本赤十字社センター富山支部

エ 参加者 県・市町村体育施設担当者、小・中学校及び幼稚園・保育所・認定こども園職員、公立・民間プール施設設置者・管理者及び監視員 等

⑥ 小学校体育実技指導者講習会

- ア 期 日 令和6年8月1日(水) 東部管内
令和6年8月2日(木) 西部管内
イ 内 容 実技「幼児の運動遊び」「体づくり運動系」「表現運動系」
ウ 講 師 中央研修受講者
エ 参加者 小学校・特別支援学校の教員、幼稚園教諭 104名

⑦ 地域スポーツクラブスキルアップ研修会

【第1回】

- ア 期 日 令和7年1月20日(月)
イ 内 容 「地域・スポーツの広報戦略～自分たちに適した広報とは～」
ウ 講 師 明石 あおい 氏(株式会社ワールドリー・デザイン 代表取締役)
エ 参加者 総合型地域スポーツクラブ関係者 18名

【第2回】

- ア 期 日 令和7年2月24日(月・休)
イ 内 容 「スポーツ団体のリスクマネジメント」
ウ 講 師 谷塚 哲 氏(REGISTA SPORTS MANAGEMENT 代表)
エ 参加者 市町村スポーツ関係団体 70名

⑧ 日本スポーツ協会公認アシスタントマネジャー養成講習会

令和6年度は実施せず

⑨ 県生涯スポーツ協議会指導者研修会

- ア 期 日 令和6年11月15日(金)
イ 内 容 「笑顔あふれる生涯スポーツ ～全ての経験を力に～」
ウ 講 師 雷鳥おねえちゃん 氏(姉弟お笑いコンビ「雷鳥」)
エ 参加者 県生涯スポーツ協議会加盟団体 38名

⑩ スポーツ少年団指導者研修会

- ア 期 日 令和7年2月24日(月・祝)
イ 内 容 講義①「スポーツ少年団の魅力発信し、活動環境を整える」
講師 伊藤 秀志 氏(日本スポーツ少年団指導者協議会 運営委員長)
講義②「スポーツ団体のリスクマネジメント」
講師 谷塚 哲 氏(REGISTA SPORTS MANAGEMENT 代表)
ウ 参加者 スポーツ少年団役職員・指導者・事務局担当者・育成母集団(団員保護者)
新年度登録予定指導者他 80名

⑪ 富山県スポーツ推進委員研修会

- ア 期 日 令和6年12月8日(日)
イ 内 容 講義 講演「地域スポーツをより活性化するコミュニケーション力」
講師 株式会社ドリームパイプライン 代表 安藤 秀樹 氏
実技①「身体の機能的な動かし方 ファンクショナルボディー」
講師 富山GRNサンダーバーズ
メソッドコンディショニング専属トレーナー 高橋 真 氏
実技②「ネットキャッチバレー」

講師 高岡市スポーツ推進委員 研修部委員

ウ 参加者 スポーツ推進委員及び市町村生涯スポーツ担当 270名

⑫ 県立学校体育施設開放管理指導員等研修会

ア 期 日 令和6年11月23日(土・祝)

イ 内 容 「スポーツ外傷、障害における応急対応」

ウ 講 師 梅野 晃氏(富山県リハビリテーション病院・こども支援センター)

エ 参加者 県立学校体育施設開放管理指導員 29名

⑬ 部活動指導者研修会

「コンプライアンス研修」

ア 期 日 令和6年4月27日(土)

イ 内容・講師 ①「部活動におけるコンプライアンスについて」

講師 県教育委員会保健体育課

②「望ましい部活動指導の在り方について」

講師 谷口 央 氏(鍛冶谷口法律事務所弁護士)

ウ 参加者 スポーツエキスパート、部活動指導員(文化部を含む)等 394名

「救命研修」

ア 期 日 令和6年9月28日(土)・12月14日(土)

イ 内 容 「心肺蘇生法とAEDの使用について」

ウ 講 師 富山市消防局職員

エ 参加者 スポーツエキスパート、部活動指導員(文化部を含む)等 171名

「オンデマンド研修」※自由選択研修

ア 期 日 令和6年4月27日(土)～令和7年3月31日(月)

イ 内容・講師 ①「アンガーマネジメント」

講師 富山県教育委員会保健体育課

②「アスリートのためのトレーニング(基礎編・目的別編)」

講師 山地 延佳 氏(富山県総合体育センター)

③「ダッシュ王になる～どの種目にも通じる走動作～」

講師 福島 洋樹 氏(富山大学教育学部准教授)

④「部活動指導における子ども心理の理解と対応」

講師 石津憲一郎 氏(富山大学富山大学大学院教職実践開発研究科教授)

ウ 参加者 自由選択のため集計せず

⑭ 富山県公認初級パラスポーツ指導員養成講習会

ア 対象者 障害スポーツの振興に意欲のある18歳以上

イ 期 日 令和6年11月24日(日)・30日(土) 12月1日(日)・8日(日)

ウ 内 容 第1回

実技「各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫」

講師 泉 敏郎 氏(帝京平成大学人文学部准教授)

講義「各障がいの理解」(視覚・聴覚・精神)

講師 高島 豊 氏(富山県視覚障害者福祉センター所長)

土田 昌作 氏(富山県聴覚障害研究会理事)

上波 薫 氏(医療法人社団信和会障害者社会復帰センター

あゆみの郷センター長)

第2回

講義「各障がいの理解」(肢体)

講師 岩沢 智宏 氏(西能病院整形外科医長)

講義「パラスポーツに関する諸施策」

講師 高木 拓実 氏(富山県厚生部障害福祉課管理係長)

山田 二郎 氏(富山県生活環境文化部スポーツ振興課副主幹)

講義・演習「コミュニケーションスキルの基礎」

講師 福島 洋樹 氏(富山大学教育学部准教授)

講義「全国障害者スポーツ大会の概要」

講師 恒川 修 氏(富山県障害者スポーツ協会事務局長)

第3回

講義「各障がいの理解」(知的)

講師 東 真盛 氏(めひの自閉症地域生活支援センター長)

講義「スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質」

講師 神野 賢治 氏(富山大学教育学部准教授)

講義「パラスポーツの意義と理念」

講師 奥田 睦子 氏(京都産業大学現代社会学部教授)

講義「安全管理」

講師 金澤 芳光 氏(独立行政法人地域医療機能推進機構

金沢病院整形外科診療部長)

第4回

講義「各地域のパラスポーツ推進の取り組み」

講師 箕島 英二 氏(富山県パラスポーツ指導者協議会会長)

実技「障がいのある人との交流」～実技～

講師 箕島 英二 氏(富山県パラスポーツ指導者協議会会長) 他

エ 受講者 13名

3（1）報告事項

- ②令和7年度スポーツ関係予算の概要・・・P1
- ③「令和6年度県政世論調査」結果概要・・・P2～3

令和7年度スポーツ関係予算の概要

県民が誰もがスポーツに親しむことができる環境の充実

- (拡) 富山県武道館整備事業 (6,600万円) ※継続費設定⑦～⑨89億6,115万円
富山県武道館の整備に係る建設工事等の実施
- (新) 県総合運動公園における民間活力導入社会実験等調査事業 (600万円)
富山県総合運動公園の更なる魅力向上のため、社会実験（トライアルサウンドイン）を実施し、民間活力の導入に向けた市場性・採算性等を調査
- ・ 県民スポーツ機会創出事業 (750万円)
- ・ 文化・スポーツ施設の予約システム導入推進事業 (380万円)
- ・ 障害者スポーツ活動総合推進事業 (2,008万円)
- ・ 県民向け自転車普及啓発事業 (300万円) [地創]
- ・ 「富山湾岸サイクリング2025」の開催 (180万円) [地創]
開催日：令和7年4月20日（日）、募集人数：1,500人
- ・ 県営スポーツ施設の整備〈公共・主要県単〉 (3.9億円)

スポーツを通じた関係人口の創出と地域の活性化

- (新) スポーツコミュニティ活動事業 (3,000万円)
関係人口の創出や地域活性化を推進するため、県や市町村、スポーツ団体、民間企業等が一体となった県版のスポーツコミュニティを設立・運営
- (新) 県総合運動公園を拠点とした関係人口創出事業 (1億円)
観客席等の設備を更新し、カタールレ富山のホームゲーム等の観戦のため訪れる方々への満足度を向上
- (新) スキーモーグルワールドカップ開催支援事業 (1,000万円)
ミラノ・コルテイナ2026オリンピック冬季競技大会後のスキモーグルワールドカップの県内初開催を支援
- (新) ボールシティとやまプロジェクト支援事業 (1,250万円)
令和8年に本県で開催されるプロ野球オールスターゲームを契機とした地域活性化の取り組みを支援
- (拡) 「富山マラソン2025」の開催 (9,462万円)
開催日：令和7年11月2日（日）、募集人数：14,330人（併設レース含）
- ・ 環日本海インターハイ親善交流大会 (497万円) [教委]

運動好きなきな子ども育成と地域と連携した学校体育・スポーツの充実

- ・ 地域部活動（運動部）推進事業 (6,468万円) [教委]
休日の部活動の段階的な地域展開（移行）に関する実証事業等
- (新) スポーツを通じた共生社会推進事業 (110万円) [教委]
スポーツを通じた共生社会、インクルーシブ教育等の理念等を盛り込んだ運動指導方法の研究や指導者派遣、多様な幼児・児童・生徒が共に学ぶスポーツ事業の実施。
- ・ 武道指導者資質向上支援事業 (413万円) [教委]
- ・ とやまっ子ワクワク運動体験応援事業 (540万円) [教委]
Webアプリや動画を活用した「運動遊び」等の普及・啓発事業、映像資料の作成

全国や世界の檜舞台で活躍できる選手の育成

- (新) 重点競技強化推進事業 (1,050万円)
メデイア露出の多い高校野球、高校サッカー、駅伝競技に加え、新たな競技種目に対し、競技スポーツ団体が主催する強化事業を支援
- ・ TOYAMAアスリートマルチサポート事業 (920万円)
スポーツ医・科学に基づき一貫した体力トレーニング体制を構築し、オリンピックや世界で活躍できる選手を育成
- ・ IoTを活用したスポーツ競技力向上支援事業 (300万円)
IoTの活用による競技データの収集・分析、客観的数値に基づく選手の育成・強化を支援

スポーツを支える人材の育成と活用

- ・ 部活動指導員配置促進事業 (4,452万円) [教委]
学校の運動部活動に地域の優れたスポーツ指導者を配置
- ・ スポーツエキスパート派遣事業 (1,174万円) [教委]
学校の運動部活動に地域の優れたスポーツ指導者を派遣
- ・ スーパートレーナーの設置 (659万円)
オリンピック等で日本代表選手サポート経験のある専門知識を有したトレーナーによる支援

「令和6年度県政世論調査」結果概要

1 調査概要

- ・ 調査対象：県内に居住する満18歳以上の男女4,000人
- ・ 調査期間：令和6年8月9日～9月6日
- ・ 調査方法：層化副次（2次）無作為抽出法、郵送調査法（回答にはWEB回答を併用）
- ・ 回収数（率）：1,934（48.4%）
- ・ 有効回答（率）：1,912（47.8%）
- ・ 回答者の特性：【性別】男性42.7%、女性54.2%（無回答2.0%）
 【年齢】「70歳以上」（21.6%）、「60歳代」（22.1%）、「50歳代」（22.0%）
 「40歳代」（17.6%）、「30歳代」（11.3%）、「20歳代」（4.6%）
 「18、19歳」（0.2%）

2 調査結果の概要

◆政策の満足度◆

(%)

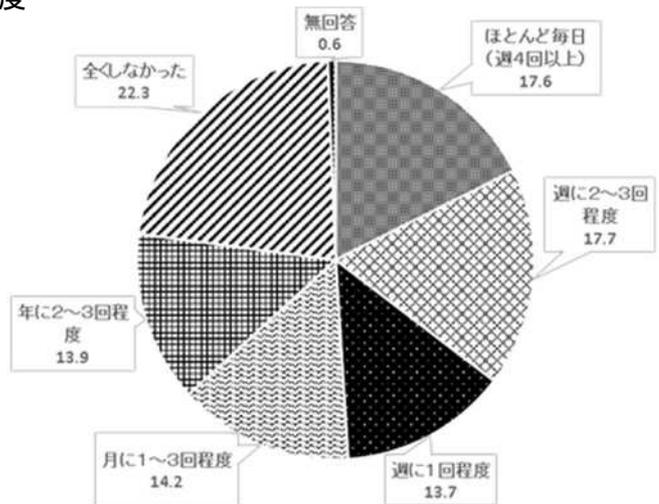
項目	R6	R5	R4	R3
スポーツの振興	17.2	18.7	21.4	23.0

◆スポーツ実施率調査◆

①この1年間に行った運動やスポーツの回数の程度

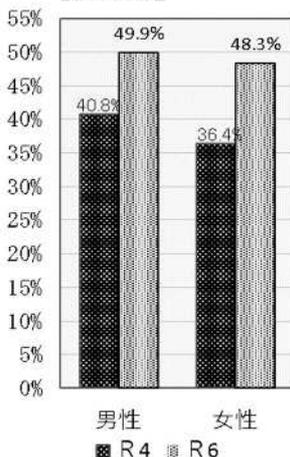
(%)

回数の程度	R6	前回 R4
ほとんど毎日（週4回以上）	17.6	9.6
週に2～3回程度	17.7	14.6
週に1回程度	13.7	14.6
小計	49.0	38.8
月に1～3回程度	14.2	13.3
年に2～3回程度	13.9	12.5
全くしなかった	22.3	33.4
無回答	0.6	2.0

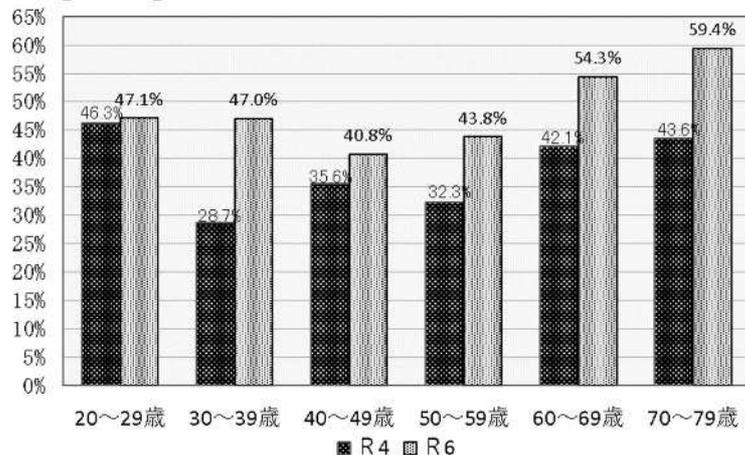


スポーツ実施率の推移（週1回以上の割合）

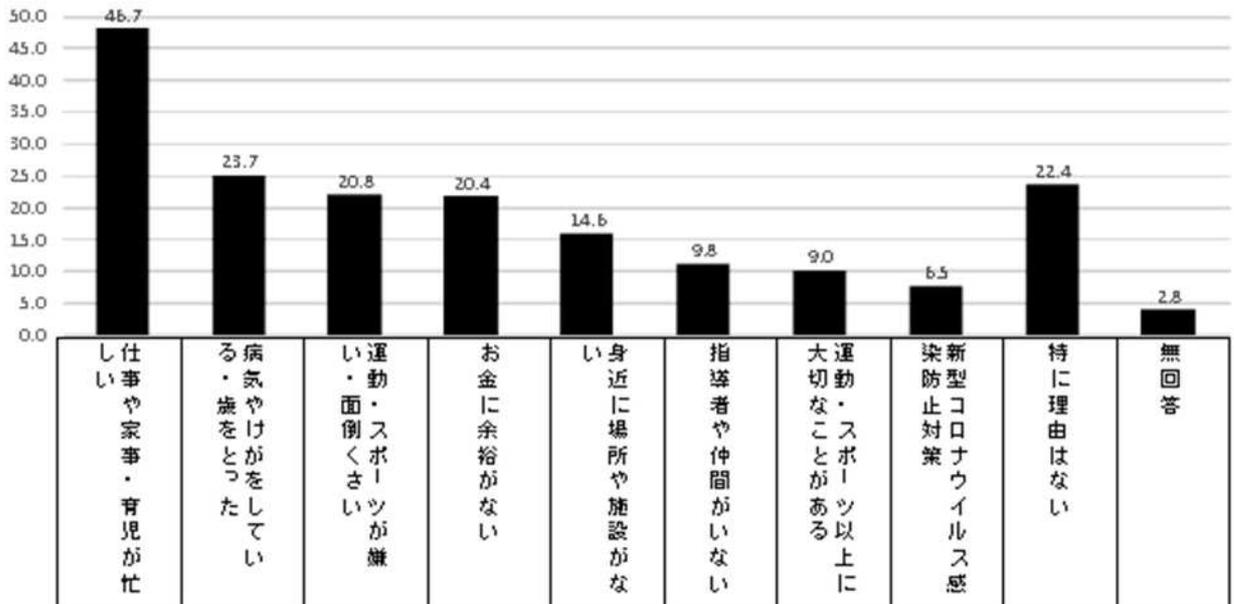
【男女別】



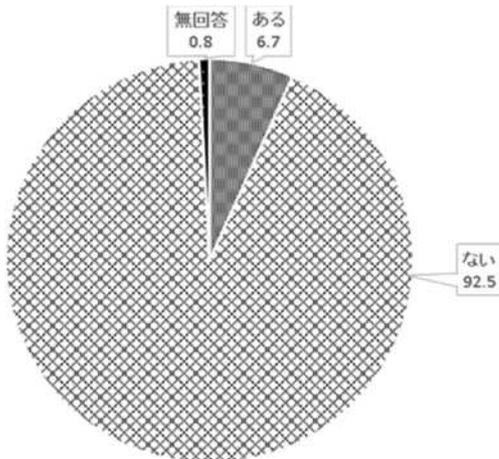
【年代別】



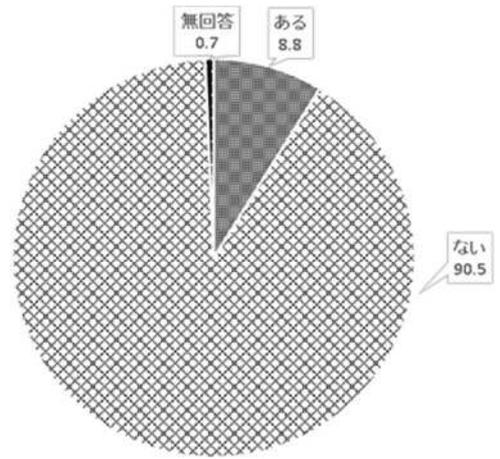
②運動・スポーツを実施できなかった理由（複数回答）



③障害者スポーツ・パラスポーツ体験（単一回答）



④障害のある人とない人で、一緒に運動・スポーツ実施（単一回答）



<調査結果を受けて>

- ・週1回以上運動・スポーツを実施する県民の割合は49.0%と前回（R4）の38.8%より増加した。特に30代の実施率が前回（R4）の28.7%から47.0%と大幅な増となった。
- ・一方で、40代や女性の実施率が低く、運動やスポーツを全くしていない県民の割合が22.3%となっている。

<今後の取組>

- ・県民誰もがそれぞれの興味、関心、ライフステージに応じて、一生涯にわたって主体的にスポーツを楽しむことができる環境の充実と気軽にスポーツに参加できる機会の創出
（多様な主体におけるスポーツの機会創出、スポーツ施設の機能の充実と活用の促進、スポーツ情報等の発信 など）
- ・日常生活の中で簡単に取り組むことができる運動・スポーツの普及・啓発
（ウォーキングやランニング、体操 など）

資料 4

3 (2) 審議事項

「新たなスポーツプラン（答申案）」について

（仮称）富山県スポーツ推進プラン （案）

計画期間：令和7年度～令和11年度

令和7年4月
富山県・富山県教育委員会

目 次

第1章 プランの概要

1. 改定の趣旨	1
2. プランの性格	2
3. プランの期間	2
4. プランの体系	3

第2章 基本構想

1. 基本目標	4
2. 基本施策	5

第3章 スポーツ推進の具体的方策

基本施策1 「県民誰もがスポーツに親しむことができる環境の充実」	8
基本施策2 「運動好きな子どもの育成と地域と連携した 学校体育・スポーツの充実」	14
基本施策3 「全国や世界の檜舞台で活躍できる選手の育成」	20
基本施策4 「スポーツを支える人材の育成と活用」	25
基本施策5 「スポーツを通じた関係人口の創出と地域の活性化」	30

第4章 プランの実現に向けて

1. 推進体制	35
2. プランの評価等	35

第1章 プランの概要

1. 改定の趣旨

スポーツは、心身の健全な発達、健康および体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養等のために重要な役割を果たしています。また、全国や世界の檜舞台で活躍する選手の姿は、人々に勇気と感動、子どもたちに夢と希望を与え、郷土愛を育む活力にあふれた地域づくりに大きく貢献するとともに、人と人、地域と地域の交流を促進し、関係人口の創出や地域の活性化に繋がるなど、様々な意義や価値を有し、人々が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠なものとなっています。

本県では、令和2（2020）年4月に令和11（2029）年度までを計画年度とした“スポーツで輝く社会の実現—スポーツを楽しみ、健康で活力ある社会の実現—”を目標とした「第2期元気とやまスポーツプラン」を策定し、5つの基本施策を掲げ、積極的に施策を展開してきました。

この結果、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会で5名のメダリストが誕生するなど、国内外での富山県ゆかりの選手やチームの活躍は、県民のスポーツ活動への関心を高めています。

一方で、子どもの体力低下傾向に概ね歯止めがかかっているものの、運動習慣の二極化の進行や、運動・スポーツ習慣が定着している県民の割合が国の平均を下回るなど、計画に掲げる目標に達していない施策もあり、課題が残されています。また、少子化の進行とともに、人口減少傾向は加速しており、高齢化もさらに進むことが見込まれています。これらは、スポーツに参画する者やそれを支える担い手の不足、学校部活動や地域におけるスポーツ・運動環境の維持の困難さにつながります。このため、あらゆる世代のスポーツ機会の確保が急務であり、スポーツを活用した健康保持や地域活性化の取組みも重要です。

また、国においては、令和4年に「第3期スポーツ基本計画」を策定し、①社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に対応するスポーツを「つくる／はぐくむ」、②様々な立場・背景・特性を有した人・組織が「あつまり」、「ともに」活動し、「つながり」を感じながらスポーツに取り組める社会の実現を目指す、③性別、年齢、障害の有無、経済的事業、地域事情等にかかわらず、スポーツに「誰もがアクセスできる」ような社会の実現・機運の醸成を目指すという3つの視点を基に、各種施策を推進することとしています。

こうした国の動向も踏まえ、本県スポーツを取り巻く環境の変化や課題に対応し、一層のスポーツ振興を図り、県民一人ひとりのウェルビーイングを高めるため、計画を見直すこととしました。

2. プランの性格

- (1) 県民がそれぞれのライフステージや興味・関心・適性等に応じて、生涯にわたってスポーツに親しむとともに、スポーツを楽しみ、健康で幸福な社会を実現すること、スポーツを通じて地域の活性化を図ることによって、県民のウェルビーイングを高めるための基本的な方向性を示すものです。
- (2) スポーツ基本法（平成 23（2011）年8月策定）に基づくとともに、国の第3期スポーツ基本計画を踏まえ、総合的な施策を推進するものです。
- (3) 本県の総合計画（平成 30（2018）年3月策定）、成長戦略（令和4（2022）年2月策定）、SDGs 未来都市計画（令和元（2019）年8月策定・第2期令和4（2022）年3月策定）等と整合を図り、策定するものです。
- (4) 今後5年先を見据えた本県スポーツの推進の方向性を示すものであり、施策の展開にあたっては、市町村や関係機関、スポーツ関係団体などとの一体的な取組みを推進するものです。
- (5) 平成 27（2015）年に国際連合で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」は、令和 12（2030）年を目標年とし、「誰一人取り残さない」を理念とする世界共通の目標であり、本計画はこの理念を踏まえ取組みを推進するものです。

3. プランの期間

計画期間は、令和7（2025）年度から令和11（2029）年度までの5年間とします。施策の実施に際しては、適宜その進捗状況の把握に努めます。



4. プランの体系

基本目標	スポーツで輝く社会の実現 —スポーツを楽しみ、健康で幸福な社会の実現—	
基本施策	施策目標と具体的方策	
県民誰もが スポーツに親しむ ことができる環境 の充実	【施策目標】 県民誰もがそれぞれの興味、関心、ライフステージに応じて、スポーツを「する・みる・ささえる」活動に参画し、一生涯にわたって主体的にスポーツを楽しむことができる環境の充実	【具体的方策】 1 多様な主体におけるスポーツの機会創出と共生社会の実現 2 スポーツ施設の機能の充実と学校体育施設開放の促進 3 スポーツ活動を支える組織の充実 【参考とする指標】 ●成人の週1回以上のスポーツ実施率 70% ●スポーツイベント(県スポーツフェスタ、ウォーキングチャレンジ)参加者数 100,000人
運動好きな 子どもの育成と 地域と連携した 学校体育・ スポーツの充実	【施策目標】 生涯にわたるスポーツに親しむ契機となる学校体育・スポーツ活動の充実による、運動やスポーツに積極的に取り組む運動好きな子どもの育成	【具体的方策】 1 運動好きな子どもの育成と体力向上の取組みの推進 2 地域と連携した学校体育・スポーツ活動の充実 3 体力向上や運動習慣等に関する啓発活動の展開 【参考とする指標】 ●全国体力・運動能力調査における「運動やスポーツをすることが好き・やや好き」と回答した児童生徒の割合 小学校 92% 中学校 87%
全国や世界の 檜舞台で 活躍できる 選手の育成	【施策目標】 トップアスリートの育成を目指した強化体制の構築による、全国や世界の檜舞台で活躍できる選手の育成	【具体的方策】 1 トップアスリートの育成を目指した強化施策の推進 2 競技力の向上を目指した強化拠点の整備推進 3 トップアスリートを応援する体制の整備 【参考とする指標】 ●国スポ、全国高校総体、全中大会等における上位入賞数 48以上 ●オリンピック競技大会(夏季・冬季)に出場する本県選手数 10人以上
スポーツを支える 人材の育成と活用	【施策目標】 県民のスポーツ活動の充実に必要な質の高い指導者やボランティア等の育成と、その人材の効果的な活用	【具体的方策】 1 スポーツに関わる多様な人材の育成と活用の推進 2 競技力の向上を担う指導者と、国レベルの強化拠点との連携強化 3 スポーツ活動に対する顕彰の充実 【参考とする指標】 ●日本スポーツ協会に登録している公認スポーツ指導者数 5,000人 ●日本パラスポーツ協会が定める「パラスポーツ指導員」資格の取得者数(累計) 925人
スポーツを通じた 関係人口の創出と 地域の活性化	【施策目標】 本県の豊かな自然やスポーツ施設等を活用し、国内外からの関係人口の創出と活力に満ちた地域づくり	【具体的方策】 1 地域を活性化させるスポーツの推進 2 スポーツと関わる機会づくりの推進 3 スポーツ情報等の発信 【参考とする指標】 ●県内プロスポーツチーム(バスケットボール、サッカー、野球)のホームゲーム年間観客総数 235,000人 ●富山マラソンにおける海外参加目標数の達成率 100%

第2章 基本構想

1. 基本目標

富山県のスポーツを推進する上で、おおよそ5年後の期待される具体的な姿は次のようになります。

○県全体では、

性別や年齢、障害の有無、経済的事情等に関わらず、全ての県民が分け隔てなく、それぞれの興味、関心、ライフステージ等に応じて、スポーツにアクセスでき、「する・みる・ささえる」を通じて、スポーツに「自発的」に参画し、「楽しさ、喜び」が得られ、みんながスポーツの価値を享受し、健康でウェルビーイングを感じることのできる生活を営んでいます。

そして、社会の変化や状況など多様化する県民ニーズへの対応が求められる中で、楽しく安全にスポーツに親しむことができる環境を「つくり」、様々な立場にある人や組織が「あつまり」、「ともに」活動し、「つながる」ことにより、地域全体のスポーツへの関わりを促進し、スポーツを通じた地域活性化、健康で活力に満ちた長寿社会の実現、経済発展など、様々な社会課題の解決にも寄与しています。

また、アスリートのジュニア期からの発掘・育成・強化が進み、全国や世界の檜舞台で活躍するトップアスリートを数多く輩出しています。

さらに、スポーツを通じて、世代等を越えた人々の交流が深まり、多くの人々が共感し合うことにより、社会の絆が強くなり、地域の一体感や活性化が進んでいます。

○各ライフステージにおいては、

幼児	親子の触れ合い、仲間との交流を深めながら、のびのびと遊びや運動・スポーツに親しんでいます。
児童	
中・高校生	学校や地域のスポーツクラブ等で、多様なスポーツを体験したり、技術レベルや競技力の向上を目指したりして、積極的・主体的にスポーツに取り組んでいます。
20代	
30代	
40代	仲間や友人との交流、家族との触れ合いを図りながら、主体的・継続的にスポーツに親しんでいます。また、子どもとの実践や体験を通じて、運動・スポーツの楽しさを子どもに伝えています。
50代	
60代	
70代以降	自らの健康づくりや生きがいづくりに心掛け、家族や仲間、地域の人々と触れ合いながら、それぞれの体力やニーズに応じた運動、スポーツ、レクリエーションを楽しんでいます。

このような将来像を実現するため、本プランの目標を

スポーツで輝く社会の実現 —スポーツを楽しみ、健康で幸福な社会の実現—

とし、県・市町村・関係機関・スポーツ関係団体等が協力し、各種施策を推進します。

2. 基本施策

基本施策 1 県民誰もがスポーツに親しむことができる環境の充実

県民誰もが生涯にわたり、明るく豊かで、ウェルビーイングを感じることでできる生活を営み、体力や健康の増進を図るために、それぞれの興味、関心、ライフステージ等に応じて、「する・みる・ささえる」などの活動を知り、スポーツを日常生活の中に位置付け、主体的にスポーツを楽しむことが大切です。

本県では、全国に先駆けて総合型地域スポーツクラブ（以下、総合型クラブ）が全市町村に設立され、多くの県民が各地域で活発に活動しています。また、気軽に取り組むことができるウォーキングイベント等を開催し、県民のスポーツへの参加の機会づくりに取り組んできました。しかし、時間に制限がある働き盛り世代や子育て世代、障害がある方、そして、これまでスポーツに関わってこなかった方が気軽にスポーツに親しめるような環境や機会が十分に確立されているとは言い難く、また、成人の週1回以上のスポーツ実施率が全国平均を下回っており、運動・スポーツ習慣が定着している県民の割合は決して高くありません。

このため、誰もが気軽にスポーツに親しみ、楽しむことができるよう、県民の幅広いスポーツ志向に対応したスポーツ大会の開催や、「富山マラソン」、「Enjoy！スポーツとやま」をはじめとする県民参加型イベントの開催、スポーツ関係団体が開催するスポーツ教室など、多様な主体がスポーツに参加できる機会創出やスポーツに親しめる「場づくり」等の提供を一層図ります。また、その基盤となるスポーツ施設・設備の整備、プログラムの提供、啓発活動により誰もが一緒にスポーツの価値を享受できる、スポーツを通じた共生社会の実現を図ります。

さらに、スポーツ団体のガバナンス・経営力強化、関係団体等の連携・協力によるスポーツ体制の強化への支援に努めます。



Enjoy！スポーツとやま

基本施策 2 運動好きな子どもの育成と地域と連携した学校体育・スポーツの充実

近年、子どもたちの体力は、低下傾向に概ね歯止めがかかってきたものの、昭和60年頃のピーク時と比較すると依然低い水準にあり、運動やスポーツに取り組む子どもとそうでない子どもの二極化傾向が、特に中学生、高校生の女子で顕著にみられることが指摘されています。日常生活で体を動かす機会が減少している中、運動の機会を定期的に提供し、生涯にわたりスポーツに親しむ契機となる学校体育の重要性がさらに高まっています。

このため、体を動かすことを楽しみ、スポーツや体力向上に自ら積極的に取り組む、「運動好きでたくましい心と体をもった子ども」の育成を図るため、学校はもとより、家庭やスポー

ツ少年団をはじめとする地域等が連携し、幼児や児童生徒の運動の習慣化や体力向上の取組みを今後も継続して推進します。

また、子どもが体を動かすことが好きになるためには、発育・発達段階や性別の違い等に応じて指導し、スポーツの楽しさを実感させる指導者の存在が不可欠であることから、専門知識を有する地域のスポーツ指導者等の積極的な活用を推進し、体育・スポーツ活動の充実を図ります。

さらに、望ましい運動習慣を形成する重要性を保護者等に啓発するため、体力向上や運動習慣等に関する積極的な情報提供に努めます。

基本施策3 全国や世界の檜舞台で活躍できる選手の育成

本県の選手が全国や世界の檜舞台で活躍する姿は、子どもたちに夢と希望を、県民に勇気と感動を与え、県民一人ひとりのウェルビーイングの向上にも大きく寄与するものです。

本県ジュニア期アスリートの早期発掘、少年種別の強化等における中・長期的な視点での計画的・組織的に育成する一貫指導体制の整備により、全国のみならずオリンピック競技大会や世界選手権大会で優秀な成績を収める選手も出てきており、確実に成果が現れてきています。



2016 リオ五輪金メダリスト田知本選手(左)と登坂選手(右)

今後も、全国大会や国際大会等で本県選手が活躍できるよう、今まで実施してきた事業を継続しながら、内容の充実を図り、クリーンでフェアなアスリートの育成・競技力向上に一層努めます。

また、県営スポーツ施設を競技力向上の強化拠点として、スポーツ医・科学的サポートやデジタル技術等の活用をより充実させるとともに、競技団体や国の関係機関との密接な連携を図り、トップアスリートを支える体制の整備に努めます。

さらに、本県アスリートが全国や世界で活躍できるよう、県民のスポーツへの興味・関心を高め、スポーツ選手を応援する等、スポーツに参画する機運を醸成し、競技活動を支えていく環境づくりを推進します。

基本施策4 スポーツを支える人材の育成と活用

運動・スポーツ習慣の定着、健康寿命の延伸、競技力の向上や、スポーツに取り組む県民の自主性・自律性の促進を図るため、質の高い指導を行うことができる人材の育成・活用が必要となっています。

このため、スポーツ推進委員協議会やスポーツ少年団、総合型クラブなどで活動している地域のスポーツを支える人材の資質向上や、国際大会等で活躍したトップアスリートの活用に努めるとともに、スポーツ指導者の資格を取得するための講習会の開催やクリーンでフェアな指導者や審判員等の育成に努めます。

また、指導者とともに、県民の様々なスポーツ活動の企画や運営を支えるスポーツボランティアは、スポーツ振興を図る上で必要不可欠であることから、その必要性や意義等を啓発し、人材の育成・確保と活用に努めます。

さらに、県民のスポーツ活動への参加意欲を高めるため、国際大会や全国大会で優秀な成績を収めた選手、指導者等はもちろんのこと、地域での地道な取り組みにより本県のスポーツ振興に貢献した個人や団体を積極的に表彰するなど、顕彰制度の充実に努めます。



スポーツ推進委員による研修会（モルック）

基本施策5 スポーツを通じた関係人口の創出と地域の活性化

本県の魅力を活かした大規模なスポーツイベントを誘致・開催することは、単に「する・みる・ささえる」という県民のスポーツ活動への関わり方を広げる機会となるだけでなく、国内外からの参加者に対し、地域の魅力を発信することで、国際交流や観光振興、関係人口の創出や地域の活性化など様々な効果をもたらすものであり、積極的に誘致・開催していくことが望まれます。

このことから、県内各地の海や山など、本県の豊かな自然を活かしたスポーツイベントの開催やスポーツ合宿・全国規模のスポーツ大会の誘致、スポーツツーリズムの促進に努めます。

また、トップアスリートの力強く高度なプレーは、見る人に感動や楽しみを与え、県民のスポーツ活動への参加を促す大きな原動力になるとともに、直接会場で観戦することによって、入場料や関連グッズの売り上げなど経済の活性化にもつながると期待されることから、本県の3つのプロスポーツチームや国内トップリーグに所属する企業チーム、クラブチーム等と交流する機会づくりや応援の機運醸成に努めます。

さらに、スポーツを通じた関係人口の創出と地域の活性化のために、県のホームページにおけるスポーツ関連情報の充実や SNS 等を活用し、県民の積極的なスポーツ活動の実践に結びつくようなスポーツ情報等の積極的・効果的な発信やスポーツイベント等の魅力の情報発信に努めるとともに、本県のスポーツ環境のPRと利便性の向上に努めます。

第3章 スポーツ推進の具体的方策

基本施策1 県民誰もがスポーツに親しむことができる環境の充実

施策目標

県民誰もがそれぞれの興味、関心、ライフステージに応じて、スポーツを「する・みる・ささえる」活動に参画し、一生涯にわたって主体的にスポーツを楽しむことができる環境の充実

現状と課題

1 本県人口の減少と少子高齢化の進行

本県の総人口は、平成10年の112万6千人をピークに減少に転じ、人口は毎年徐々に減り続けています。

令和6年には100万人を割り込み、今後も、これまで以上のスピードで人口の減少が見込まれ、国立社会保障・人口問題研究所推計では、老年人口（65歳以上）の総人口に占める割合が令和20年に33.9%で3人に1人の水準に達すると予測されています。県民が健康でウェルビーイングを感じることのできる生活を営むために、一生涯にわたり日常的にスポーツに親しむことができる環境づくりに、より一層取り組む必要があります。



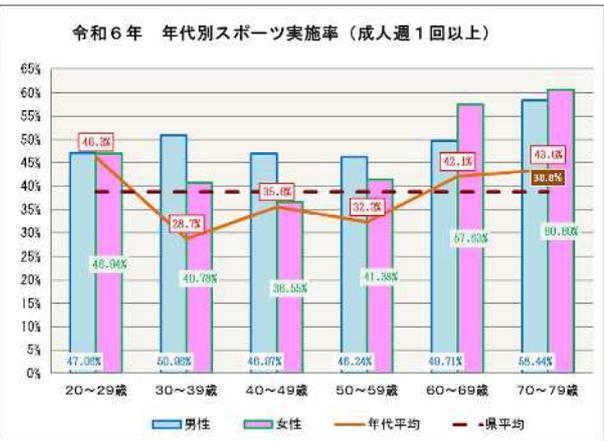
富山県民スポーツ・レクリエーション祭
(ターゲットパードゴルフ)

2 県民のスポーツの実施状況

本県の成人の週1回以上のスポーツ実施率は49.0%(R6)で、前回調査(R4:38.8%)に比べて増加しましたが、国の52.5%(R6)を下回る結果となっています。一方、1年間スポーツを実施しなかった成人の割合は、本県は22.3%(R6)で前回調査(R4:33.4%)に比べて減少しましたが、国の21.3%(R6)を上回っています。年齢別では60歳代、70歳代で高くなっていますが、20歳代の女性、30歳代から50歳代の男性・女性の実施率が低く、スポーツ参加を促進するために一層の取り組みが求められています。



資料：県政世論調査、スポーツ実施状況等に関する世論調査（文部科学省・スポーツ庁）を基に県スポーツ振興課が作成



資料：令和6年度県政世論調査

3 県民のスポーツ参加の機会づくり

本県では、県民の幅広いスポーツ志向に対応した総合的なスポーツ大会「富山県スポーツフェスタ」や多世代に対応した複数のスポーツ教室等、参加者の志向や目的に合わせて自由に参加できる体験型のスポーツイベント「Enjoy! スポーツとやま」、幅広い世代の県民が参加できるウォーキングイベントとして「富山県民歩こう運動推進大会」などを開催し、県民のスポーツへの参加の機会づくりに努めてきました。

また、平成27年の北陸新幹線の開業に合わせて始まった「富山マラソン」では、毎年1万人以上のランナーが参加し、県内からの参加者も年々増加しています。

今後は、県民が日常生活の中で時間を見つけて気軽に運動やスポーツに親しむことができるような機会づくりにより一層取り組む必要があります。



富山県民歩こう運動推進大会

4 スポーツ施設の利用状況

(1) 公共スポーツ施設

県総合体育センターや県総合運動公園陸上競技場等の県営スポーツ施設は、県民のスポーツ活動の基盤として、国際大会や全国大会の開催をはじめ、健康・体力相談や競技力向上など本県の中核スポーツ施設として重要な役割を担っています。



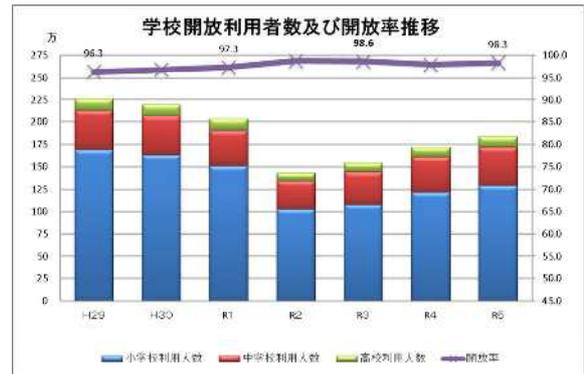
富山県総合体育センター

今後も、各種大会の開催や子ども、若者、高齢者、障害者等幅広い県民のスポーツ活動や健康増進への取り組みなどに活用されるとともに、身近で利用しやすい施設となるよう、県民のニーズに応じた、安全で利便性に配慮した設備の整備、機能の充実に努める必要があります。

(2) 学校体育施設

本県では、ほとんどの学校で、グラウンドもしくは体育館の開放が行われており、年間を通して多くの県民に活用されています。

しかし、利用者や利用日時が固定化するなど、地域住民のニーズを満たしていない場合があることから、運営方法の改善を図るなど、学校体育施設開放を促進する取組みが必要です。



資料：県スポーツ振興課調べ

5 スポーツ関係団体の育成

本県では、公益財団法人富山県スポーツ協会（以下、（公財）県スポーツ協会）、県生涯スポーツ協議会、県スポーツ少年団本部、県スポーツ推進委員協議会、県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、県女性スポーツの会、県障害者スポーツ協会などのスポーツ関係団体が、地域スポーツやパラスポーツの推進母体として大きな役割を担っており、各団体の活動を支援しています。

また、総合型クラブの全市町村での設立が平成18年度に完了し、各地域で活発に活動しています。今後、地域スポーツの担い手として期待されている役割を果たしていくためには、財源や会員、指導者、スタッフの確保など、クラブの自主運営に向けての課題も多く、事業の充実やクラブの基盤強化を図るなど、質的な充実を目指して取り組むことが必要です。

一方、中央競技団体をはじめとするスポーツ団体のガバナンスの機能不全により、様々な不祥事が生じており、本県スポーツ団体においても、コンプライアンス意識の徹底が求められています。

今後、一層のスポーツ振興を図るために、各団体の取組みを継続して支援しながら、本県のスポーツ関係団体を統括する（公財）県スポーツ協会を中心として、一体的な取組みを推進するとともに、団体相互の連携・協働のもと、より良い体制整備を検討していく必要があります。

具体的方策

1 多様な主体におけるスポーツの機会創出と共生社会の実現

(1) 誰もが気軽にスポーツに参加できる機会の創出

より多くの県民が主体的にスポーツ活動に親しむことができるよう、関係機関等と連携しながら、若者をはじめ、子育て・働き盛り世代、高齢者など、それぞれのライフステージに応じて気軽にスポーツの楽しさや面白さを味わうことのできるイベントやスポーツ教室等への参加の機会の充実に努めます。

- 幅広い世代の県民が、それぞれの目的や好みに応じて参加できるよう、また、県民の健康づくりを推進するために、市町村やスポーツ団体等と連携し、富山県スポーツフェスタや富山県民歩こう運動推進大会など、スポーツイベントの充実に努めます。

- 子育て・働き盛り世代がスポーツを楽しむことは、スポーツ好きな子どもの育成にもつながると考えられることから、親子・三世代で参加できるスポーツイベント等の開催や託児付きのスポーツ教室の開催など、子育て・働き盛り世代の方々がスポーツ活動に参加しやすい環境づくりを積極的に推進します。また、スポーツ実施率の低い20～50代の働き盛り世代が積極的に運動やスポーツに親しむことができるよう、総合型クラブ等の関係機関と連携し、仕事の合間にできる体操やウォーキング等、日常生活の中で簡単に取り組むことができる運動・スポーツの普及・啓発を図るとともに、運動の習慣化やスポーツに親しむきっかけとなるような取組みを推進します。
- 普段の家事や仕事、出産、子育て等により、運動やスポーツに親しむ機会が少なくなっている女性が参加しやすい取組みやニーズにあったスポーツ活動の機会の提供を推進します。

(2) 地域におけるスポーツ活動の推進

身近な地域でスポーツ活動に親しむことができる機会が充実することで、県民のスポーツ活動の習慣化も期待されることから、スポーツ活動の機会が確保できるよう、総合型クラブや地域のスポーツ推進の中核的な役割を担うスポーツ推進委員等の活動支援に努めます。

- 地域の活動場所として定着してきている総合型クラブでのスポーツ教室やスポーツ関係団体、競技スポーツ団体等が主催するスポーツ教室等の内容充実に向けての支援に努めます。
- 県や市町村、県内の総合型クラブが連携しながら、継続的に運動やスポーツに取り組むことのできる環境づくりや新たなスポーツ人口の掘り起こしにつながる事業を実施します。

(3) パラスポーツの推進

障害がある人がスポーツ活動に参加できる機会を充実させることや、多様性を尊重し、一人ひとりの個性を生かすことで、パラスポーツのすそ野の拡大や障害がある人の社会参加の促進が期待されます。また、パラスポーツの推進により、障害や障害がある人に対する県民の理解が深まり、スポーツを通じた共生社会の実現につながることも期待されます。

- 市町村や関係機関、団体と連携し、障害がある人もない人も、共にウォーキングイベント・富山マラソン等のスポーツイベントやパラスポーツ体験イベント、交流会、大会等に参加できる機会の充実に努めます。
- 障害がある人のスポーツ人口の拡大や競技水準の向上を図るために、富山県障害者スポーツ大会や障害者スポーツ教室等の実施など、パラスポーツの普及に努めます。

(4) スポーツによる健康増進

日常的に運動やスポーツに取り組むことは、肥満・生活習慣病の予防や加齢に伴う運動能力の低下の防止、社会生活に必要な運動機能の維持・向上を図ることができます。一人でも多くの県民が、いつまでも健康で過ごすために、手軽にできる運動やスポーツ

を通じた健康増進に努めます。

- 高齢化が進行する中、高齢者が健康で生きがいをもって、運動やスポーツに親しむことができるよう、関係機関や市町村と連携し、家庭等で手軽に継続してできる運動・スポーツプログラムの提供、公民館などでの健康教室の開催など、高齢者の健康づくり等の取組みを推進します。
- 日常的に運動やスポーツに取り組むことができるよう、ウォーキング等の手軽にできる運動やスポーツの普及・啓発に取り組む、運動習慣の定着を図るとともに、総合型クラブや県スポーツ推進委員協議会等と連携し、活動機会の提供を推進します。

2 スポーツ施設の機能の充実と学校体育施設開放の促進

(1) 県営スポーツ施設の機能の充実と活用の促進

県営スポーツ施設は、競技スポーツの拠点として選手や指導者の育成等、競技力の向上に資するとともに、全国大会などの公式競技会場や広域的な生涯スポーツの拠点として重要な役割を担っており、今後も施設設備の機能の充実と一層の活用の促進に努めます。

- 国の補助等を活用しながら、中・長期的な視点で、利用者・団体等のニーズや高齢者・障害者の利用に配慮した施設設備の充実に努めます。また、各種大会や県民参加型イベントの開催をはじめ、健康・体力相談やトレーニング指導等、ソフト面の充実に努め、県民のライフステージに応じたスポーツ活動を支援します。

(2) 新たな武道館整備等によるスポーツ環境の充実

武道を中心とする公式大会や練習会等に加え、武道競技以外でも活用可能な「武道競技の振興・競技力向上に寄与する施設」の整備を推進します。

- 武道の公式大会や日常の稽古、指導者講習会で利用しやすい施設とし、武道競技の振興・競技力の向上に努めます。
- 武道以外の県民の日常的なスポーツ利用、冬季のスポーツの場となる施設とし、県民が様々なスポーツ活動に取り組める場とすることで、地域の活性化を目指します。また、広く県民に武道に関する情報を発信し、県民が武道をより身近に感じることができ施設の整備を推進します。

(3) 学校体育施設の有効活用の促進

地域住民の身近なスポーツ活動の場や住民の交流を生むコミュニティスペースとして、学校体育施設の有効活用を促進します。

- 県立学校の開放可能な体育施設の拡大などを検討し、地域のニーズに応じた学校体育施設の一層の開放に努めます。

3 スポーツ活動を支える組織の充実

(1) スポーツ関係団体等の活動支援

地域スポーツの推進や競技力向上を図るために、スポーツ関係団体等の活動を支援します。

- （公財）県スポーツ協会や競技スポーツ団体、各学校体育連盟、県生涯スポーツ協議会、県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、県スポーツ少年団本部、県スポーツ推進委員協議会、県女性スポーツの会、県障害者スポーツ協会等、本県スポーツの推進母体となるスポーツ関係団体の一層の充実を図ることができるよう、組織力強化への支援に努めます。
- 総合型クラブがより公益性の高い「社会的な仕組み」として、永続的に充実した活動を行えるよう、また、総合型クラブが地方自治体等とパートナーシップを構築し、公益的な事業体としての役割を果たしていくために、広域スポーツセンター等と連携しながら、運営面のサポートや研修会、情報交換会等の開催などの支援に努めます。
- 競技スポーツ団体等の各種研修や会議において、倫理観や規範意識の醸成を図り、体罰やハラスメントの防止に関する指導、ドーピング防止に関する指導・啓発を継続的にを行い、コンプライアンスの推進に努めます。

(2) スポーツ関係団体・学校・企業等の連携の推進

多様化する県民のスポーツニーズに対応し、本県のスポーツ推進施策を効果的・効率的に展開するため、行政組織やスポーツ関係団体との交流・連携・協働を推進します。

- 県や市町村、（公財）県スポーツ協会をはじめとするスポーツ関係団体、学校、企業が交流し、本県スポーツについて情報を共有する機会となる研修会等の開催など、横断的に連携できる推進体制の整備について検討します。
- 本県では、市町村のスポーツ行政の充実と発展に資するため派遣社会教育主事（スポーツ担当）を全市町村に派遣し、これまで、市町村における各種スポーツイベントの企画・立案や子どもの体力向上など、市町村のスポーツ振興に努めています。今後も全市町村に継続して派遣し、県と市町村のスポーツ行政の連携を推進します。

施策目標達成のために参考とする指標

指標名及び指標の説明	現 況	R 1 1
成人のスポーツ実施率 週1回以上、スポーツをする成人の割合	49.0% (R6)	70%
スポーツイベントの参加者数 富山県スポーツフェスタ、ウォーキングチャレンジの参加者数	60,734人 (R5)	100,000人

基本施策2 運動好きな子どもの育成と地域と連携した学校体育・スポーツの充実

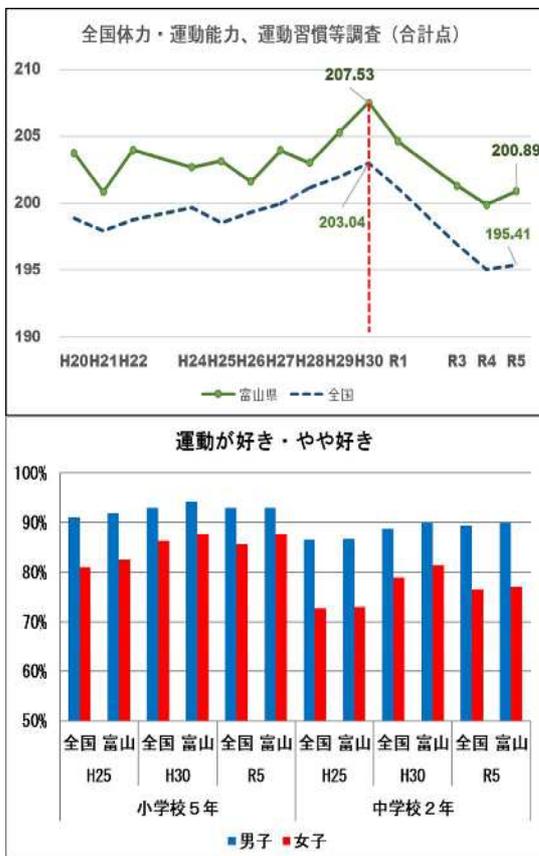
施策目標

生涯にわたりスポーツに親しむ契機となる学校体育・スポーツ活動の充実による、運動やスポーツに積極的に取り組む運動好きな子どもの育成

現状と課題

1 本県の子どもの体力・運動能力

子どもの体力・運動能力は、昭和60年頃をピークに長期的な低下傾向が全国的にみられていましたが、平成20年度から実施されている全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2^{しっかい}）の結果では、本県の児童生徒の体力・運動能力は概ね全国平均を上回っており、平成30年度には、同調査で過去最高得点（207.53点）を獲得し、過去最高順位（全国11位）となりました。また、令和元年度から、コロナ禍等の影響で本県・全国平均とも減少していましたが、令和5年度は前年を上回っており回復基調にあります。「運動が好き・やや好き」と回答した児童生徒の割合に増加傾向が見られますが、小学校段階と比べ中学校段階では減少しています。



資料：全国体力・運動能力、運動習慣等調査
（文部科学省・スポーツ庁）を基に県保健体育課が作成

り、平成30年度には、同調査で過去最高得点（207.53点）を獲得し、過去最高順位（全国11位）となりました。また、令和元年度から、コロナ禍等の影響で本県・全国平均とも減少していましたが、令和5年度は前年を上回っており回復基調にあります。「運動が好き・やや好き」と回答した児童生徒の割合に増加傾向が見られますが、小学校段階と比べ中学校段階では減少しています。

今日の生活の中で、利便性の向上や安全性の確保は、私たちのライフスタイルを大きく変化させています。日常生活だけでなく、自由な時間を含めて身体活動の機会は減少しており、子どもたちも例外ではありません。そのような中で、子どもたちに生涯にわたり健康で豊かなスポーツライフを実現するための資質や能力を育成するためには、保護者や地域が子どもを取り巻く環境を十分に理解し、子どもたちが体を動かす機会を意識的につくっていくことが必

要です。運動やスポーツから得る楽しさや喜びを感じることで、日ごろの取り組みや体力向上に

つながることから、「すること」に加えて、「みること」、「ささえること」、「知ること」など、子どもたちの適性等に応じて、運動やスポーツと多様に関わる中で、「する」きっかけをつくっていく工夫も必要です。また、県では、生活習慣や食習慣の定着を図る「とやまゲンキッズ作戦」（健康づくりノート）や「毎日しっかり朝ごはん運動」等に取り組んでいます。「よく食べ、よく動き、よく眠る」ことは、健康でたくましい心と体の基礎をつくるものであり、そのため、幼稚園や保育所（園）、認定こども園、学校と家庭が連携し、子どもたちの望ましい生活習慣の定着に向けた取り組みを一層推進していく必要があります。また、このような

取組みや子どもの体力向上について、県のホームページ等を活用して積極的に情報提供し、啓発に努めていく必要があります。

2 学校における体育・スポーツ活動の現状

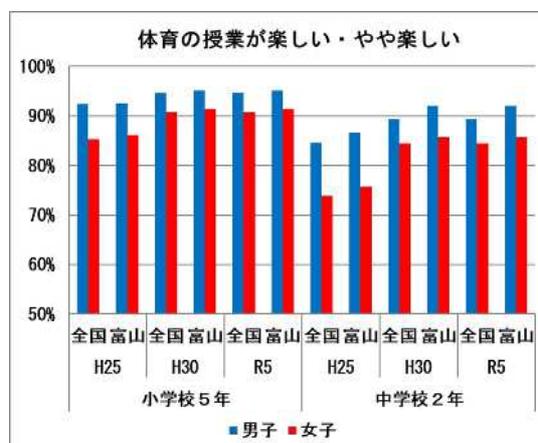
体育の授業をはじめとする学校における体育・スポーツ活動は、日常生活で体を動かす機会が減少している中、その重要性はより一層高まっています。

県では、幼稚園や学校で、運動好きでたくましい心と体をもった子どもを育成するため、各校で作成する「元気っ子育成計画」を推進してきました。また、「体育実技指導者講習会」を開催し、教員の実技指導力の向上を図り、運動遊びや体育授業の質の向上や体育的行事の充実に向けた研修を深めてきました。

平成 25 年度から 10 年間のデータを比較すると「体育の授業が楽しい・やや楽しい」と回答した児童生徒が、平成 30 年度まで増加傾向が見られ、直近の令和 5 年度まで高い割合を維持しています。しかし、小学校段階と比べ中学校段階では、楽しいと回答している生徒の割合が減少しています。前述した「運動が好き・やや好き」と回答した児童生徒の割合と非常によく似た傾向があることから、一層の体育授業の充実を図ることで、子どもたちの体力の向上と運動好きな子どもたちの育成に努める必要があります。

また、令和 4 年度に、健康増進&運動体験応援 Web アプリ「とやま元気っ子チャレンジ」を開発し、令和 5 年度から「スポーツテスト」「みんなでチャレンジ 3015」「とやまゲンキッズ作戦」等を一元化しました。プログラムをアプリの機能に集約して活用することで、児童・生徒への情報発信や、運動習慣を含めた健康的な生活習慣の定着を推進しています。

今後も引き続き、児童生徒の関心・意欲を高めながら、実態や技能等に合った体育指導が展開できるよう、教員の指導力の向上を図るとともに、地域のスポーツ指導者等と十分に連携し協力を得ながら、実技指導の充実にも努める必要があります。



資料：全国体力・運動能力、運動習慣等調査（文部科学省・スポーツ庁）を基に県保健体育課が作成



資料：健康増進&運動体験応援 Web アプリ「とやま元気っ子チャレンジ」

3 運動部活動の現状

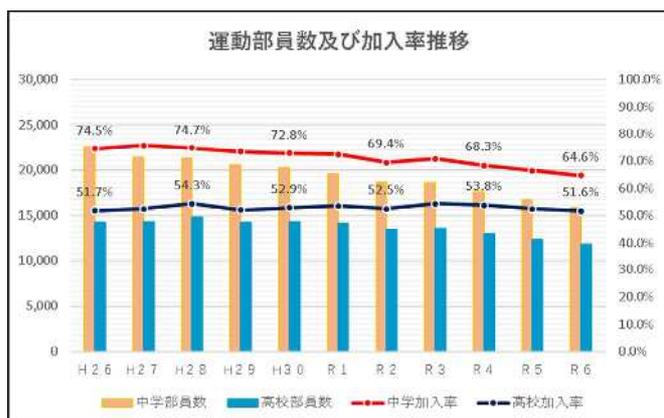
運動部活動は、学年や学級の枠を越え、部員同士が切磋琢磨し、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、スポーツの楽しさや喜びを味わうとともに、協調性や忍耐力を養うなど、

学校教育活動において重要な役割を果たしています。

本県の運動部活動加入率は、中学校 64.6%、高等学校 51.6%（いずれも R6）と全国平均を上回っているものの、少子化による生徒数の減少や専門的な技術指導ができる教員の不足等により、生徒の多様なニーズに対応できない状況が増えてきているだけでなく、単独の学校では運動部活動を継続することが困難な場合も出てきています。

このため、専門的な指導力を有する地域の優秀な指導者の活用と、複数校による合同運動部活動や拠点校部活動を一層推進していく必要があります。

また、少子化が進展する中、学校部活動を従前と同様の体制で運営することは難しくなっ



資料：県保健体育課調べ

てきており、将来にわたり生徒の豊かなスポーツ・文化芸術活動を実現するためには、学校と地域との連携・協働により、持続可能な活動環境を整備する必要があります。スポーツ庁及び文化庁は、「地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる」という意識の下、令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図ることとし、「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」（以下「国ガイドライン」）を策定しま

した。本県でも、平成31年2月に策定した「富山県部活動の在り方に関する方針」を、令和5年12月に「富山県学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」として改定しました。

具体的方策

1 運動好きな子どもの育成と体力向上の取組みの推進

(1) 学校等における体力向上の取組みの推進

子どもたちの体力を向上させるため、学校等の実態に応じた計画的・継続的な取組みを推進します。

- 県体力向上推進委員会で、体力・運動能力調査の結果等を踏まえ、本県の子どもの体力等の状況の調査・分析・考察を行い、子どもの体力向上の課題と目標を明らかにし、県全体での取組みを推進します。
- 幼稚園、小、中、高校において各校（園）が「元気っ子育成計画」を立案し、1校（園）1運動など、各校（園）の実態に応じた特色のある体力向上の取組みを推進します。
- 健康増進&運動体験応援 Web アプリの「みんなでチャレンジ 3015」を児童が積極的に活用し、目標をもって意欲的に体力の向上に取り組むとともに、スポーツとの多様な関わり方を図ることができるように努めます。

(2) 望ましい生活習慣を身につけ積極的に運動やスポーツに取り組む子どもの育成

子ども自身が体を動かすことの楽しさを発見し、積極的に運動やスポーツに取り組むよう、幼稚園や保育所、学校、家庭、地域等でのスポーツ活動を充実させるとともに、子どもたちが元気に活動するための基礎となる望ましい生活習慣や食習慣を身につけるための取組みを一層推進します。

- 幼稚園教諭、保育士及び教員が運動遊びや学校体育活動の充実の必要性、系統性や連続性のある指導について理解を深め、その資質や指導力を高めるための研修会を支援し、幼児期から中学生期までの運動習慣の定着と運動好きな子どもの育成に努めます。
- スポーツ少年団をはじめとする地域スポーツクラブ（以下、地域クラブ）は、子どもたちの健全育成や体力向上に大きな役割を果たしており、今後も各クラブの主体的な活動を支援し、子どもたちのスポーツ機会の充実に努めます。
- 子どもたちが元気で楽しく充実した一日を過ごす上で欠かせない睡眠や朝ごはんの大切さを啓発するなど、家庭等と連携して望ましい生活習慣や食習慣の定着に努めます。

2 地域と連携した学校体育・スポーツ活動の充実

(1) 地域と連携した学校体育・スポーツ活動の推進

教員と専門的な技術指導力を有する地域のスポーツ指導者等が協力・連携を図り、学校体育・スポーツ活動の一層の充実に努めます。

- （公財）日本スポーツ協会が管理する「公認スポーツ指導者マッチング」サイトや総合型クラブやスポーツ少年団、スポーツ推進委員、大学、企業等との連携や、指導者を検索・照会するシステム、「パスネットとやま（指導者人材バンク）」を活用し、各学校が地域のスポーツ人材と連携・協力する体制の整備に努めます。

(2) 学校体育・スポーツ活動に関わる教員の指導力の向上

児童生徒が生涯にわたってスポーツを楽しむことができるよう、その基礎を培う上で重要な役割を果たしている学校体育に関わる教員の指導力の向上に努めます。

- 児童生徒の発育・発達段階の特性を考慮し、個に応じた指導ができるよう、学校体育研究団体等と連携した実践研究や、研修会・講習会等の開催を通して、教員の指導力の向上を図ります。
- 学習指導要領においては、体づくり運動や武道、ダンスなど様々な領域を取り扱うことから、多様な授業環境の構築とともに、安全で楽しい授業内容の工夫改善につながるよう、研修会等の充実に努めます。

(3) 学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への展開に向けた環境整備

運動部活動は、教育課程との関連を図ることが学習指導要領に明記されるなど、学校教育活動として重要な役割を担っているものの、専門的技術指導ができる教員の不足や少子化による部員数の減少などにより、生徒のニーズに答えきれていない状況にあることや教員の働き方改革の観点からも、中学校部活動の地域連携・地域クラブ活動への展開の推進や部活動指導員の配置の促進、スポーツエキスパートの派遣等、地域のスポー

ツ人材の活用を図り、中・高校生期のよりよいスポーツ環境の整備に努めます。

- 生徒の持続可能で多様なスポーツ環境を構築するため、中学校部活動の地域連携・地域クラブへの展開に向けた市町村の取組みの支援に努めます。
- 生徒の多様なニーズに応じた活動を行うことができるよう、これまでの地域のスポーツ指導者や、トレーナー、栄養士等を活用する「スポーツエキスパート派遣事業」を継続するとともに、研修会や講習会を充実させ、教職員をはじめとした部活動指導者の育成や指導力の向上に努めます。
- 部活動（地域クラブ活動）を実施する学校等に対し、指導者の派遣や運営支援を行う企業等を「富山県部活動応援企業」として登録し、中高生のスポーツ活動の機会確保や、より良いスポーツ環境の充実に努めます。
- 少子化等により、団体競技を中心に部活動の継続が困難な状況にあることから、学校体育団体と連携し、複数校合同運動部活動や拠点校部活動の取組みを支援します。
- 適切な指導者をもたず、生徒のニーズに答えられていない運動部がある学校への専門的な指導力をもつ教員・部活動指導員の配置に取り組みます。

(4) 合理的かつ効率的・効果的な運動部活動・地域クラブ活動の推進

- 中央競技団体が作成した、運動部活動用指導の手引きを活用し、合理的でかつ効率的・効果的な活動を推進します。
- 競技種目の特性等を踏まえた科学的トレーニングの積極的な導入等により、休養を適切に取りつつ、短時間で効果が得られる指導に取り組みます。
- 発達の個人差や女子の成長期における体と心の状態等に関する正しい知識を得た上での指導に努めます。

3 体力向上や運動習慣等に関する啓発活動の展開

(1) 子どもの体力向上に関する情報提供

次代を担う子どもの体力が低下することは、将来の明るく豊かで活力ある社会の形成にとって極めて憂慮すべきことです。運動が好きで意欲的に体を動かす子どもたちが育まれるよう、学校をはじめ家庭や地域の連携した取組みが推進されるよう積極的な情報提供に努めます。

- 保護者をはじめとした県民全体が、子どもの体力の重要性について正しい認識をもつよう、新聞・テレビなどマスメディアへの積極的な情報提供などにより、その啓発に努めます。
- 小学校や中学校において、特色ある体力向上の取組みを実施している学校をホームページ等で紹介し、子どもの体力向上を推進しようとする機運を高めるよう努めます。

(2) 健康増進&運動体験応援 Web アプリ等による普及・啓蒙事業

健康増進&運動体験応援 Web アプリにて「スポーツテスト」「みんなでチャレンジ3015」「とやまゲンキッズ作戦」等をアプリの機能に集約して活用することで、運動習

慣を含めた健康的な生活習慣の定着の推進に努めます。

- Web アプリのポイント機能を活用したキャンペーンを実施し、運動意欲を高めるとともに、生活習慣の改善を図り、運動習慣の定着や健康づくりの推進を図ります。
- ウォーキングアプリ「元気とやまかがやきウォーク」（健康課）のミッション機能を活かした他課との事業連携等や、県公式 SNS 等を活用した動画ライブラリー（検索性の運動啓発映像）の幅広い周知により、家族ぐるみでの運動啓発を促し、事業効果の一層の向上を図ります。

施策目標達成のために参考とする指標

指標名及び指標の説明	現 況	R 1 1
全国体力・運動能力調査における「運動やスポーツをすることが好き・やや好き」と回答した児童生徒の割合	小学校 89.1% 中学校 83.5% (R6)	小学校 92% 中学校 87%

基本施策3 全国や世界の檜舞台で活躍できる選手の育成

施策目標

トップアスリートの育成を目指した強化体制の構築による、全国や世界の檜舞台で活躍できる選手の育成

現状と課題

1 本県の競技力の現状

平成 12 年の 2000 年とやま国体以降、企業チームやクラブチームの相次ぐ休廃部や指導者の世代交代、また、ジュニア期を支えてきた学校運動部活動における競技者数の減少や、優秀な小中学生の進学による県外流出などで、徐々に国民スポーツ大会（旧国民体育大会）総合順位、全国高校総体や全国中学校体育大会等における上位入賞者数の減少など、本県の競技成績が下降してきました。

このため、平成 18 年から平成 21 年まで、「競技力向上対策あり方検討会」で審議し、今後の強化策の基本的な方向が示されました。平成 21 年には、「トップアスリート育成・強化プロジェクト会議」を設置し、ジュニア層からの発掘や育成・強化に係る一貫指導体制の再編整備、少年種別の重点強化など、今後取り組むべき強化策についての報告を受け、スポーツ医・科学的サポートの充実、IoT を活用した競技力向上事業などに取り組んできました。

これらの取り組みにより、全国高校総体や全国中学校体育大会、国民スポーツ大会等で多くの選手が優勝したり、世界最高峰のバスケットボールリーグ NBA 等で活躍する八村塁・馬場雄大選手のようなトップアスリートを輩出したりするなど、成果が現れてきました。東京 2020 オリンピック競技大会（2021 年）では 14 名の県関係選手が出場し、2 名のメダリストが誕生し、県内スポーツ界を大いに賑わせてくれました。またパリオリンピック競技大会（2024 年）でも、自国開催以外では過去最高の 10 名の選手が出場しました。



TOYAMA アスリートマルチサポート事業

2 強化拠点の整備

昭和 33 年の富山国体開催をきっかけに、ハンドボールやホッケーなどが、その競技会場となった市町村で、地域に根差したスポーツとして、子どもから大人まで、各年代層で継続して取り組まれています。このような競技は、全国大会等でも毎年好成績を収め、さらには、オリンピック等の日本代表選手を輩出するなどしています。競技力の向上には、恒常的な活動場所と優秀な指導者の確保が必要であり、今後も、整備された施設と指導ノウハウを生かし、地元住民の理解や協力を得ながら、競技スポーツ団体と市町村の連携を深める必要があります。

また、競技スポーツ団体、スポーツ少年団、地域クラブ、企業クラブチーム等が連携を深め、ジュニア層の底辺拡大や学校体育施設の有効活用を図る必要があります。

さらに、県営スポーツ施設の機能をフルに活用し、競技力向上の中核拠点として有効活用を図るため、スポーツ医・科学、栄養指導の充実、デジタル技術等の活用など、強化事業に利活用しやすいよう、推進・整備を図ることが重要です。



ホッケー競技

3 アスリートの発掘・育成・強化

県では、ジュニア層の素質ある児童の発掘や育成を目的に、平成 17 年度から小学 5 年生を対象とした「未来のアスリート発掘事業」を開催しています。この事業の修了生からは、全国や世界の檜舞台で大活躍している選手が数多く輩出されています。（令和 5 年度からは小学校 4 年生の一部の児童にも対象を広げ、事業を展開しています。）

平成 18 年度からは、競技力の向上を目的に発掘されたアスリートやジュニア選手たちを、拠点施設において県内有数のコーチが専門の競技に特化した指導を行う「元気とやまスポーツ道場開催事業」や、日頃指導する部活動指導者の資質向上を目的に、全国大会等で上位入賞の実績をもつ経験豊富な指導者を中学・高校に派遣する「スーパーコーチ派遣事業」を実施してきましたが、令和 6 年度より中学校体育連盟振興事業と整理統合拡充し、中学生年代強化事業として「エリートユース育成事業」が始まりました。



未来のアスリート発掘事業

また、本県の年代別日本代表選手が、国際レベルの試合経験を積み重ねることにより、さらなる強化が図れるよう国際大会への参加負担金を一部支援しています。

今後も、これらの事業で発掘された児童生徒が、全国や世界の檜舞台で活躍できるトップアスリートへと育成・強化されるよう一貫指導体制を推進するとともに、強化体制の充実を図ることが必要です。

競技力の向上を図るためには、個人の特性に応じた専門的な指導を行うことができる指導者が不可欠であり、優秀な人材の確保や養成に努める必要があります。

また、近年、選手・指導者による不正行為等が発生しており、選手・指導者に対する教育・研修・啓発活動の充実が必要となっています。

具体的方策

1 トップアスリートの育成を目指した強化施策の推進

(1) 一貫指導体制（見つける、育てる、活かす）の推進

ジュニア期からの育成・強化を図るため、関係者が一貫した指導理念に基づき、個人の特性や発育・発達段階に応じた適切な指導を組織的・計画的に推進します。

- 潜在能力を秘めた真に優秀な児童を幅広く発掘する「未来のアスリート発掘事業」の充実を図るとともに、発掘した児童の競技選択のサポートや、中学・高校での活動状況の追跡調査・分析を行うなど、中長期的な育成・強化に努めます。
- 小学生で取り組んだ競技から離れることなく継続できるよう、クラブチーム、競技力向上を目指した地域クラブなどにおいて一貫指導を受けられる環境の整備に努めます。
- 県営スポーツ施設の機能を活用し、スポーツドクター等との連携により、スポーツ医・科学サポート（スポーツ事故・スポーツ障害の防止、スポーツ障害からの早期復帰）事業の推進に努めます。

（2）アスリートの資質・競技力向上

県民に勇気と感動、子どもたちに夢と希望を与えるトップアスリートの育成を目指した強化を推進します。

- トップアスリートを育成・強化するために必要なスポーツ選手強化費の配分の見直しや、地域に根差した競技の一貫指導体制を構築するなど、今後も全国大会等での活躍が期待できる競技への集中的・継続的な重点強化を推進するとともに、本県成年勢の主力となる地域密着型のクラブチームや企業チーム、大学生等の活動支援に努めます。
- 県民の注目度や関心が高い種目を選定し、重点強化種目としてこれまでの強化策を見直すなど、選手や指導者のレベルアップを図り競技力の向上に努めます。
- 選手、指導者による不正行為等の防止に向けて、体罰やハラスメントの防止に関する指導、ドーピング防止に関する指導・啓発を継続的に行い、コンプライアンス教育の推進に努めます。（再掲）

（3）デジタル技術等を活用した競技力向上事業の推進

- 戦略的・戦術的なサポートについて、指導者のこれまでの経験や積み上げてきた実績だけでなく、競技指導にIoTやDX等を活用するなど、新たな視点での競技力の向上を図ります。
- 各種データを活用できる人材の育成が必要であり、アナリスト（情報・戦略面で高い専門性をもってサポートする人）の養成を支援し、デジタル技術等を活用する機会を創出します。



IoT活用事例（ソフトボール）

2 競技力の向上を目指した強化拠点の整備推進

（1）中核拠点（県営スポーツ施設）の機能充実

トップアスリートの育成や本県競技力の向上を円滑に推進するため、選手の発掘や育成・強化を集中的・継続的に行うことができる中核拠点の整備を推進します。

- 県総合体育センター、県西部体育センターに加え、県高岡総合プールを本県の競技力向上の中核拠点として有効活用するため、（公財）県スポーツ協会が主体となり、その体制づくりを推進します。また県総合体育センターがもつスポーツ医・科学サポート機能をはじめ、宿泊施設やアクセスの利便性、国内外のトップチームの合宿実績等、その機能をフル活用した強化練習や合宿などにより、総合的な競技力向上に努めます。

（２）競技別強化拠点の確立

- 競技力の向上には練習環境の整備や恒常的な練習拠点確保が不可欠なことから、競技別の強化拠点の整備に努めます。
- トップアスリートを育成・強化するために必要なスポーツ選手強化費の配分の見直しや、地域に根差した競技の一貫指導体制を構築するなど、今後も全国大会等での活躍が期待できる競技への集中的・継続的な重点強化を推進するとともに、本県成年勢の主力となる地域密着型のクラブチームや企業チーム、大学生等の活動支援に努めます。（再掲）

3 トップアスリートを応援する体制の整備

（１）トップアスリートを応援する機運の醸成

本県では、バンクーバーオリンピック競技大会での田畑真紀・穂積雅子両選手の銀メダル獲得を契機に（公財）県体育協会（現県スポーツ協会）や経済団体等が中心となり「富山県民スポーツ応援団」が設立（H22）されて以降、県民総ぐるみでトップアスリートを支援する機運が高まり、それに後押しをされるように多くのトップアスリートが輩出され、リオデジャネイロオリンピック競技大会では、田知本遥・登坂絵莉両選手が見事金メダルを獲得しました。また、令和6年に開催されたパリオリンピック競技大会には、自国開催以外で最多となる10名の県関係出場選手を輩出しており、今後も、活躍する多くのトップアスリートを支援するため、一層の機運の醸成に努めます。

- 本県関係アスリートを含め世界的・全国的なプロ選手やオリンピックメダリストとの交流等、一流のパフォーマンスに接する機会を提供するなど、トップアスリートとの交流の促進に努め、スポーツへの興味・関心を高め、本県の代表チームやトップアスリートを応援する機運の醸成に努めます。
- 「元気とやまスポーツ応援基金」を活用し、オリンピックなど、世界の檜舞台での活躍が期待される本県の選手や指導者が意欲的に競技に専念できるよう、その活動を支援します。
- ふるさと納税の活用や県総合体育センターをはじめとした県有スポーツ施設のネーミングライツ（施設命名権）の導入など、県民・企業・施設等との連携によるトップアスリート支援のための新たな財源確保策について検討します。

（２）パラアスリートへの応援体制の整備

本県では、北京パラリンピック競技大会での川除大輝選手の金メダル、東京パラリンピック競技大会での岩井孝義・宮島徹也選手の銀メダル、藤井友里子選手の銅メダル獲

得は、県民に勇気と感動を与え、パラスポーツに対する興味・関心が高まりました。今後も、活躍する多くのパラアスリートを支援する機運の醸成に努めます。

- 令和5年度から、県のパラスポーツの振興をスポーツ担当部署が担っており、更なるパラスポーツの普及、強化などの支援に努め、国際大会の出場者や日本代表強化指定を受けた選手が意欲的に競技に専念できるよう、国際大会参加や代表合宿遠征における活動費を支援します。

(3) 広報活動の促進

本県を代表する選手やチームが国際大会や全国大会で活躍することは多くの県民が期待しており、県全体に活力をもたらすとともに、選手やチームにとって県民の声援は大きな力になることから、ホームページや SNS 等を活用するなど積極的な広報活動に努めます。

- 本県スポーツチームや選手に対する県民の興味・関心を高めるため、新聞、テレビ等のマスメディアに対して、本県出身者を含め、県内アスリートの活躍や日頃の活動などの情報を積極的に提供するとともに、県のホームページや SNS 等の活用を図り、広報活動の促進に努めます。

施策目標達成のために参考とする指標

指標名及び指標の説明	現 況	R 1 1
全国大会における上位入賞数 (国民スポーツ大会、全国高校総体、全国中学校体育大会等における3位以内の入賞数等)	33 (R5)	48 以上
オリンピックにおける出場数 (オリンピック競技大会(夏季・冬季)に出場する監督選手等の本県関係者数)	9人(H28 リオ 6人、H30 平昌 3人) 16人(R03 東京 14人、R04 北京 2人) 10人(R06 パリ 10人)	10人以上

基本施策4 スポーツを支える人材の育成と活用

施策目標

県民のスポーツ活動の充実に欠かせない質の高い指導者やボランティア等の育成と、その人材の効果的な活用

現状と課題

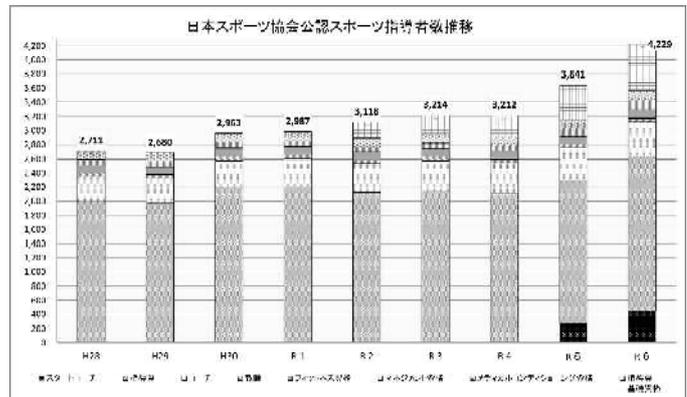
1 地域スポーツを支える指導者やボランティア等の確保と活用

県では、これまで各種指導者等に研修会や講習会（地域スポーツクラブスキルアップ研修会、中高年安全登山指導者講習会、スポーツエキスパート研修会等）を開催し、スポーツ指導者の資質向上に努めてきました。また、これまで総合型クラブを窓口としたスポーツ指導者登録・紹介システム「スポーツ指導者パスネットとやま」で、登録されたスポーツ指導者等の効果的な活用が図られるよう、機能の充実に努めてきましたが、今後は、富山県内のスポーツ・文化芸術活動の充実・発展に向け、スポーツ・文化芸術団体や学校等の要請に応じた適時かつ適切な指導者の検索・照会を行うシステム、「パスネットとやま（指導者人材バンク）」を設置して、更なる機能の充実に努めます。

県民のスポーツ活動を充実させるためには、それらを企画・運営する人材や、地域の実態や住民のニーズに応じた指導ができる総合型クラブのクラブスタッフや地域のスポーツ指導者、審判員等、スポーツ推進委員、パラスポーツ指導者などの人材を今後も継続して育成していく必要があります。

また、オリンピック・パラリンピック競技大会など国際大会で活躍したトップアスリートから直接指導を受けることは、特に子どもたちのスポーツに対する意欲や競技力が高まることから、今後もトップアスリートの活用に努めていくことが必要です。

さらに、平成27年から始まった富山マラソンでは、多くのボランティアが大会運営に参加しています。近年、スポーツイベントや大会において、ボランティアの重要性が増してきていることから、今後も、スポーツボランティアの意義や必要性を啓発し、ボランティアに対する意欲をもった人が、主体的にスポーツ活動を支援することができる機会の拡充を図るとともに、積極的な情報提供を行う必要があります。



資料：(公財) 富山県スポーツ協会調べ



富山マラソンでのボランティア

2 競技力の向上を担う指導者の育成

県では、アスリートを育成する指導者の資質の向上と資格取得を推進してきました。その中で、豊富な経験と高い見識に基づいた現場指導の充実を図るために、スーパートレーナーやトレーニング指導員を大会会場や練習会場へ派遣し、競技力の向上のためのコンディショニング調整改善に取り組んできました。

しかし、スーパートレーナーやトレーニング指導員の派遣要請が年々増加してきており、サポート拠点施設での現有職員の資格取得の促進や上級トレーニング指導員の配置の充実等に努める必要があります。

また、近年、指導者における不正行為や暴力・ハラスメント等の問題が発生していることから、指導者の不正行為の防止に向けて、研修・啓発活動の充実が必要となっています。



スーパートレーナーによる指導

3 スポーツ活動の顕彰



とやま県民スポーツ大賞受賞報告会

県では、全国的・国際的大会に出場する選手等に対する激励会をはじめ、特に優秀な成績を収めた選手・チーム・団体やその指導者、本県スポーツの推進に貢献した団体役職者や地域のスポーツクラブ等を県功労者表彰、県教育委員会表彰などにより顕彰しています。

また、令和3年に「とやま県民スポーツ大賞」を制定し、本県スポーツの普及・振興に尽力した個人や団体を表彰しています。

具体的方策

1 スポーツに関わる多様な人材の育成と活用の推進

(1) スポーツ活動を支える人材の育成

地域住民のスポーツ活動に対するニーズが多様化する中、今後、地域スポーツを一層推進するため、子どもや高齢者、障害者等、それぞれの発育・発達段階や健康状態などに応じた指導のできる質の高い指導者や、審判員等のスポーツ活動を支える人材の育成と活用に努めます。

- 地域におけるスポーツ推進の中核的な役割を担うスポーツ推進委員の資質向上を図るとともに、県生涯スポーツ協議会等のスポーツ関係団体と市町村のスポーツ推進委員との連携・協働を促進するため、県スポーツ推進委員協議会による講習会の開催等、

活動の活性化に向けた取組みを支援します。

- 地域住民が身近にスポーツ活動を親しむ場としての総合型クラブの運営を支えるクラブマネージャーや指導者等、充実した活動と安定した運営を支える人材の発掘、育成に努めるとともに、広域スポーツセンター事業等を通じて、クラブマネージャーの資質向上研修等の充実に努めます。
- パラスポーツの振興を図るため、パラスポーツ指導者やパラスポーツ審判員の養成と資質の向上を図ります。
- 地域住民のニーズに応じた指導ができるよう、研修会やシンポジウム等を開催し、指導者の資質向上を図るとともに、資格を持たない指導者に対しての資格取得を推進します。
- 指導力や熱意を有しながら指導機会に恵まれない地域の隠れた人材を確保し、県内各地域のスポーツ活動で「パスネットとやま（指導者人材バンク）」が一層活用されるよう、利用者に提供する指導者情報の内容の充実に努め、その周知に努めます。

（2）国際大会等で活躍したトップアスリートの活用の推進

子どもたちのスポーツに対する意欲の向上や競技力の向上を図るため、オリンピック・パラリンピック競技大会や国際大会等で日本代表選手として活躍したトップアスリート等の活用を推進します。

- 本県出身のトップアスリートやオリンピック・パラリンピック競技大会等の国際大会で活躍した選手を、市町村・総合型クラブ、競技スポーツ団体等が開催するスポーツイベントやスポーツ教室に指導者として派遣し、地域のジュニアアスリートの育成・強化や子どもへの体力向上事業に積極的に活用するための方策を検討します。



オリンピックによるスポーツ教室

（3）スポーツボランティアの育成と活用の推進

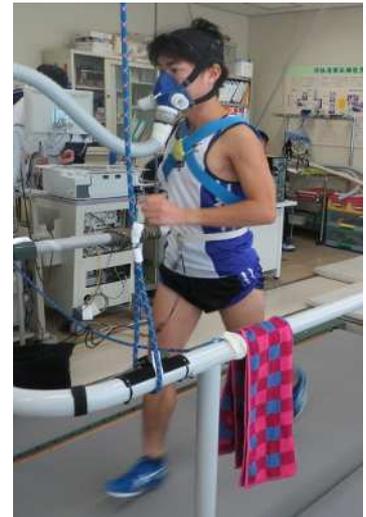
各種スポーツイベント等において、ボランティアは必要不可欠な存在であるとともに、ボランティアとして活動することは生きがいづくりや世代、職種等を超えた交流の輪の拡大にもつながることから、県民が継続的・積極的にボランティア活動に参加できる環境づくりに努めます。

- 関係機関やスポーツ団体、大学等と連携を図り、誰もがスポーツボランティアの体験をする機会を設けるなど、スポーツボランティア活動の普及啓発を図ります。
- 「富山マラソン」など県民参加型のスポーツイベント等において継続的なボランティア活動の機会づくりに努めます。

2 競技力の向上を担う指導者と、国レベルの強化拠点との連携強化

（1）スポーツ医・科学的サポートの充実と中央強化拠点との連携強化

全国や世界の檜舞台で活躍できるアスリートの育成には、最新の指導理論やスポーツ医・科学、リスクマネジメント等の知識に裏打ちされた実践が不可欠であることから、指導者の資質向上を図るとともに、スポーツ医・科学的サポートの充実に努めます。



スポーツ医・科学的サポート

- 本県選手に対するスポーツ医・科学的サポート機能を充実するため、サポート拠点施設での現有職員への資格取得の促進や、上級トレーニング指導員などトップレベルのトレーニング指導ができる人材の養成に努めます。また、(公財)県スポーツ協会や競技スポーツ団体、企業等と連携し、県内外の大学等で活躍し、指導意欲をもつ選手を指導者として育成・活用するための方策について検討します。
- 豊富な経験と高い見識をもつスーパートレーナーによるサポートの充実に努めるとともに、県・(公財)県スポーツ協会・競技スポーツ団体関係者とスーパートレーナーとの連携を密にすることで、練習拠点における指導者の育成強化に努めます。
- 指導者の不正行為の防止に向けて、体罰やハラスメントの防止に関する指導、ドーピング防止に関する指導・啓発を継続的に行い、コンプライアンス教育の推進に努めます。(再掲)
- JISS(国立スポーツ科学センター)やNTC(味の素ナショナルトレーニングセンター)等との連携により、指導者の研修機会の充実や戦術・戦略やトレーニング方法など、世界の最先端の情報入手や周知、北陸で初めて「ハイパフォーマンススポーツセンター」との連携機関として指定を受けた県総合体育センタートレーニング室を活用し、本県指導者の資質の向上を図るとともに、資格を持たない指導者に対しての資格取得を推進します。

(2) デジタル技術を活用できる人材の育成

- 戦略的・戦術的なサポートについて、指導者のこれまでの経験や積み上げてきた実績だけでなく、競技指導にIoTやDX等を活用するなど、新たな視点での競技力の向上を図ります。また、各種データを活用できる人材の育成が必要であり、アナリスト(情報・戦略面で高い専門性をもってサポートする人)の養成を支援し、デジタル技術等を活用する機会を創出します。(再掲)
- 富山県立大学等の研究機関との連携により、最先端動作分析などを行い、競技力向上に活かすことができるようデジタル技術の利用を推進します。

3 スポーツ活動に対する顕彰の充実

(1) 国際大会等で活躍したアスリートを称える顕彰の充実

国際大会等で活躍する本県のアスリートの姿は、県民に勇気と感動、子どもたちに夢と希望を与えるものであり、その社会的価値を評価し顕彰するとともに、県民に広く発信していきます。

- 国際大会等で特に優秀な成績を収めたアスリートやその指導者、また、オリンピック・パラリンピック競技大会メダリストの輩出に貢献した企業等の団体の功績を称え顕彰するとともに、感動を県民全体で共有するため、ホームページや各種メディアで広く発信していきます。

(2) 県民の多様なスポーツ活動を称える顕彰の充実

県民のスポーツに対する意欲の向上と多様なスポーツ活動を推進するため、地域においてスポーツの普及や指導に地道に取り組んでいる人などを広く顕彰していきます。

- 「とやま県民スポーツ大賞」が県民のスポーツ活動の一層の励みとなるよう、また、スポーツボランティアや地域・職場等においてスポーツの普及・振興に尽力した団体・個人等、これまで以上に広く顕彰できるよう、制度の充実に努めます。

施策目標達成のために参考とする指標

指標名及び指標の説明	現 況	R 1 1
スポーツ指導者数 (公財)日本スポーツ協会に登録している公認 スポーツ指導者数	4, 2 2 9人 (R 6)	5, 0 0 0人
パラスポーツ指導員数 (公財)日本パラスポーツ協会が定める「パラス ポーツ指導員」資格の取得者数(累計)	8 1 5人 (R 5)	9 2 5人

基本施策5 スポーツを通じた関係人口の創出と地域の活性化

施策目標

本県の豊かな自然やスポーツ施設等を活用し、国内外からの関係人口の創出と活力に満ちた地域づくり

現状と課題

1 地域を活性化させるスポーツイベント等

多くの人々が参加できるスポーツイベントの開催は、県民にスポーツを実施する機会を提供するだけでなく、会場周辺の地域に賑わいをもたらし、地域や経済を活性化させる効果が期待されます。また、スポーツイベントでは、応援する観客（みる）、運営するスタッフやボランティア（ささえる）など、大勢の方々が集い、関係人口の創出も期待されます。



富山マラソン

平成 27 年の北陸新幹線の開業にあわせて始まった富山マラソンや富山湾岸サイクリングでは、富山湾や立山連峰などの自然が魅力となっており、富山マラソンでは、国内外から 1 万 4 千人を超えるランナーが参加しています。

景観の良さ、ホスピタリティー豊かなボランティアのおもてなし、多くの地域住民による沿道応援等、多くのランナーから好評を得て、全ランナー数の約 1 割は、毎年参加しています。

本県には、国際大会や全国規模のスポーツ大会、全日本チームや大学の合宿等で使用されているスポーツ施設が整備されており、このようなスポーツ環境を生かしながら、県内各地域で様々なスポーツイベントや全国規模のスポーツ大会が、継続的かつ活発に開催されることで、地域の活性化や関係人口の創出に繋がると考えます。

このようなスポーツイベントやスポーツ大会は、開催や運営に要する支出だけでなく、大会参加者や観戦者等の多くの人々がその地を訪れ、宿泊し、飲食やグッズの購入等の様々な消費を誘発することから、市町村や関係機関等との一体的な連携を図りながら、多くの人々が参加できる魅力あるスポーツイベント等が開催され、地域の活性化や関係人口の創出に結びつけていく取組みを検討していくことが必要です。

2 スポーツと関わる機会を通じた地域の活性化

スポーツと関わることは、楽しみや喜びを感じたり、気分転換、ストレス解消が図られたりといった効果のほか、様々な立場にある人や組織が「あつまり」、「ともに」活動し、「つながる」ことにより、地域全体のスポーツへの関わりを促進することができます。

本県では、これまでもバスケットボール(富山グラウジーズ)、野球(富山サンダーバーズ)、

サッカー（カターレ富山）のプロスポーツチームのホームゲームをはじめ、バレーボールやホッケー、バドミントン、ハンドボール等、国際大会や地元チームが所属する日本リーグなどのトップレベルの試合が定期的で開催されています。

特に、プロスポーツチーム等は、魅力あるゲームの開催に努めるとともに、子どもたちに無料で観戦できる取組みや地域貢献活動にも積極的に取り組んでおり、直接会場に足を運び、試合観戦や交流の機会をつくることは、スポーツの普及のみならず、入場料や関連グッズの売り上げなど経済の活性化にもつながると期待されることから、地元チームを応援する機運醸成に努める必要があります。

3 スポーツ情報等の発信

県民が主体的にスポーツ活動に取り組むためには、スポーツに関する情報を容易に入手できる環境が必要であり、本県では平成12年に「とやまスポーツ情報ネットワーク」を構築し、スポーツイベントや施設など、県内の様々なスポーツ情報を発信しています。

今後も、県民が興味や関心を持つことができるように、また、初めての方でも参加したいと思うことができるように、各種のスポーツ情報の充実を図るとともに、SNSを活用するなど効果的な情報発信を行う必要があります。

また、県内で開催されるスポーツイベントやプロスポーツチーム等の試合の日程・場所等の情報は、県・各チーム等のホームページ、新聞などで情報を発信しています。より多くの県民が競技会場へ足を運び、観戦してもらえるよう、スポーツ観戦の魅力やスポーツイベント等を積極的に発信していくことが必要です。



とやまスポーツ情報ネットワークホームページ

具体的方策

1 地域を活性化させるスポーツの推進

(1) 本県の魅力を活かしたスポーツイベント等の開催

富山湾や3,000m級の山々が連なる立山連峰など、本県の豊かな自然環境等を活かしたスポーツイベントや県内各地の地域特性を活かしたスポーツイベント等の充実を図めます。

- 県内外、海外からの多数のランナーが集う、県内最大級のイベントである富山マラソンを支援します。
- 子どもから高齢者まで誰もが気軽に参加できるウォーキングイベントを県内各地で開催し、各市町村等と連携し、会場の地域特性を活かした観光PRを行うなど、地域活性化に向けた活動を一層展開していきます。
- 国内外に本県の豊かな自然や歴史・文化などの魅力を発信するため、市町村や関係機

関等と連携し、スポーツとコラボレーションした大会やスポーツイベントの企画・誘致に努めます。

(2) 新たな武道館整備等を契機とするスポーツ環境の魅力向上

武道を中心とする公式大会や練習会等に加え、武道競技以外でも活用可能な「武道競技の振興・競技力向上に寄与する施設」の整備を推進します。(再掲)

- 武道の公式大会や日常の稽古、指導者講習会で利用しやすい施設とし、武道競技の振興・競技力の向上に努めます。(再掲)
- 武道以外の県民の日常的なスポーツ利用、冬季のスポーツの場となる施設とし、県民が様々なスポーツ活動に取り組める場とすることで、スポーツ振興を図ります。(再掲)
- 武道館整備を含む県総合運動公園と周辺スポーツ施設等の連携と魅力を向上し、地域の活性化や関係人口の創出を目指します。

(3) スポーツを通じた交流の促進と関係人口の創出

国や年齢、性別、障害の有無等に関係なく人と人が交流することは、相互理解の促進や地域の一体感と活力の醸成とともに、関係人口の創出にもつながることから、スポーツを通じた交流の一層の促進に努めます。このため、県や市町村、スポーツ団体、民間企業等が一体となった「県版スポーツコミッション」を設立し、関係人口の創出と地域活性化を推進します。

- 本県の優れたスポーツ環境を県内外に発信し、市町村や競技スポーツ団体等との連携や公共交通機関の利便性を活かして、本県のスポーツ施設での大学、国内トップレベルのチームや日本代表、海外チームの合宿、全国規模スポーツ大会等の誘致に努めます。
- 関係団体と連携しながら、スポーツ活動を通じた国内外の人々との交流が促進されるよう努めるとともに、中国遼寧省・韓国江原道・ロシア沿海地方との「環日本海インターハイ親善交流大会」や「日独スポーツ少年団同時交流事業」を今後も継続するとともに、富山マラソンでは、引き続き、海外参加目標数の達成に向け、海外へのPRを推進します。
- スポーツ教室や大会、ボランティアなどに参加できる機会の充実に努め、関係人口の創出に努めます。

2 スポーツと関わる機会づくりの推進

(1) トップアスリートと交流する機会づくりの推進

スポーツと関わることは、県民のスポーツへの関心を高め、スポーツのすそ野を広げる役割を果たすとともに、高度な技能を間近で見ることによる競技力の向上など、本県スポーツの振興に大きく貢献します。また、入場料やグッズ購入等の消費に加え、関連業種に経済効果が及ぶことが期待されることから、トップアスリートと交流する機会づくりに努めます。「県版スポーツコミッション」では、本県に拠点を置くスポーツチーム等と連携して地域貢献・地域活性化の取組みを推進します。

- 本県に拠点を置くプロチームや日本リーグ等に加盟するチームの試合への観戦者が拡大するよう、各チームや企業、競技スポーツ団体、市町村等と連携を図り、地元チームを応援する環境づくりに努めます。
- 競技スポーツ団体や市町村等と連携を図りながら、トップアスリートと交流する機会づくりを推進します。

(2) プロスポーツ等と連携したスポーツの魅力の発信

本県に拠点を置くプロチームや日本リーグ等に所属するトップレベルのチームが、学校や地域等で取り組む地域貢献活動を一層推進し、地域の活性化を図ります。

- 子どもたちが気軽に観戦できる機会の創出やスポーツの楽しさや喜びを体験するイベントの開催、子どもたちへの指導や普及活動など、各チームが取り組む地域貢献活動を推進し、スポーツのすそ野の拡大や各種スポーツの魅力の発信に努めます。
- 本県に拠点を置くプロチームやトップスポーツチームと地域との連携をさらに促進し、選手との触れ合いや情報発信を通じた地元チームを応援する機運の醸成に努めます。
- 本県に拠点を置くトップスポーツチームがプロとアマチュア、競技種目の枠を越えて連携を図り、より充実した活動を展開できるよう、各クラブや企業、スポーツ関係団体等の連携・協力体制の整備に努めます。



©TOYAMA THUNDERBIRDS



©TOYAMA GROUSES/b-league



©KATALLERTOYAMA

県内プロスポーツチームによるジュニア指導

3 スポーツ情報等の発信

(1) スポーツ情報の効果的な発信

県民がそれぞれの興味・関心等に応じ、スポーツを「する」「みる」「ささえる」活動に参画し、より一層スポーツを楽しむことができるよう、最新のスポーツ情報を収集・把握し、積極的な情報の発信に努めます。

- 県内のスポーツ大会やスポーツイベント、スポーツ施設等の情報を提供するとともに、スポーツ観戦の魅力や最新のスポーツイベント等の情報と会場地周辺の観光の紹介などをあわせて、県内外に向けた積極的な情報発信に努めます。
- 県民のスポーツへの興味・関心を高めるため、新聞・テレビなどマスメディアに対して、各種スポーツ情報を積極的に提供するとともに、SNS等を活用し、初めての方でも参加したくなる、スポーツ活動のきっかけとなるような効果的な情報提供に努めます。

す。

(2) 本県のスポーツ環境のPRと利便性の向上

多様な主体がスポーツに参加する機会の創出を促進するとともに、様々な人がスポーツを通じて「あつまり、ともに、つながる」環境や、誰もが気軽にスポーツに「アクセスできる」環境づくりを進めるため、本県の優れたスポーツ環境を県内外に発信し、スポーツ施設等の利便性の向上に努めます。

- 県内の様々なスポーツ施設等をインターネットやスマートフォンから手軽に検索し、予約も可能な施設予約システムを市町村と共同で導入し、県民の利便性の向上に努めます。
- 「県版スポーツコミッション」において、県内の充実したスポーツ施設等の情報や様々なスポーツイベント・スポーツ大会の開催情報などを一元的に情報発信し、本県の優れたスポーツ環境の県内外へのPRに努めます。

施策目標達成のために参考とする指標

指標名及び指標の説明	現 況	R 1 1
県内プロスポーツチームのホームゲーム年間観客総数 (バスケットボール、サッカー、野球)	148,148人 (R5)	<u>235,000人</u>
富山マラソンにおける海外参加目標数の達成率	100% (R6)	100%

第4章 プランの実現に向けて

1. 推進体制

- 本計画の推進にあたっては、スポーツに係る関係機関・団体等との連携を図るとともに、学校体育やスポーツ医・科学等の各種の専門的知見を取組みに反映させるために設置した富山県スポーツ推進審議会が中心となって行います。
- 同推進審議会においては、条例により、「県のスポーツの推進に関する事項について調査審議する」とされていることから、同推進審議会が中心となって、計画の進行管理を行います。
- また、県は、計画の周知を図りつつ、市町村及び市町村教育委員会、関係機関、スポーツ関係団体などとの連携体制を強化しながら、同計画に基づく取組みを推進します。

2. プランの評価等

- 計画の進捗状況の評価は、施策目標の達成状況を客観的に把握・評価するために設けた「参考となる指標」を用いて行います。
- 具体的には、富山県スポーツ推進審議会を定期的で開催し、最新の数値に基づいて、これまでの参考となる指標の推移や目標年度（令和11年度）との関係を踏まえ、目標の達成状況の評価を行います。
- また、県政世論調査等により、定期的に県民のスポーツ活動に対する実態やニーズの把握を行います。
- 目標の達成のために必要があると認められる場合には、富山県スポーツ推進審議会における検討を経て、取組内容の充実を図ります。

変更・追加等 (案)

<本文>

No.	変更・追加	ページ 行	変更・追加 (案)
第1章 プランの概要 4. プランの体系 基本施策5「スポーツを通じた関係人口の創出と地域の活性化」			
1	数値の変更	P 3 【参考とする指標】	※下線部を下記のとおり変更 ●県内プロスポーツチーム(バスケットボール、サッカー、野球) のホームゲーム年間観客総数 160,000人→ <u>235,000人</u>
第3章 スポーツ推進の具体的方策 基本施策1「県民誰もがスポーツに親しむことができる環境の充実」			
2	数値の変更	P 8 23 行目 25 行目	※下線部を下記のとおり変更 52.0% (R5) → <u>52.5% (R6)</u> 21.8% (R5) → <u>21.3% (R6)</u>
基本施策5「スポーツを通じた関係人口の創出と地域の活性化」			
3	文の追加	P 32 15 行目～17 行目	※下線部を下記のとおり追加 <u>このため、県や市町村、スポーツ団体、民間企業等が一体となった「県版スポーツコミッション」を設立し、関係人口の創出と地域活性を推進します。</u>
4	文の追加	P 32 35 行目～36 行目	※下線部を下記のとおり追加 <u>「県版スポーツコミッション」では、本県に拠点を置くスポーツチーム等と連携して地域貢献・地域活性化の取組みを推進します。</u>
5	文の追加	P 34 10 行目	※下線部を下記のとおり追加 <u>「県版スポーツコミッション」において、</u>
6	数値の変更	P 34 施策目標達成のために参考とする指標	※下線部を下記のとおり変更 ●県内プロスポーツチーム(バスケットボール、サッカー、野球) のホームゲーム年間観客総数 160,000人→ <u>235,000人</u>

<概要>

No.	変更・追加	ページ 行	変更・追加 (案)
基本施策5「スポーツを通じた関係人口の創出と地域の活性化」			
7	数値の変更	参考指標	※下線部を下記のとおり変更 ●県内プロスポーツチーム(バスケットボール、サッカー、野球) のホームゲーム年間観客総数 160,000人→ <u>235,000人</u>

変更・追加等（案）

＜本文＞

No.	変更・追加	ページ 行	変更・追加（案）
第1章 プランの概要 4. プランの体系 基本施策5「スポーツを通じた関係人口の創出と地域の活性化」			
1	数値の変更	P 3 【参考とする指標】	※下線部を下記のとおり変更 ●県内プロスポーツチーム（バスケットボール、サッカー、野球）のホームゲーム年間観客総数 160,000人→ <u>235,000人</u>
第3章 スポーツ推進の具体的方策 基本施策1「県民誰もがスポーツに親しむことができる環境の充実」			
2	数値の変更	P 8 23行目 25行目	※下線部を下記のとおり変更 52.0%（R5）→ <u>52.5%（R6）</u> 21.8%（R5）→ <u>21.3%（R6）</u>
基本施策5「スポーツを通じた関係人口の創出と地域の活性化」			
3	文の追加	P 32 15行目～17行目	※下線部を下記のとおり追加 <u>このため、県や市町村、スポーツ団体、民間企業等が一体となった「県版スポーツコミッション」を設立し、関係人口の創出と地域活性を推進します。</u>
4	文の追加	P 32 35行目～36行目	※下線部を下記のとおり追加 <u>「県版スポーツコミッション」では、本県に拠点を置くスポーツチーム等と連携して地域貢献・地域活性化の取組みを推進します。</u>
5	文の追加	P 34 10行目	※下線部を下記のとおり追加 <u>「県版スポーツコミッション」において、</u>
6	数値の変更	P 34 施策目標達成のために参考とする指標	※下線部を下記のとおり変更 ●県内プロスポーツチーム（バスケットボール、サッカー、野球）のホームゲーム年間観客総数 160,000人→ <u>235,000人</u>

＜概要＞

No.	変更・追加	ページ 行	変更・追加（案）
基本施策5「スポーツを通じた関係人口の創出と地域の活性化」			
7	数値の変更	参考指標	※下線部を下記のとおり変更 ●県内プロスポーツチーム（バスケットボール、サッカー、野球）のホームゲーム年間観客総数 160,000人→ <u>235,000人</u>

資料 5

富山県スポーツ推進プラン（案）改定スケジュール

年度	月	会議等	内容
R5	3	スポーツ推進審議会 3/21（木）	1 諮問 ・県のスポーツプランの改定について 2 審議事項 ・本県スポーツ振興の現状と課題 ・スポーツプラン改定スケジュール
R6	7	スポーツ推進審議会① 7/26（金）	審議事項 ・新たなスポーツプラン骨子案について
	8	県政世論調査実施 （8/9（金）～9/6（金））	
	11	スポーツ推進審議会② 11/21（木）	審議事項 ・新たなスポーツプラン素案について
	12	パブリックコメントの実施 （12/23（月）～1/19（日））	・富山県スポーツ推進プラン（案）の意見募集
	3	県政世論調査結果の公表 スポーツ推進審議会③ 3/21（金）	審議事項 ・答申（案）の検討、決定
			答申
R7	4	教育委員会会議での報告	
		プラン改定・公表	

参考資料

- ①パブリックコメントにおける意見募集の結果について
- ②「富山県スポーツ推進プラン（案）」に対する委員からのご意見の概要及び県の考え方

パブリックコメントにおける意見募集の結果について

令和7年3月

富山県生活環境文化部スポーツ振興課

富山県スポーツ推進プラン（案）に対して、県民の皆様から意見を募集しましたところ、3件（3名）のご意見をいただきました。

いただいたご意見につきましては、計画策定にあたっての参考とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

1 募集期間

令和6年12月23日（月）～ 令和7年1月19日（日）

2 募集方法

（1）閲覧場所

富山県ホームページ、県庁（県民サロン、情報公開総合窓口、スポーツ振興課）、各地方県民相談室（高岡・魚津・砺波）、県立図書館

（2）意見の提出方法

郵送、ファクシミリ、電子メール

3 意見提出件数

3件（3名）

4 意見の概要と意見に対する考え方

別紙のとおり

「富山県スポーツ推進プラン（案）」に対するご意見の概要及び県の考え方

○基本施策2「運動好きな子どもの育成と地域と連携した学校体育・スポーツの充実」について

No.	ご意見の概要	県の考え方
1	<p>運動部活動の地域移行は、受け皿となる団体の整備、指導者の確保、活動場所等の課題があげられる。中でも受け皿となる地域クラブやスポーツ少年団などで、子どもたちのニーズに対応できるのか心配である。</p> <p>また、現在の地域クラブ等の情報はどこからどのように知り得ることができるのか、今後の情報も含めわかるとよい。(P17)</p>	<p>国の計画においては、運動が苦手な生徒や障害のある生徒も含めて、どの生徒も地域においてスポーツに親しむ機会が確保されるよう、地域におけるスポーツ環境の整備充実を推進するとしています。</p> <p>県では、生徒の持続可能で多様なスポーツ環境を構築するため、運動部活動の地域連携・地域クラブへの展開に向けた市町村の取組みを支援します。また、スポーツ少年団や地域クラブ等の主体的な活動を支援し、子どもたちの多様なニーズに対応すべく、スポーツ機会の充実を図るとともに、研修会を定期的に行うなど指導者の資質向上に努めます。さらに、教員と専門的な技術指導力を有する地域のスポーツ指導者等が協力・連携を図り、学校体育・スポーツ活動の一層の充実に努めます。具体的には、指導者を検索・照会するシステム、「パスネットとやま（指導者人材バンク）」を活用するなど、各学校が地域のスポーツ人材と連携・協力する体制の整備に努めます。また、県内のスポーツ少年団、地域クラブ等の最新のスポーツ情報を収集・把握し、積極的な情報の発信に努めます。</p>

○基本施策3「全国や世界の檜舞台で活躍できる選手の育成」について

No.	ご意見の概要	県の考え方
2	<p>未来のアスリート発掘事業で育ったジュニア層の選手たちの目標となるようなトップアスリートの資質・競技力向上に係る最新の機器の整備等により一層取り組んで欲しい。(P22)</p>	<p>選手強化を推進するため、ソフトボールや軟式野球では、投球をデータ化し、球速、球種、球質の向上、投球動作や配球を分析・活用できる機器の導入や、ハンドボールやホッケーでは、撮影から編集までできるAIカメラや、競技中の心拍数を測定・数値化し、運動強度を判断するためのサポート機器を導入するなど、新たな視点での競技力向上事業を実施しています。</p> <p>また、IoT や DX 等を活用できる指導者の育成も急務であり、専任のアナリスト（情報・戦略面で高い専門性をもってサポートする人）の養成を支援し、デジタル技術等を活用する機会を創出することで、トップアスリートの資質・競技力の向上に努めます。</p>

○基本施策5「スポーツを通じた関係人口の創出と地域の活性化」について

No.	ご意見の概要	県の考え方
3	<p>新たな武道館整備等を契機とするスポーツ環境の魅力向上に向けて、県総合運動公園をさらに人が集まり、気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりと同時に、スポーツを通じた地域活性化や魅力ある本県のPRができる環境も作っていくべきだ。(P32)</p>	<p>新たに整備する武道館は、武道の公式大会や日常の稽古、指導者講習会で利用しやすい施設とし、武道競技の振興・競技力の向上に努めます。また、武道以外の県民の日常的なスポーツ利用、冬季のスポーツの場となる施設とし、県民が様々なスポーツ活動に取り組める場とすることで、スポーツ振興を図ります。さらに、武道館整備を含む県総合運動公園と周辺スポーツ施設等の連携と魅力を向上し、地域の活性化や関係人口の創出を目指します。</p> <p>なお、県では、現在、県版スポーツコミッションの設立に向け準備を進めており、本県の優れたスポーツ環境の県内外へのPRやプロ・トップスポーツチームと地域との連携促進等を通じて、スポーツによる県全体の活性化に取り組みます。</p>

参考資料②

「富山県スポーツ推進プラン（案）」に対する委員からのご意見の概要及び県の考え方

○プランの体系「施策目標達成のための参考とする指標」について

No.	ご意見の概要	県の考え方
1	<p>「運動やスポーツをすることが好き・やや好き」と回答した児童生徒の割合について</p> <p>小学校、中学校ともに90%以上としてもよいのではないか。中学校の数値を低くする根拠が不明である。</p>	<p>R5のデータでは、小学校が90.3%、中学校が83.5%で、小学校で既に90%を超え、また、小学校と中学校で5%以上の開きがある状態にあります。</p> <p>今回のプランでは、小学校、中学校ともに、現状から2～3%上乘せした数値を目標に設定しました。</p> <p>今後とも、運動好きな子どもの育成と体力向上の取組みを推進してまいります。</p>
2	<p>国スポ、全国高校総体、全中大会等における上位入賞者数について</p> <p>48以上としているが、10単位の切りの良い数値としてはどうか。</p>	<p>「富山県総合計画」(H30策定)の県民参考指標では、H29現在で46のところ、「48以上(R11年度)」として設定しております。</p> <p>直近のR5現在では、33という状況にあることから、今回のプランにおいても、引き続き参考指標を48以上としたいと考えております。県としては、引き続き、トップアスリートの育成や本県競技力の向上への取組みを推進してまいります。</p>
3	<p>パラスポーツ指導員資格の取得者数(累計)について</p> <p>925人としているが、10単位の切りの良い数値としてはどうか。</p>	<p>現行プラン策定時(H30)の現況685人を基本に、毎年20人ずつ資格取得者を増やすことを目標として、令和11年度の参考指標を925人としています。</p> <p>※富山県障害者計画(第5次)(R6策定：県厚生部障害福祉課)においても、同様の設定を行っている。</p> <p>直近のR5では、815人となっており、今回のプランでも目標値としては925人と設定したいと考えております。</p> <p>引き続きスポーツに関わる多様な人材の育成と活用への取組みを推進してまいります。</p>
4	<p>県内プロスポーツチームのホームゲーム年間観客総数について</p> <p>160,000人とあるが、現実として、ホームゲームの数に収容人数の最大数を掛け合わせて求めた総数と比較してどの程度なのか。</p>	<p>ご質問のあった「総数」としては、R5年度ベースで試算した場合、年間819,269人となります。</p> <p>また、現行プラン策定時(H30)の考え方としては、ホームゲーム年間観客総数(142,780人)を基準に、その後の伸び率を考慮し、160,000人(R11)を参考指標として設定したところであり、総数と比較すると約19.5%となります。</p> <p>直近のR5は、148,148人となっており、今回の改定でも同様に設定したいと考えております。</p> <p>引き続き、ホームゲームへの観客動員数が拡大するよう、トップアスリートと交流する機会づくりに努めるとともに、各チームや企業、競技スポーツ団体、市町村等と連携を図りながら、地元チームを応援する環境づくりを推進してまいります。</p>

5	<p>富山マラソンにおける海外参加目標数の達成率について</p> <p>関係人口の創出を念頭に置けば、例えば、「県外及び海外参加者数の全体に占める割合」とする考え方もあるのではないかな。</p>	<p>富山マラソンについては、第1回から、交流人口の拡大とともに、県民総参加によるスポーツ振興を、その開催目的に設定しています。これは、県内外を問わず、多くのランナーに参加いただき、賑わい創出による地域や経済の活性化を目指しているものです。</p> <p>また、スタート地点及びスタート直後の混雑状況により、一部のランナーの走行に支障を来していることから、参加者数の全体枠を増やすことは出来ないという制約がある中ではありますが、現行プランでも設定している「海外参加目標数」は、過去実績では最多 200 名（定員比 1.5%）と全体枠へ及ぼす影響が小さいながら、今後も拡大すべき関係人口の指標として相応しいという考え方のもと設定しているものです。</p> <p>引き続き、参加される県内外のランナーの満足度が向上していくよう努めてまいります。</p>
---	---	--